

泊発電所 敷地前面海域の地質層序 (補足説明資料)

平成28年8月26日
北海道電力株式会社

1. 敷地前面海域の地質層序

① 敷地前面海域の地質層序

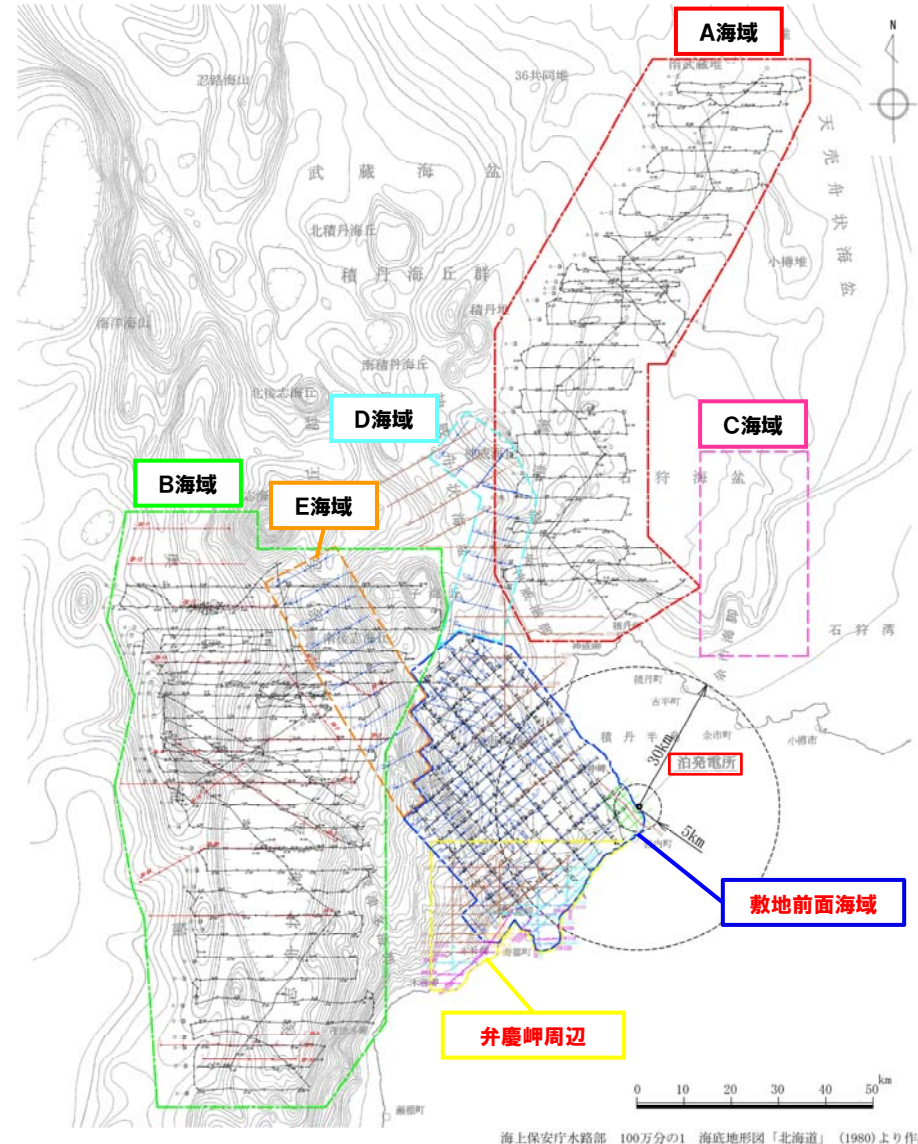
- 敷地前面海域は、敷地から汀線方向約50km、沖合方向約35kmの範囲の海域である。
- 弁慶岬周辺は、敷地前面海域南西部のデータ補強を目的に海上音波探査を実施していることから、当該範囲についても、敷地前面海域に含む。
- 海上音波探査記録の解析による地層区分及び文献調査等による各層の地質時代の対比により、敷地前面海域の地質層序を作成している。

敷地前面海域の地質層序

地質時代		記号
敷地前面海域		
第四紀	完新世	I
	後期	II
	中期	III
	前期	IV
新第三紀	鮮新世	V
	中新世	VI
古第三紀	漸新世	
	始新世	
	暁新世	VII
先第三紀		

VII層（貫入岩）※VII層は尻別川西方付近に局部的に分布し、新第三紀鮮新世に形成された貫入岩と判断される。

凡例	
敷地前面海域	A-①, 200m 音波探査測線（北海道電力㈱, 1982年） （水中放電, シングルチャンネル）
A海域	30-2 音波探査測線（北海道電力㈱, 2001年） （エアガン, マルチチャンネル）
B海域	C-11 音波探査測線（北海道電力㈱, 1997年） （エアガン(G1ガン), マルチチャンネル） （チャープソナー, シングルチャンネル）
C海域	S.M-1W 音波探査測線（北海道電力㈱, 2006年） （ウォーターガン, マルチチャンネル） （ブーマー, マルチチャンネル）
D海域	2 音波探査測線（北海道電力㈱, 1980年） （水中放電, シングルチャンネル）
E海域	B-①, 200m 音波探査測線（北海道電力㈱, 1982年） （ウォーターガン, シングルチャンネル）
弁慶岬周辺	EWLA 音波探査測線（北海道電力㈱, 2012年） （エアガン, マルチチャンネル）
	EWTS 音波探査測線（北海道電力㈱, 2012年） （エアガン(沿岸部), マルチチャンネル）
	EW4W 音波探査測線（北海道電力㈱, 2012年） （ウォーターガン, マルチチャンネル）
	EW3B 音波探査測線（北海道電力㈱, 2012年） （ブーマー, マルチチャンネル）
	H2S 音波探査測線（北海道電力㈱, 2013年） （ウォーターガン, 油圧インパクト, マルチチャンネル）



海上音波探査測線図

2. 敷地前面海域の地層区分

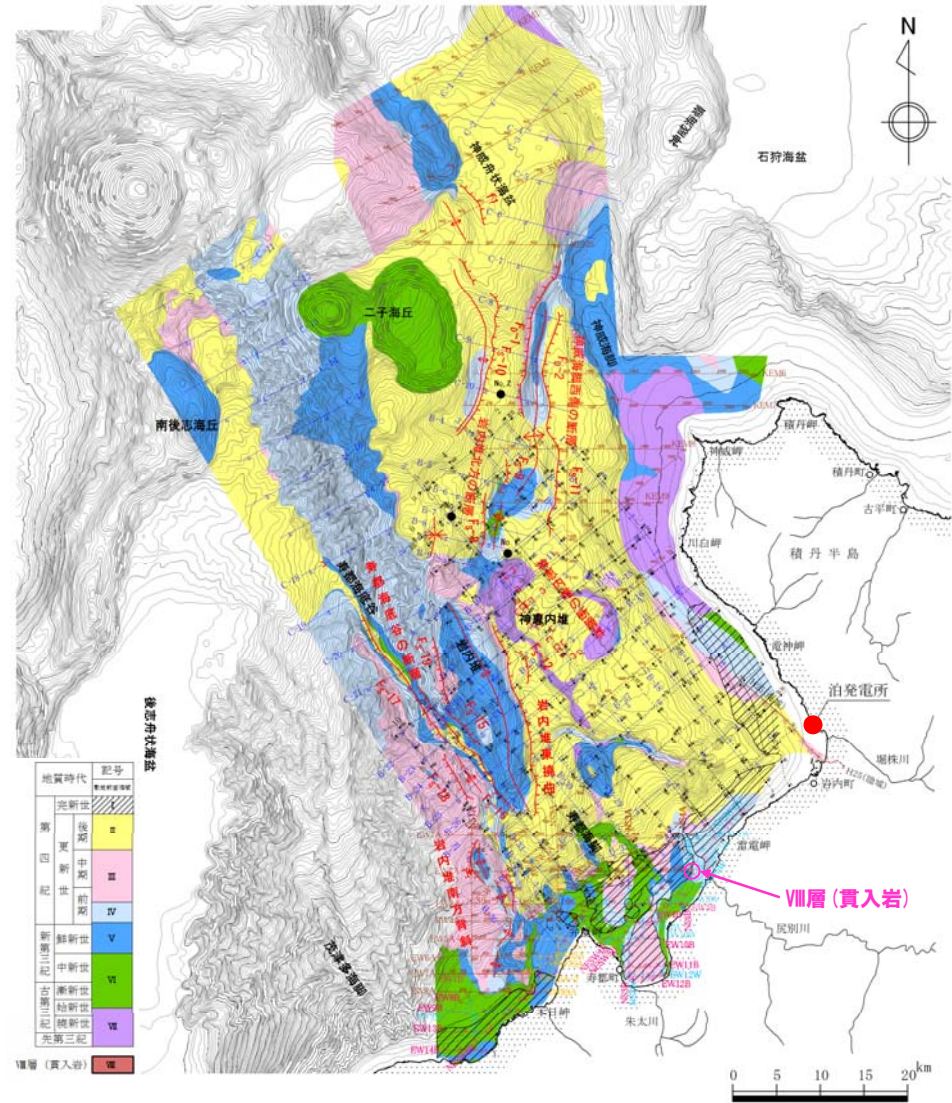
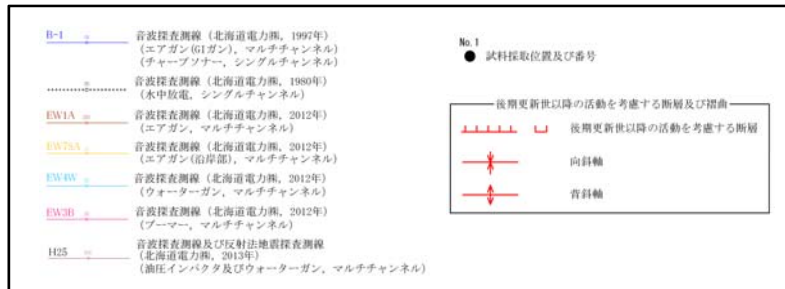
① 敷地前面海域の地層区分

- 敷地前面海域における海上音波探査の測線配置は、汀線方向及び沖合方向に約4km間隔の格子状を基本とし、浅部から深部の音波探査を実施している。
- 敷地前面海域の地層は、海上音波探査で認められる反射面の連続性、下位層との不整合関係、堆積構造及び反射パターンの特徴により、上位からⅠ層～Ⅶ層及びⅧ層（貫入岩）に区分している。

敷地前面海域における海上音波探査の仕様

音源	エアガン (G1ガン)	エアガン	ウォーターガン	プーマー	水中放電	チャープソナー
受信形態	マルチチャンネル		マルチチャンネル		シングルチャンネル	
探査範囲	敷地前面海域	弁慶岬周辺	弁慶岬周辺	弁慶岬周辺	敷地前面海域	敷地前面海域
対象深度の目安	2,000m～3,000m程度		375m～750m	375m以浅	750m以浅	海底面下10m程度

凡例



敷地前面海域の海底地質図

2. 敷地前面海域の地層区分

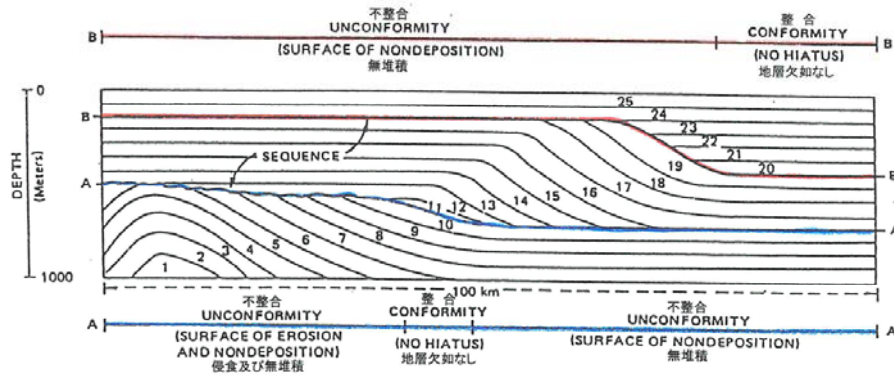
②各層の特徴 (-1/2-)

- 各層における地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴を示す。
- 各層における地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴については、P6～P10に代表的な測線を例示する。
- また、松岡・梅戸（1988）における地層境界認定の概念と不整合の形態を次頁に示す。

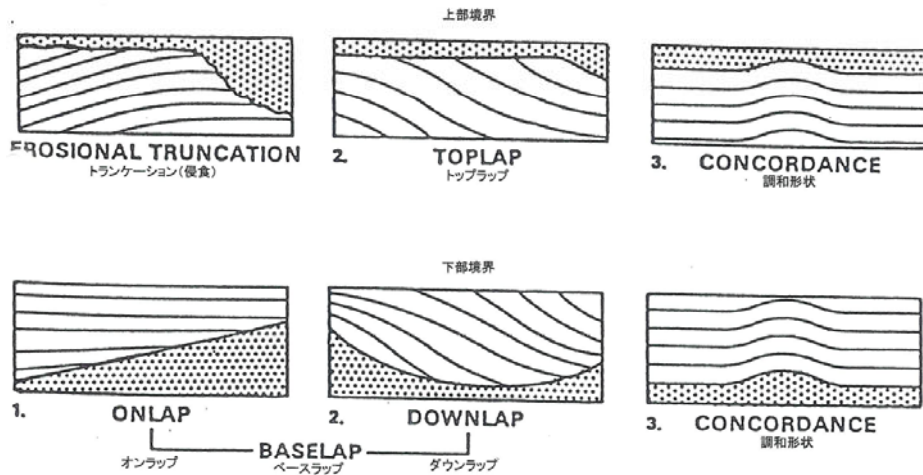
地層区分	地質時代	地層境界及び堆積構造	反射パターンの特徴
I層	完新世	○大陸棚付近の沿岸部に分布し、下位層を不整合関係で覆う。	○主に弱いコントラストの成層パターンが認められる。
II層	後期更新世	○沿岸部ではIII層をオンラップ状又はダウンラップ状の不整合関係で覆う。 ○沖合部ではIII層をほぼ整合関係で覆う。 ○IV層以下とはオンラップ状の不整合関係で接する。	○層厚が薄い場合には、主に不明瞭な成層パターンが認められる。 ○沖合部、特に凹部では、弱いコントラストの成層パターンが認められる。
III層	中期更新世 ～前期更新世	○IV層の凹部ではほぼ整合関係で覆うが、凸部ではオンラップ状の不整合関係で覆う。 ○V層以下とはオンラップ状の不整合関係で接する。	○主に弱いコントラストの成層パターンを示し、不明瞭な成層パターン等が一部に認められる。
IV層	前期更新世	○V層の凹部では整合関係で覆うが、一部V層をオンラップ状の不整合関係で覆う。 ○VI層以下とはオンラップ状の不整合関係で接する。	○主に弱いコントラストの成層パターンが認められる。 ○不明瞭な成層パターン等がわずかに認められる。
V層	前期更新世～鮮新世	○主にVI層以下をオンラップ状又は調和形状の不整合関係で覆い、一部VI層をダウンラップ状の不整合関係で覆う。 ○VI層の凹部では、一部整合関係で覆う。	○主に弱いコントラストの成層パターンもしくは強いコントラストの成層パターンが認められる。 ○断続した成層パターン等が一部に認められる。 ○乱れた反射パターン等がわずかに認められる。
VI層	後期中新世～始新世	○VII層をオンラップ状又は調和形状の不整合関係で覆う。	○主に不明瞭な成層パターンが認められ、一部弱いコントラストの成層パターン、あるいは断続した成層パターンが認められる。
VII層	始新世	○音響基盤	○主に白ヌケパターンが認められ、一部に乱れた反射パターンが認められる。
VIII層	鮮新世	○尻別川西方付近において、V層に貫入関係で接する。	○無層理パターンを示す。

2. 敷地前面海域の地層区分

②各層の特徴 (-2/2-)

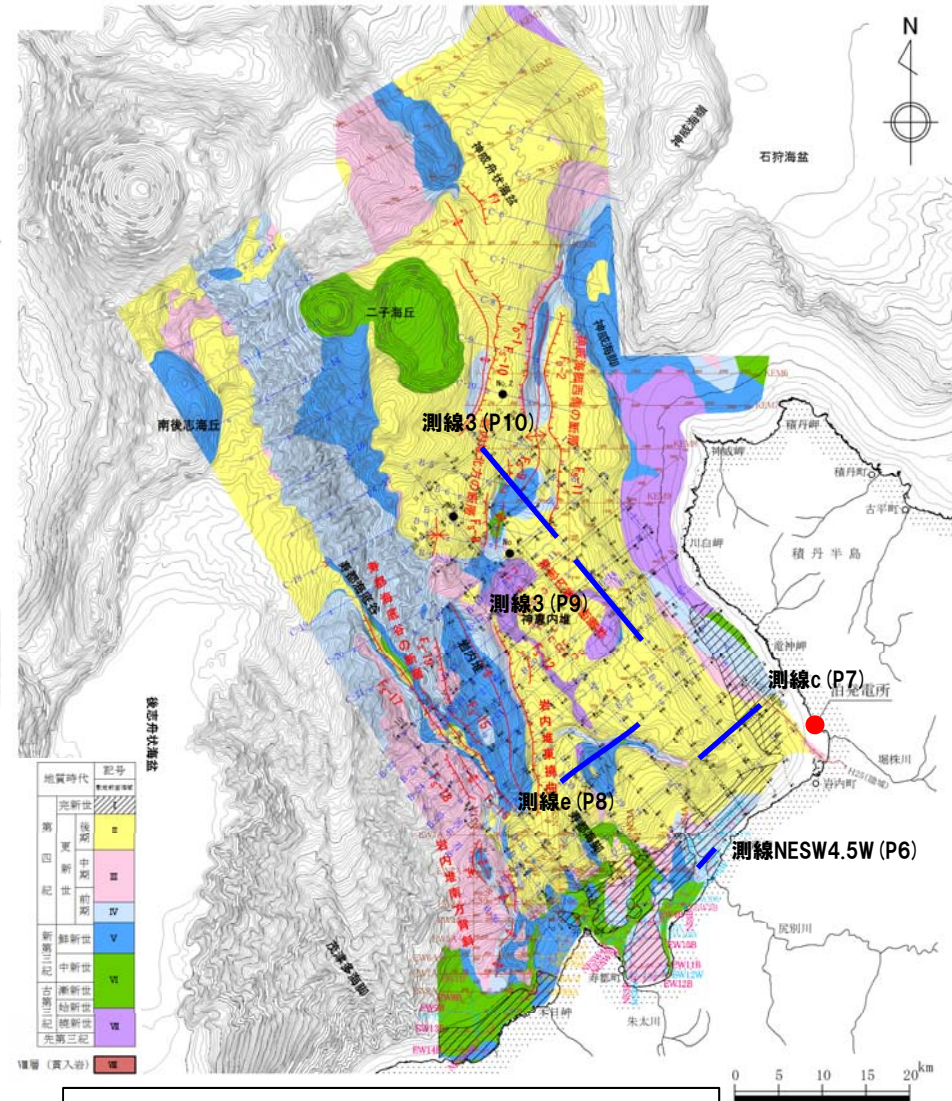


(a) 地層境界認定の概念



(b) 不整合面の形態

反射記録断面に見られるパターン (松岡・梅戸, 1988に加筆)



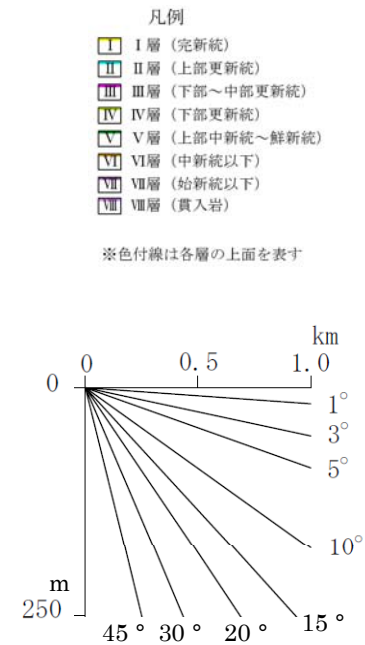
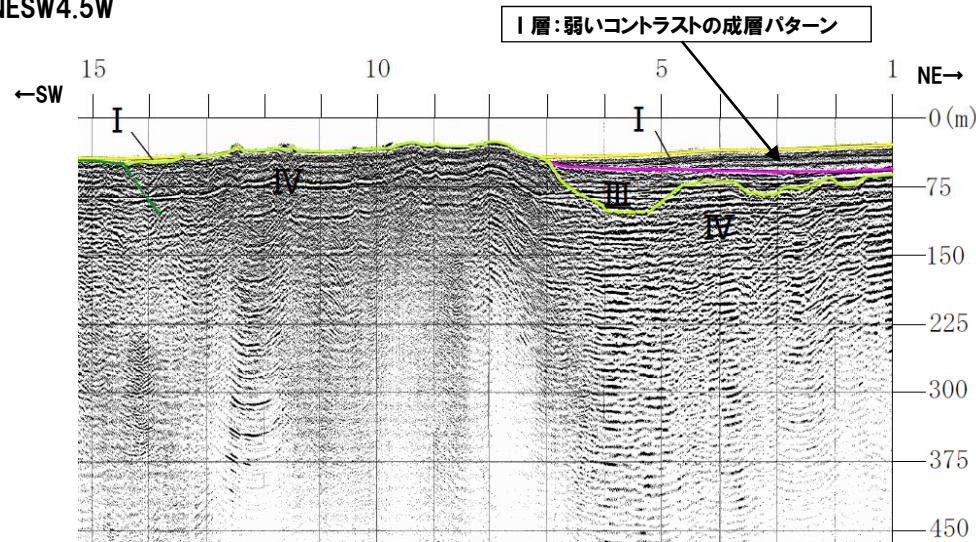
— : 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴を例示した測線

敷地前面海域の海底地質図

2. 敷地前面海域の地層区分

③-1 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴の例 (測線NESW4.5W)

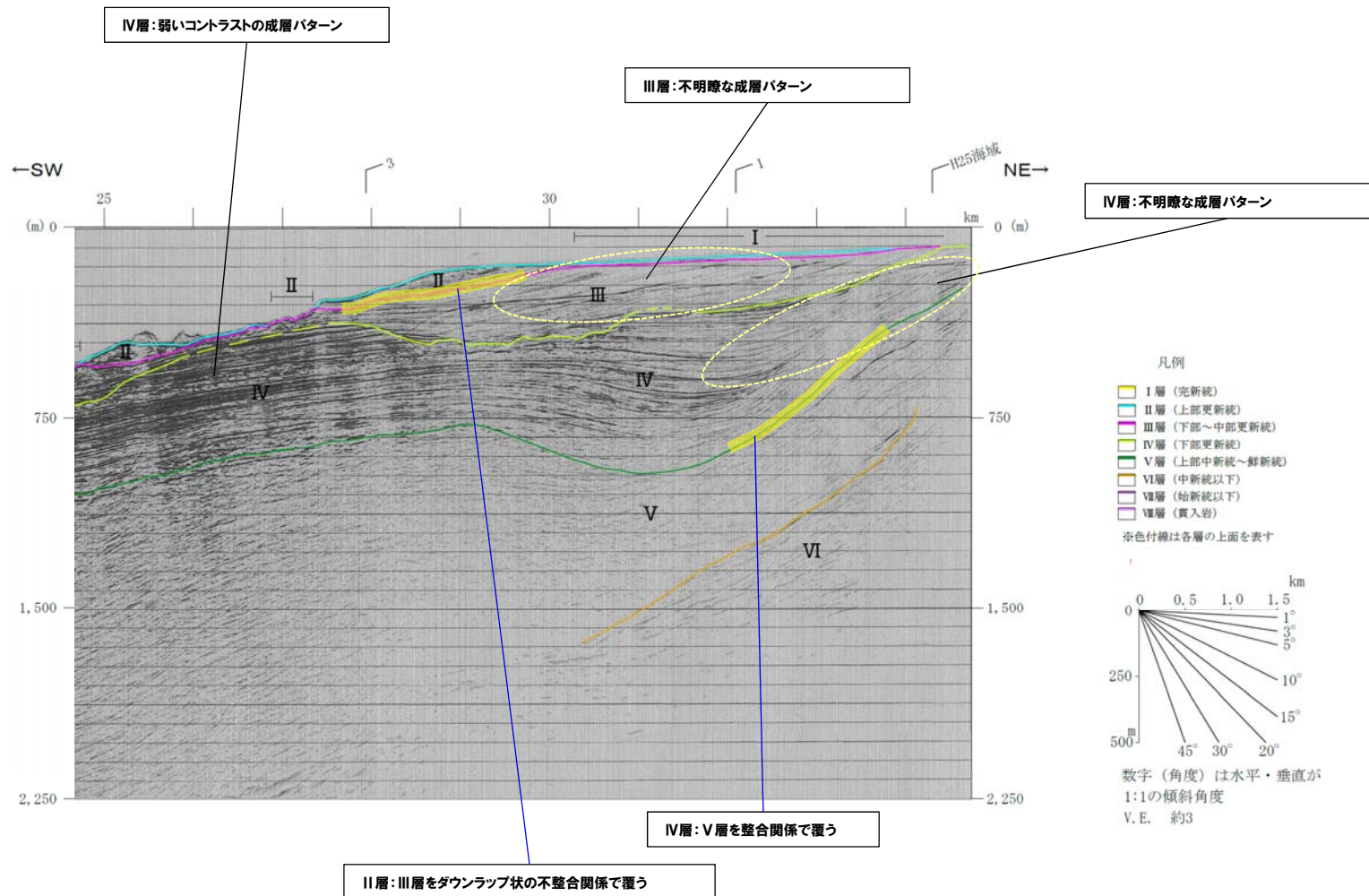
測線NESW4.5W



2. 敷地前面海域の地層区分

③-2 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴の例 (測線c)

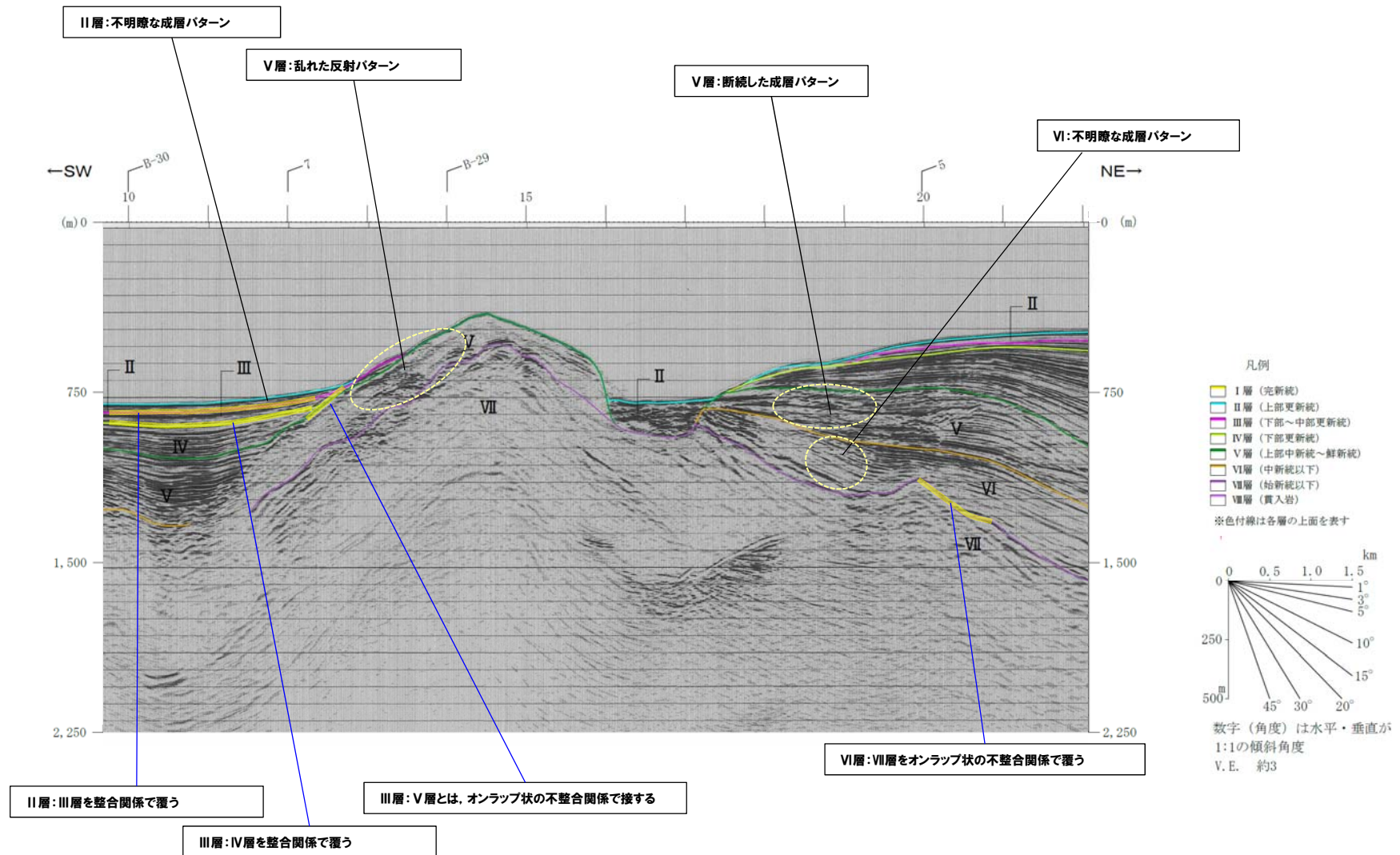
測線 c



2. 敷地前面海域の地層区分

③-3 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴の例 (測線e)

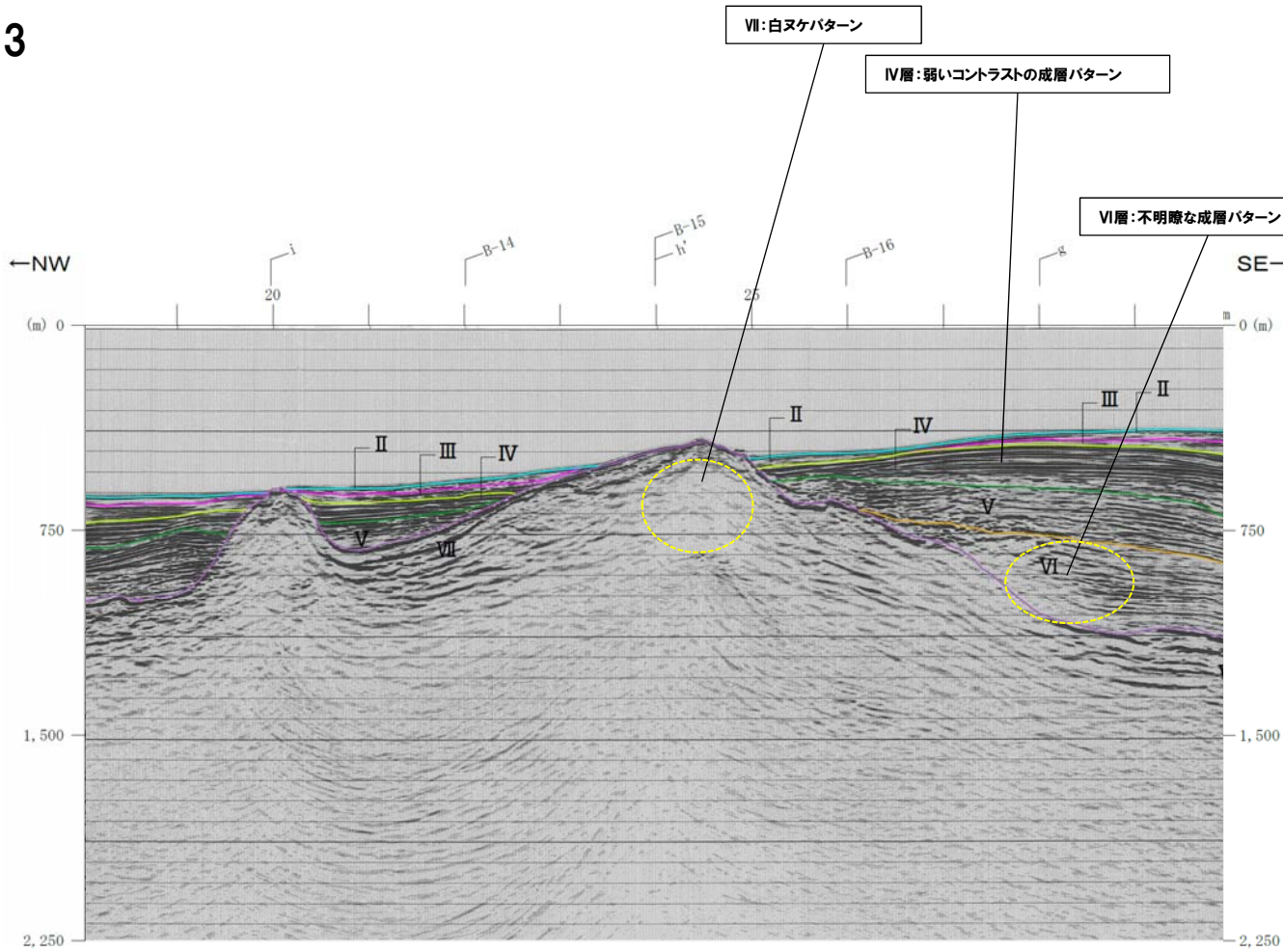
測線 e



2. 敷地前面海域の地層区分

③-4 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴の例 (測線3)

測線 3

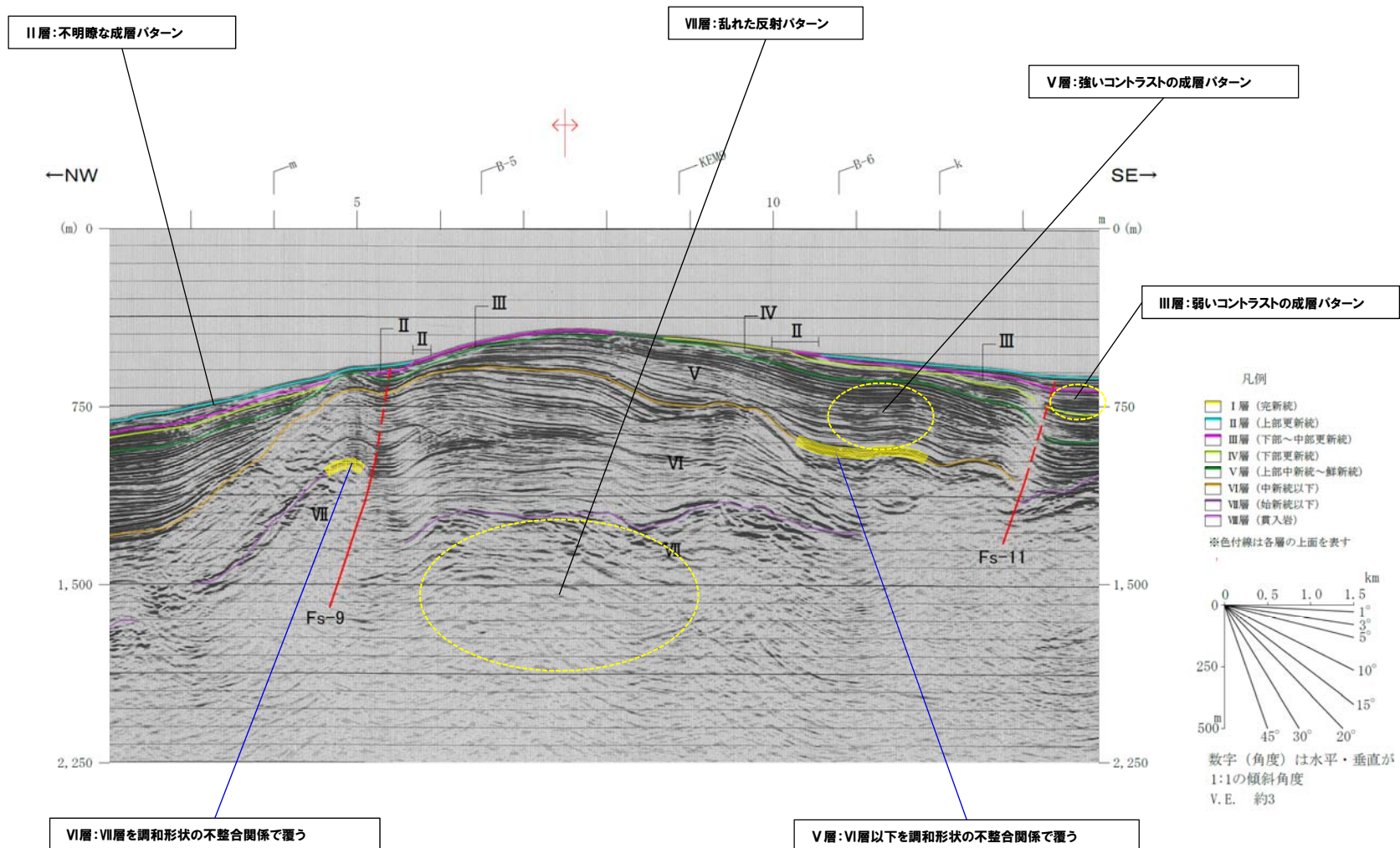


- 凡例
- I層 (完新統)
 - II層 (上部更新統)
 - III層 (下部～中部更新統)
 - IV層 (下部更新統)
 - V層 (上部中新統～鮮新統)
 - VI層 (中新統以下)
 - VII層 (始新統以下)
 - VIII層 (貫入岩)
- ※色付線は各層の上面を表す
- 0 0.5 1.0 1.5 km
 0°
 1°
 3°
 5°
 10°
 15°
 20°
 30°
 45°
- 数字 (角度) は水平・垂直が
 1:1の傾斜角度
 V. E. 約3

2. 敷地前面海域の地層区分

③-5 地層境界及び堆積構造並びに反射パターンの主な特徴の例 (測線3)

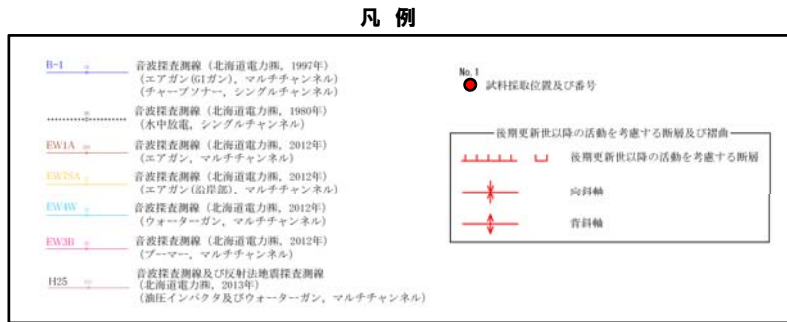
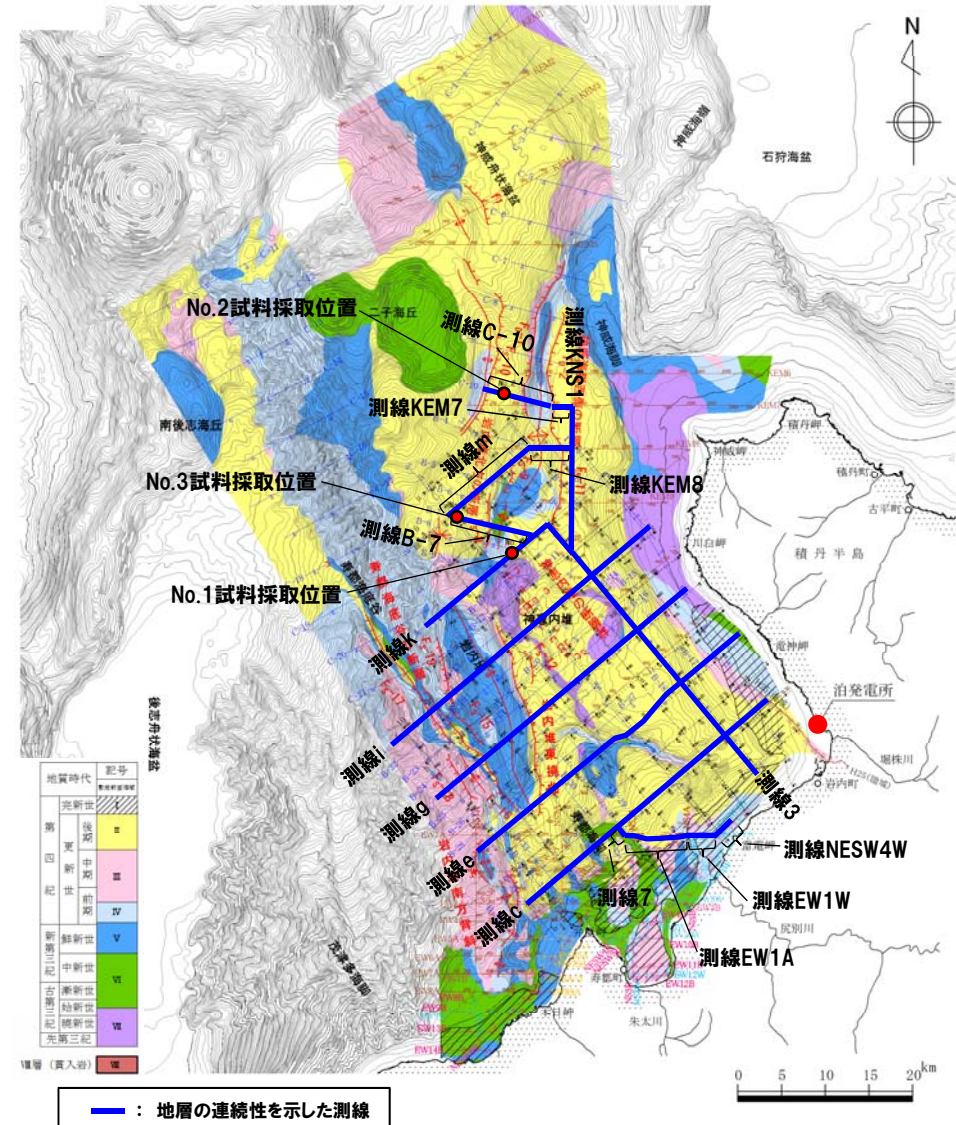
測線 3



2. 敷地前面海域の地層区分

④連続性の確認 (-1/7-)

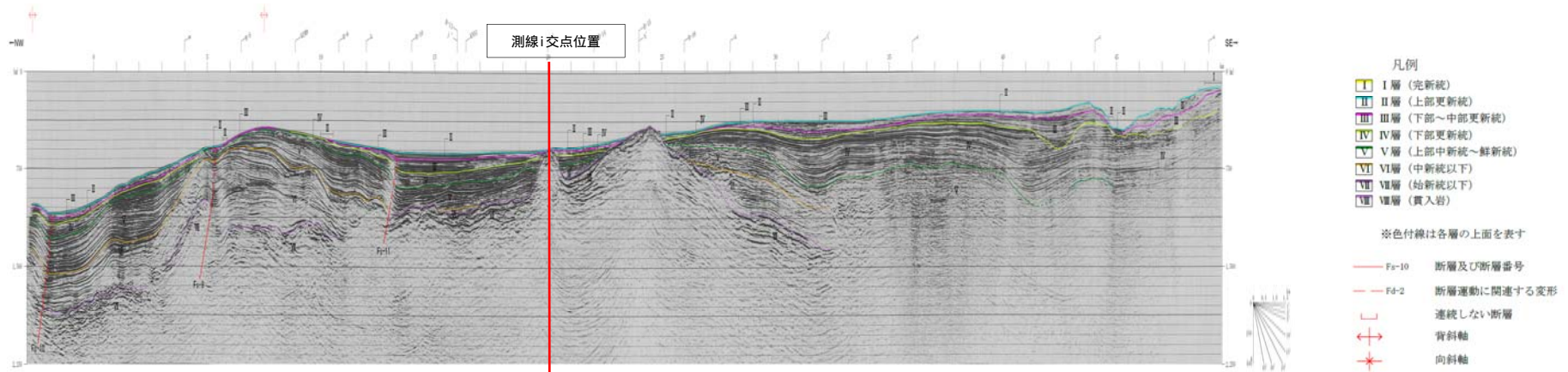
○敷地前面海域の地層区分については、海上音波探査記録の交点において連続性を確認している。



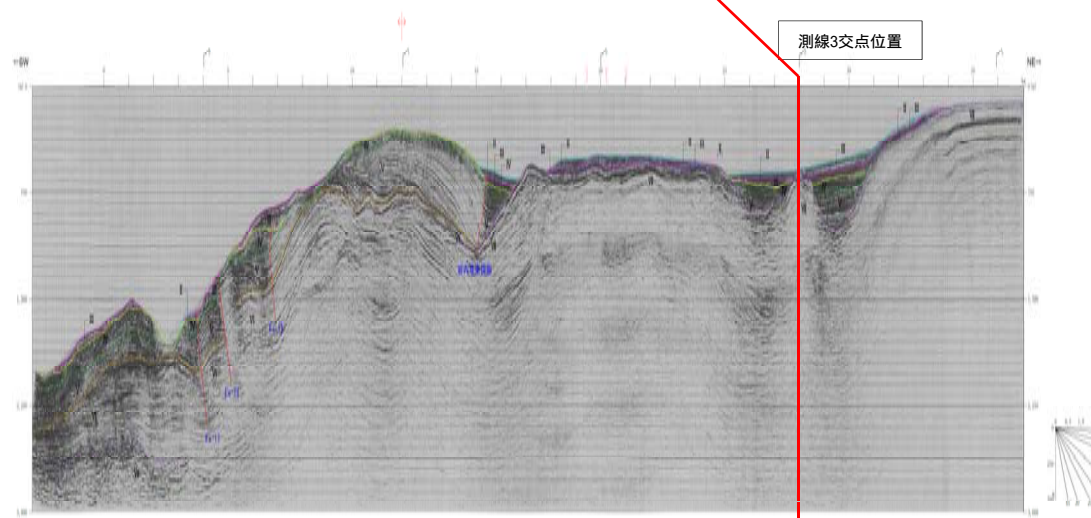
敷地前面海域の海底地質図

2. 敷地前面海域の地層区分

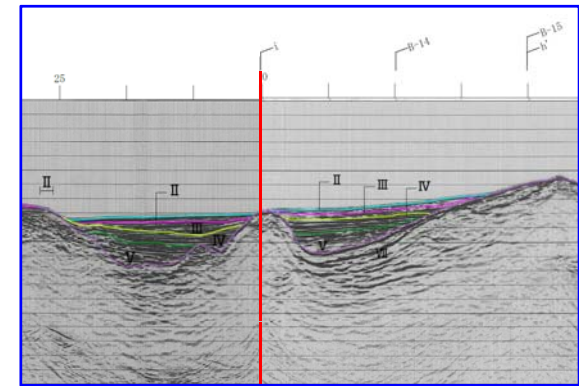
④連続性の確認 (-2/7-)



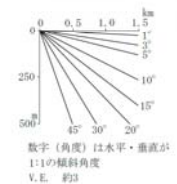
測線3



測線i



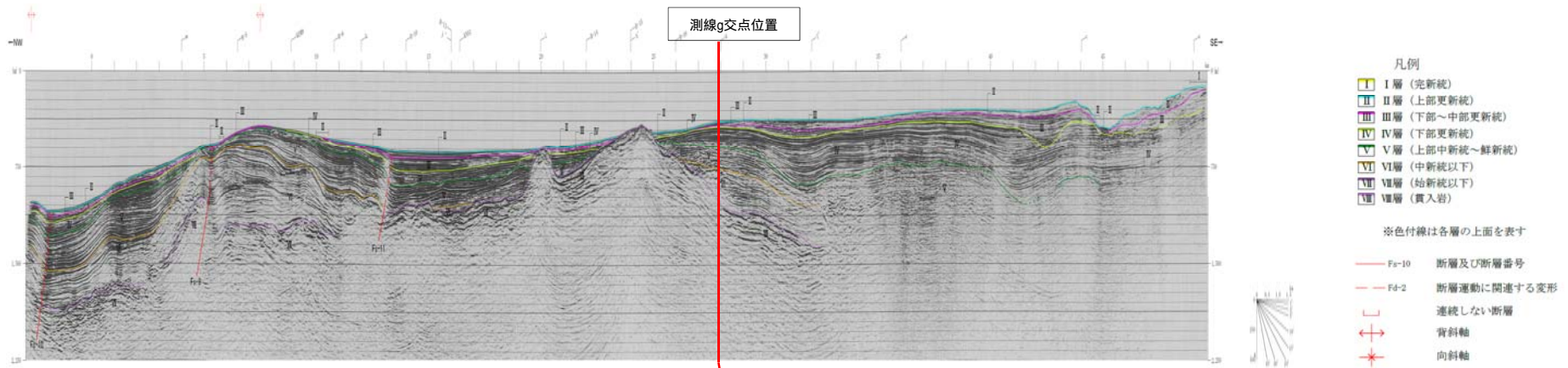
交点位置の拡大図



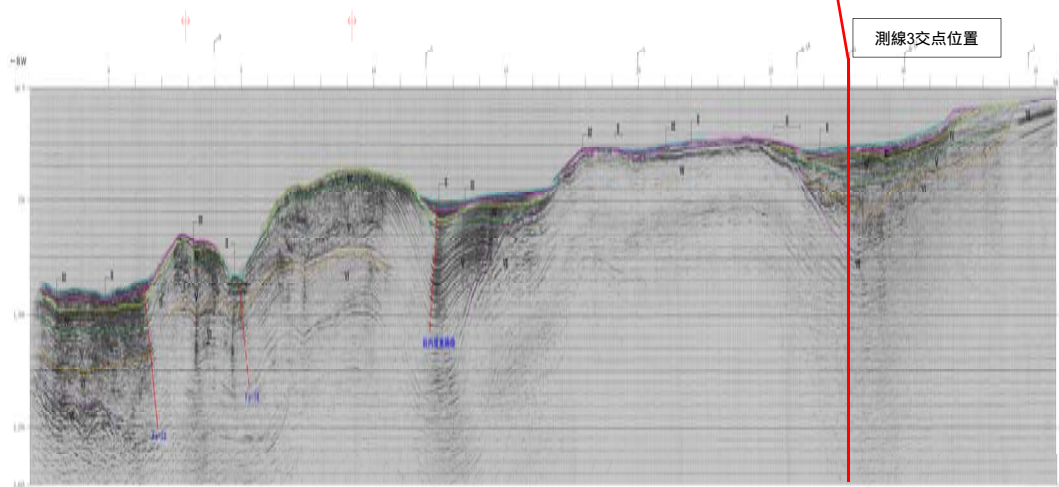
敷地前面海域において格子状に配置した測線によって、地層の連続性や反射パターンの類似性を確認している。

2. 敷地前面海域の地層区分

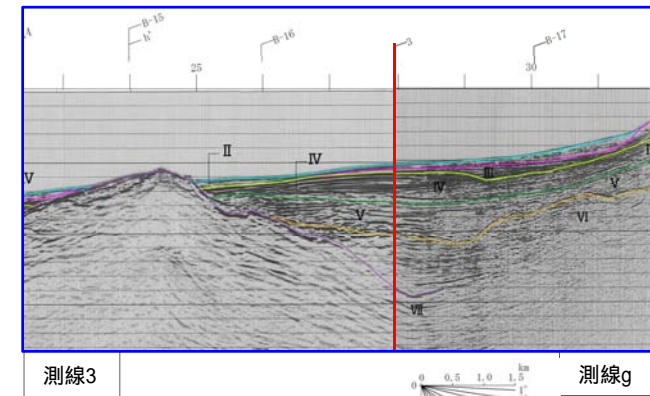
④連続性の確認 (-3/7-)



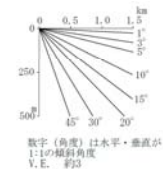
測線3



測線g



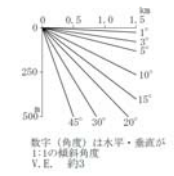
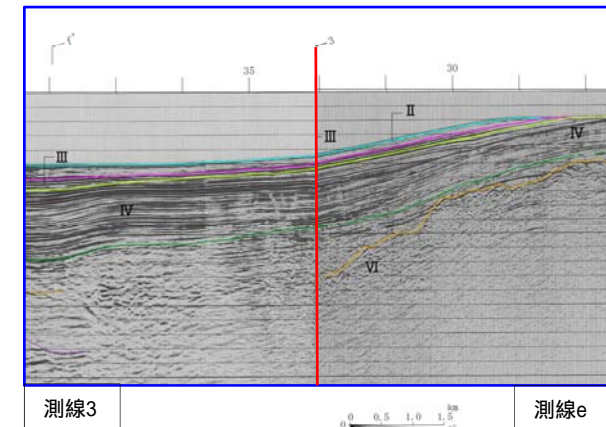
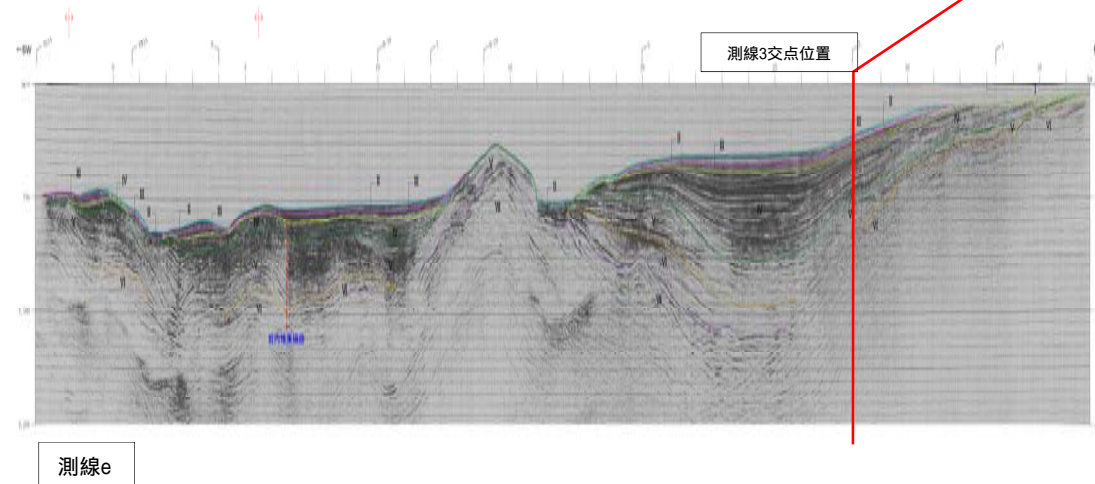
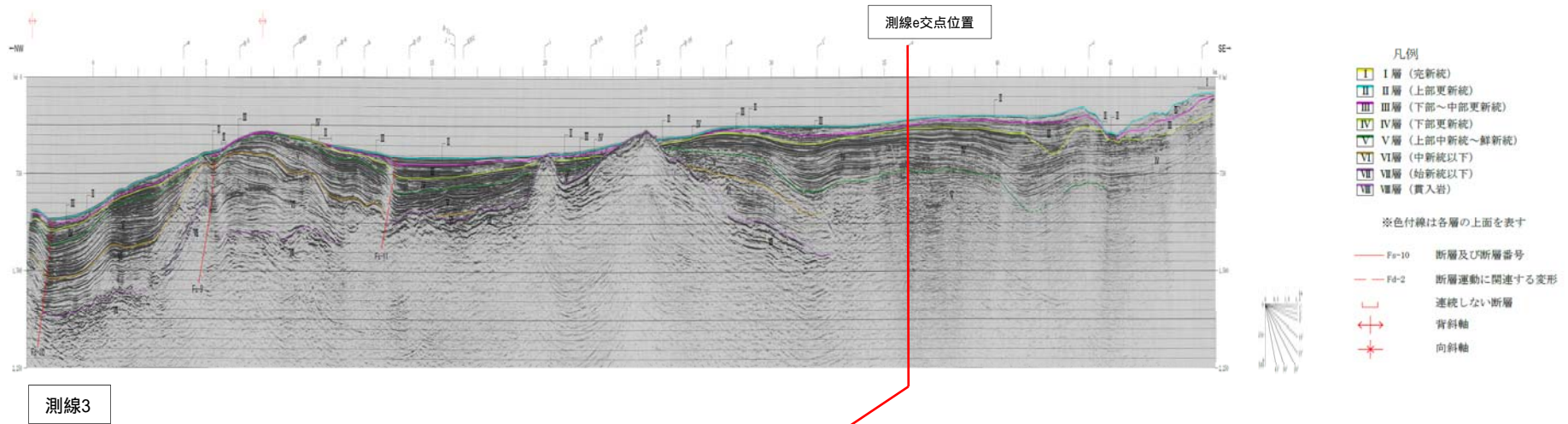
交点位置の拡大図



敷地前面海域において格子状に配置した測線によって、地層の連続性や反射パターンの類似性を確認している。

2. 敷地前面海域の地層区分

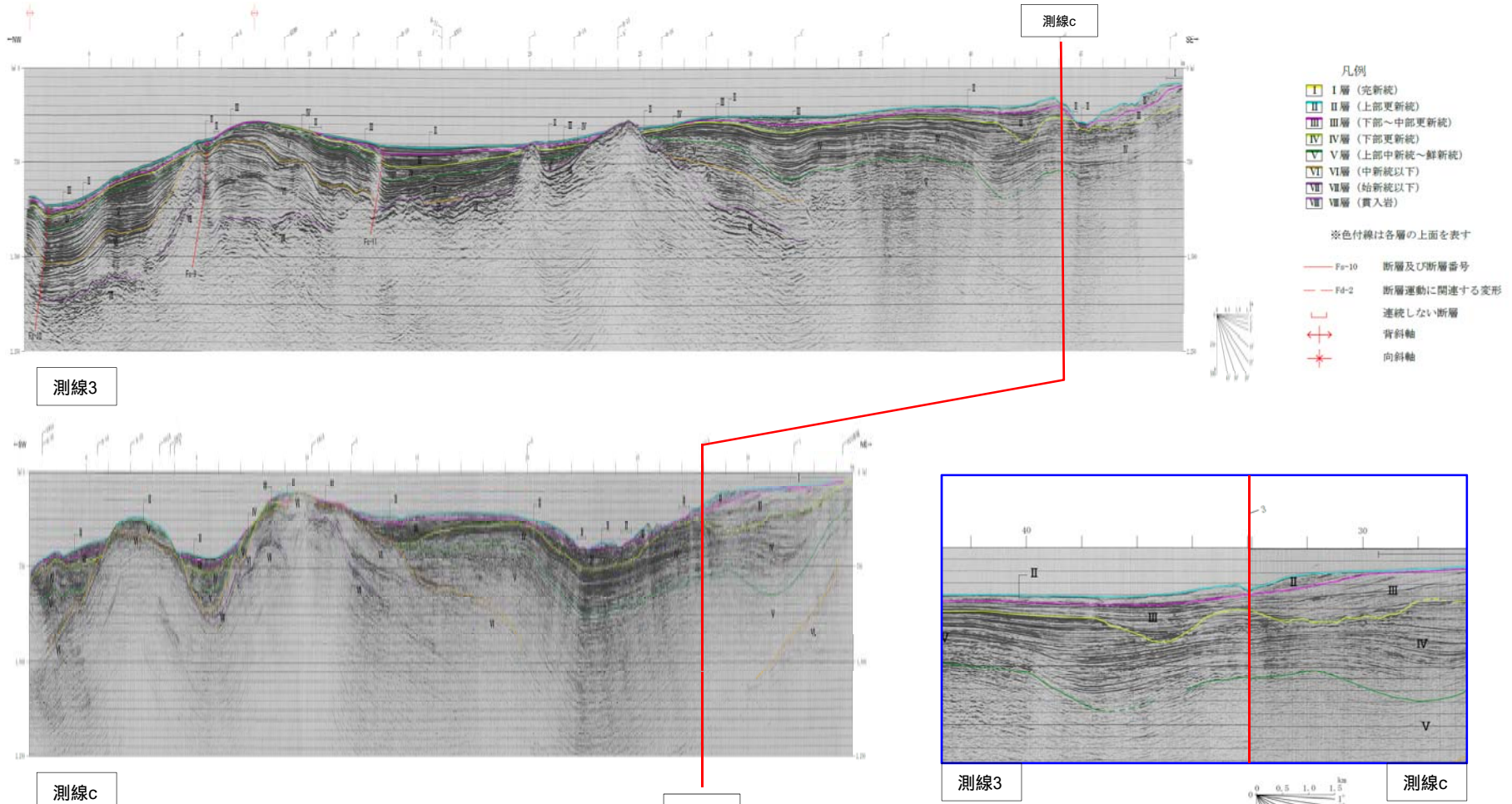
④連続性の確認 (-4/7-)



敷地前面海域において格子状に配置した測線によって、地層の連続性や反射パターンの類似性を確認している。

2. 敷地前面海域の地層区分

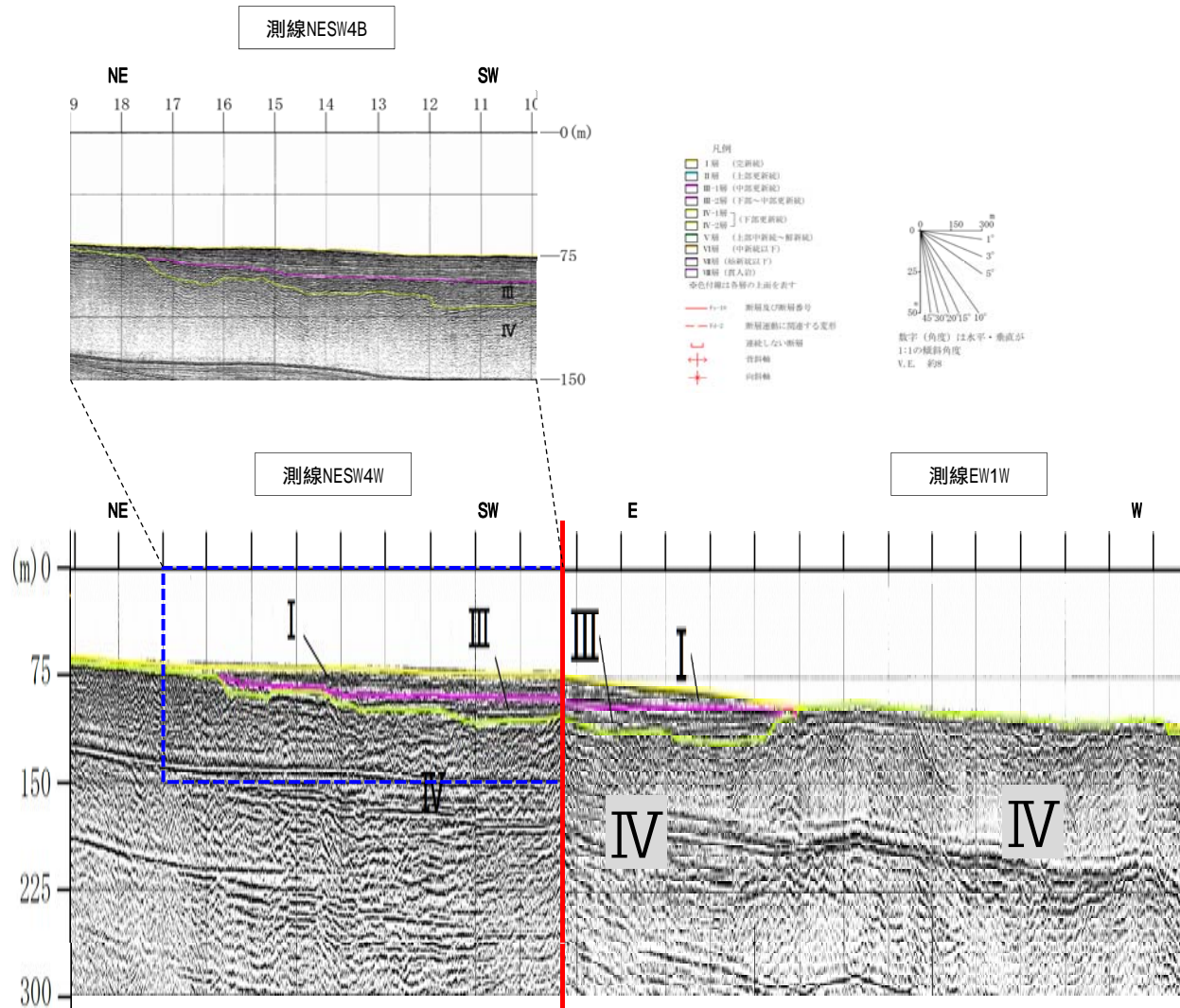
④連続性の確認 (-5/7-)



敷地前面海域において格子状に配置した測線によって、地層の連続性や反射パターンの類似性を確認している。

2. 敷地前面海域の地層区分

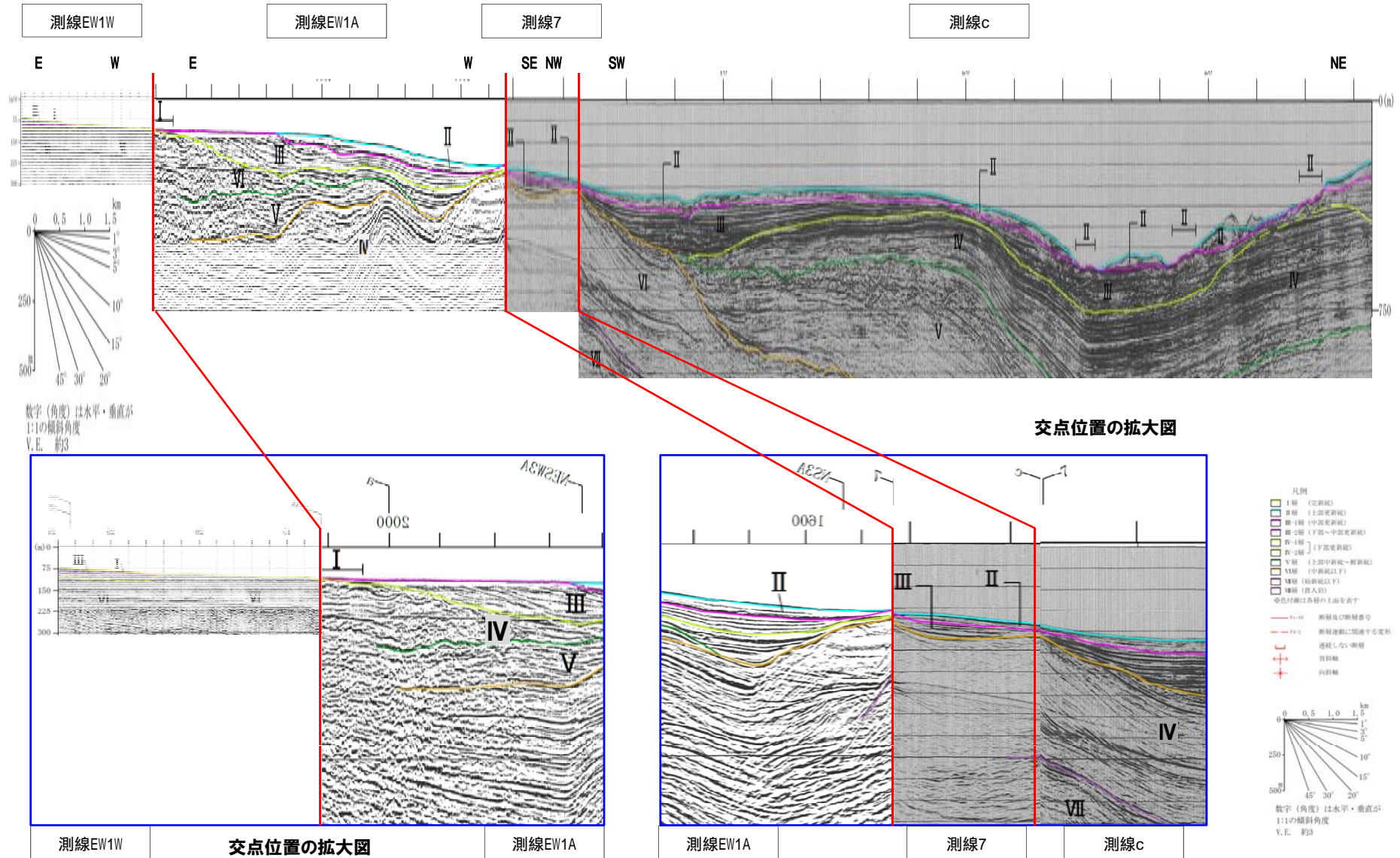
④連続性の確認 (-6/7-)



交点位置の拡大図

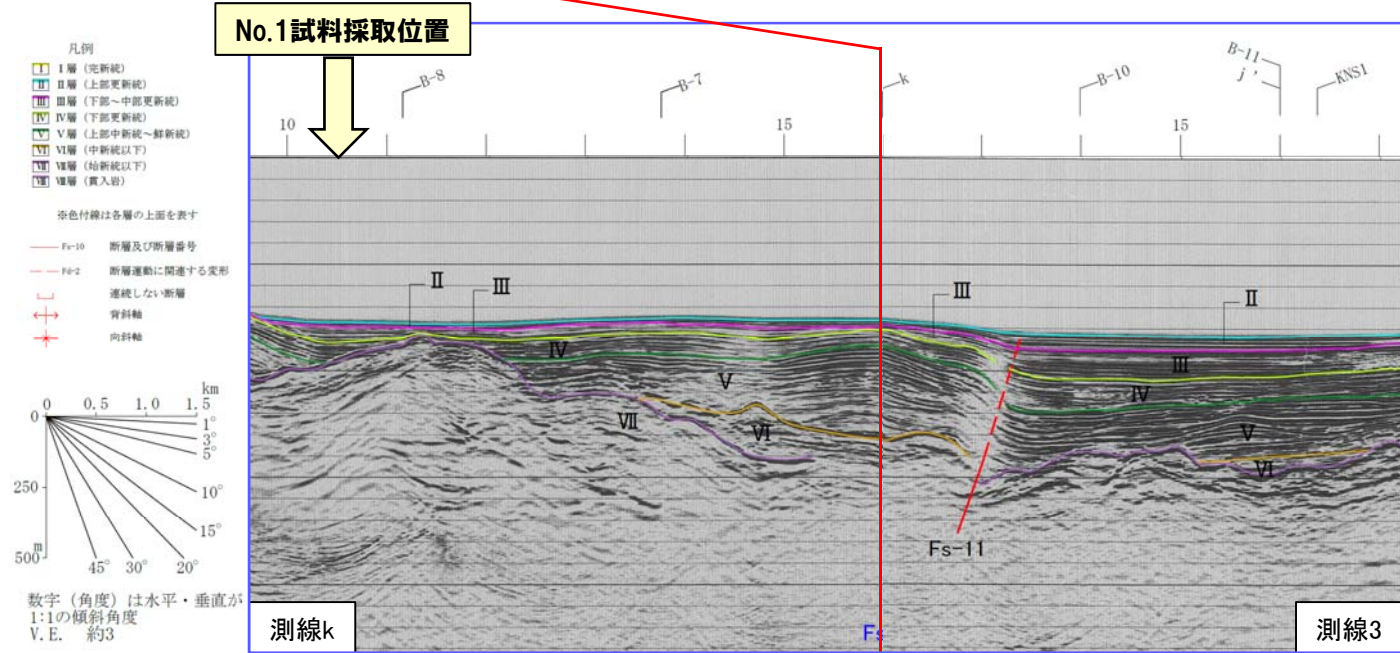
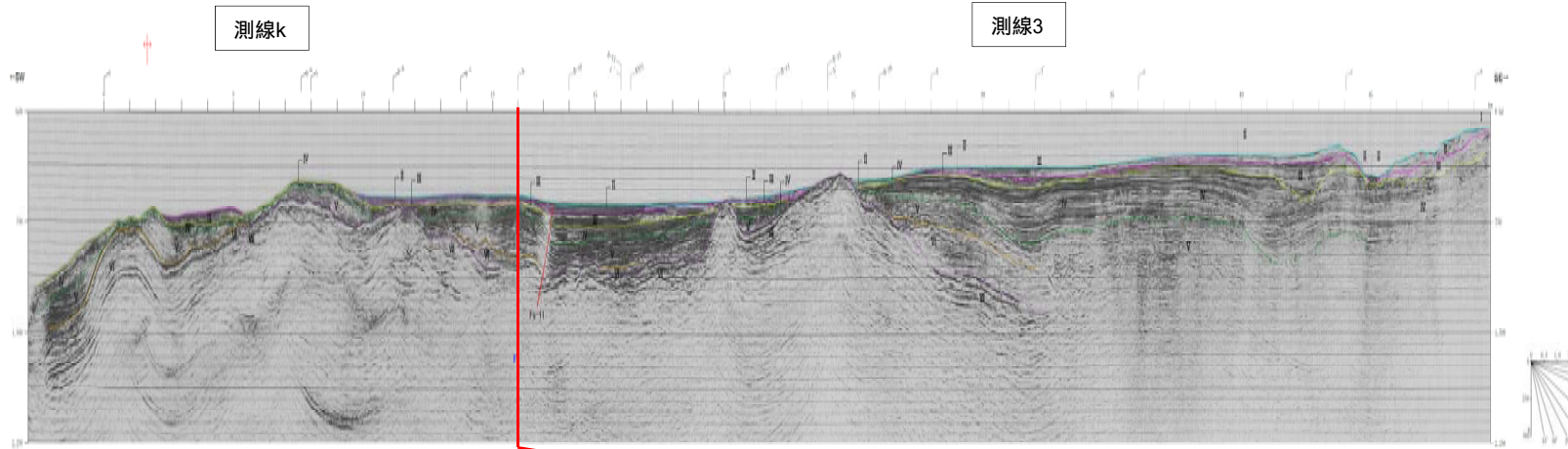
2. 敷地前面海域の地層区分

④連続性の確認 (-7/7-)



2. 敷地前面海域の地層区分

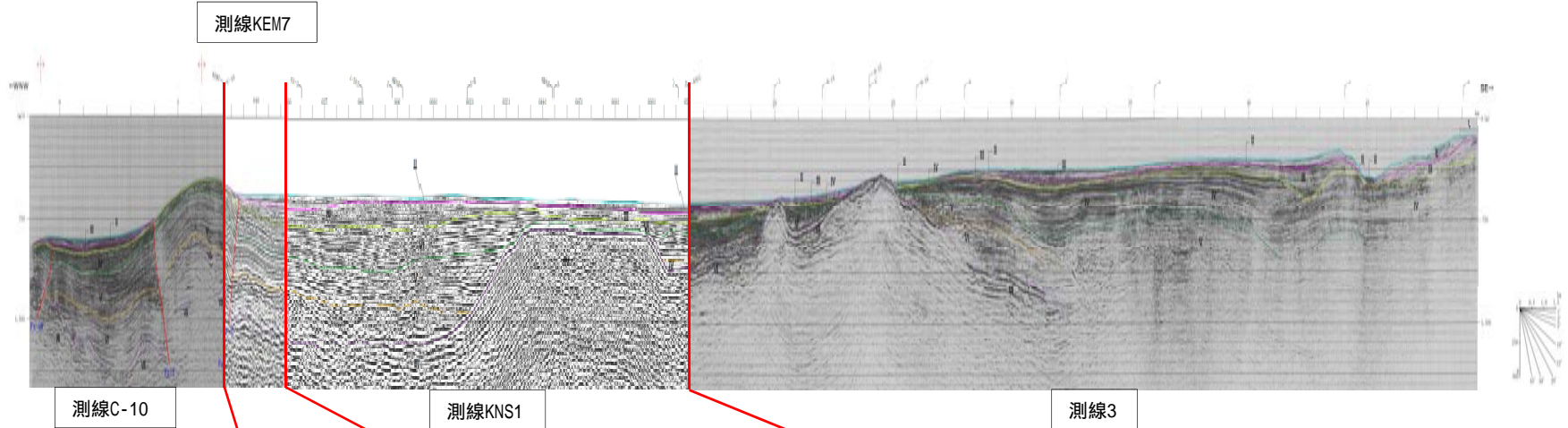
⑤No.1試料採取位置からの連続性確認



交点位置の拡大図

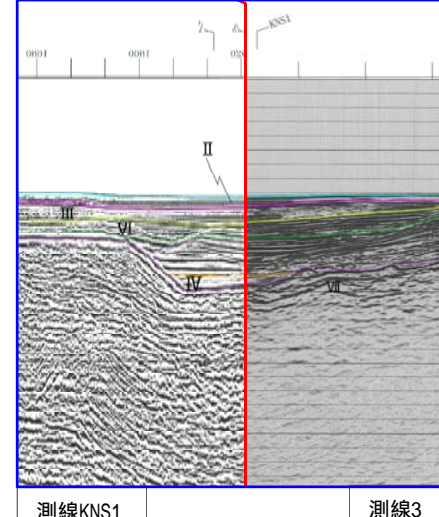
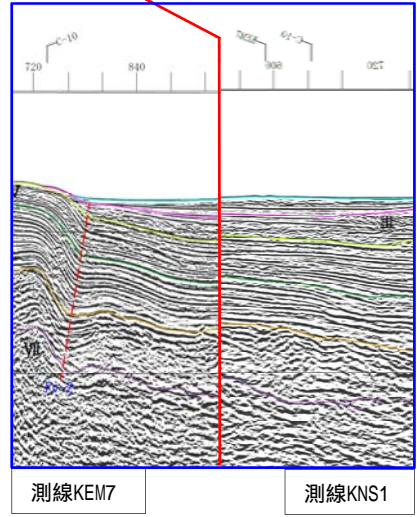
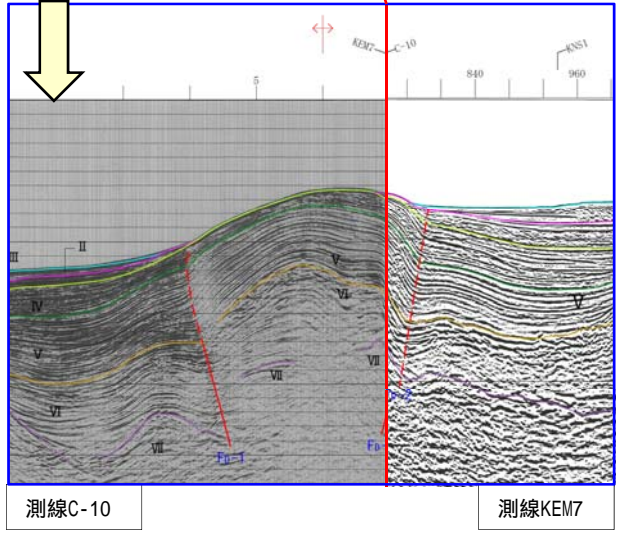
2. 敷地前面海域の地層区分

⑥No.2試料採取位置からの連続性確認



No.2試料採取位置

交点位置の拡大図



凡例

- II層 (中新統)
- III層 (上新統)
- IV層 (下部更新統)
- V層 (上部中新統～鮮新統)
- VI層 (中新統以下)
- VII層 (上新統以下)
- VIII層 (真入射)

赤色付線は各層の上面を表す

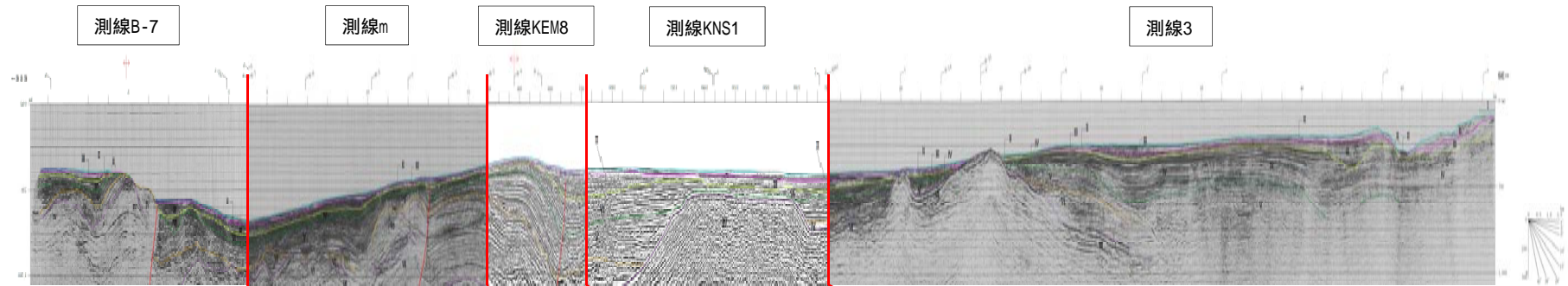
- F₁-10 断層及び断層番号
- F₁-2 断層運動に関連する定断
- 連続しない断層
- 資料軸
- 共斜軸

0 0.5 1.0 1.5 km
 1°
 5°
 10°
 15°
 20°
 25°
 30°
 35°
 40°
 45°
 50°

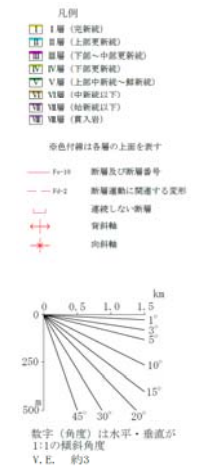
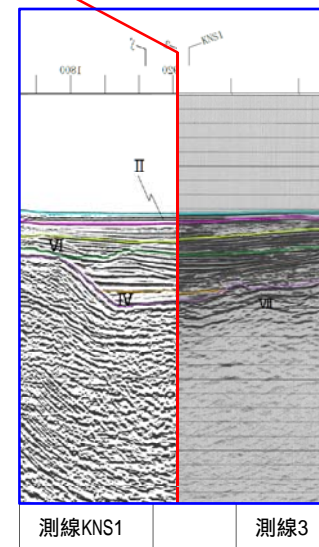
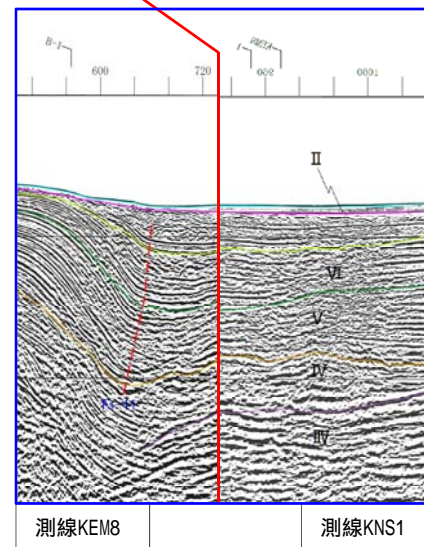
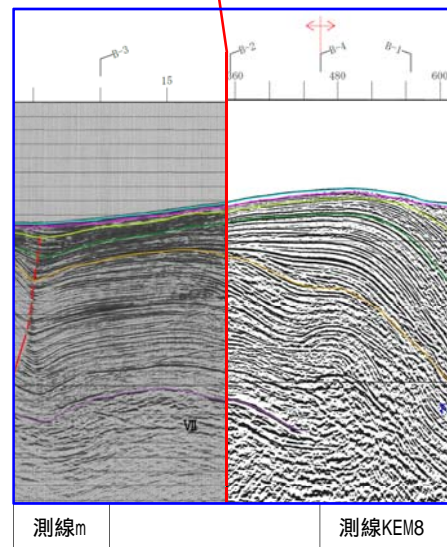
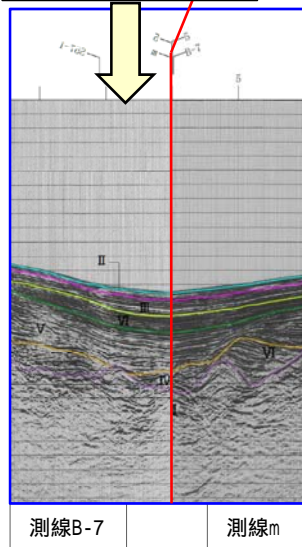
数字(角度)は水平・垂直が1:1の傾斜角度
 V. E. 約3

2. 敷地前面海域の地層区分

⑦No.3試料採取位置からの連続性確認



No.3試料採取位置



交点位置の拡大図

3. 各層の地質時代

①総括

○各層の地質時代については、下表に基づき判断又は推定している。

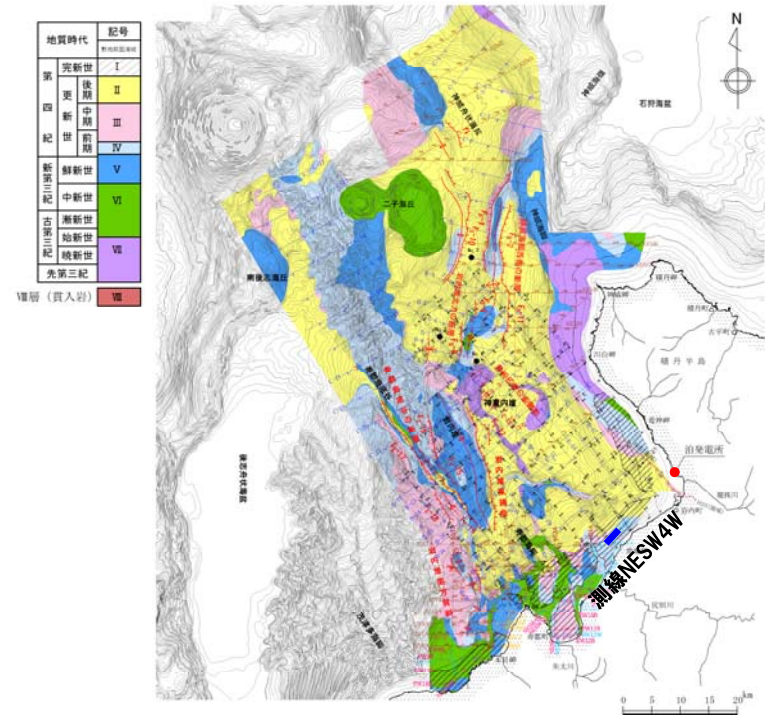
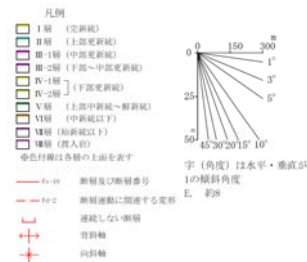
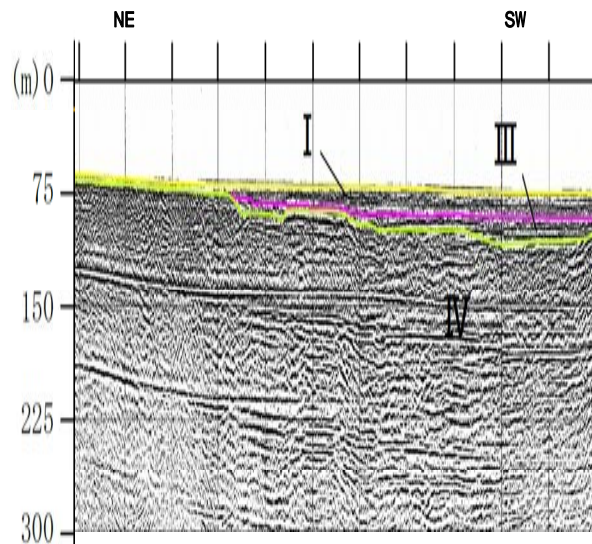
地質時代		地層区分	地質時代の判断・推定根拠
第四紀	完新世	I	<ul style="list-style-type: none"> ○本層は、大陸棚に分布しているII層以下の地層上面の侵食面を不整合で多い、平坦面を形成して分布している。 ○本層は、大陸棚上の水深約150m以浅に分布する。 ○本層は、最終氷期以降に堆積した第四系完新統と判断される。
	後期更新世	II	<ul style="list-style-type: none"> ○本層から採取した柱状試料に含まれる¹⁴C法年代測定値51,080y.B.P.以前を示す有孔虫化石の直下部においてクツタラ第2火山灰と同定される火山灰を確認している。 ○同様に本層の他地点から採取した柱状試料において45,000y.B.P.以前の¹⁴C法年代測定値が得られている。 ○これらの¹⁴C法年代測定値から本層の堆積速度が推定され、さらに層厚を考慮すると、II層の基底は第四系中部～上部更新統と推定される。 ○また、本層より下位のIII層が海上保安庁水路部(1995)における第四系中部更新統に概ね対比されることから、本層は海上保安庁水路部(1995)における第四系上部更新統に概ね対比される。 ○これらのことから、本層は第四系上部更新統と判断される。
	中期更新世 ～ 前期更新世	III	<ul style="list-style-type: none"> ○本層は、海上保安庁水路部(1995)における第四系中部更新統に概ね対比される。 ○本層の下部は、海陸の地層の連続性を確認するために敷地近傍海域で実施した海上音波探査及び反射法地震探査(測線H25)と梨野舞納地点におけるボーリング調査結果との対比から、第四系下部～中部更新統の岩内層に対比される。 ○これらのことから、本層は第四系下部～中部更新統と判断される。
	前期更新世	IV	<ul style="list-style-type: none"> ○本層は、海陸の地層の連続性を確認するために敷地近傍海域で実施した海上音波探査及び反射法地震探査(測線H25)と梨野舞納地点におけるボーリング調査結果との対比から、配四系下部更新統の野塚層(下部層相当)に対比される。 ○このことから、本層は下部更新統と判断される。
	前期更新世 ～ 鮮新世	V	<ul style="list-style-type: none"> ○石塚ほか(2000)によれば、本層が露出している範囲で採取された安山岩溶岩及び火砕岩のK-Ar法年代測定値約4.1Maが報告されている。 ○本層が露出している範囲で採取された試料の微化石分析結果より、新第三系鮮新統に相当する珪藻化石(渡辺,2000)及び放射虫化石(本山,2000)が報告されている。 ○これらのことから、本層は新第三系鮮新統～第四系下部更新統と判断される。
先第三紀 (古第三紀)	後期中新世 ～始新世	VI	<ul style="list-style-type: none"> ○本層は、陸域の地層分布との対比から積丹地域の神恵内層、古平層及び茅沼層、黒松内低地帯地域の二股層以下に相当すると推定されることから、古第三系始新統～新第三系上部中新統と推定される。
	始新世～	VII	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地前面海域における最下位層であり、陸域の地層分布との対比から茅沼層より下位の地層に相当すると推定されることから、古第三系始新統以下と推定される。

3. 各層の地質時代

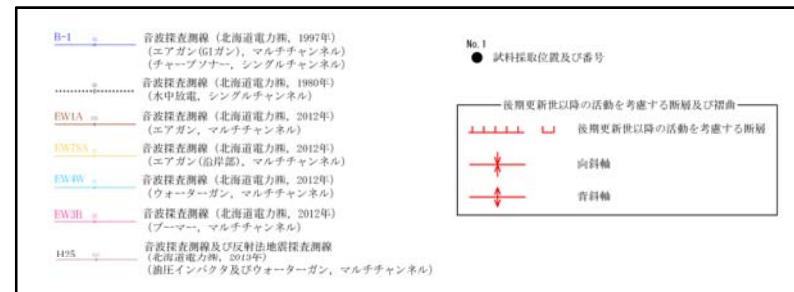
② I層の地質時代

- I層は、大陸棚に分布しているII層以下の地層上面の侵食面を不整合で多い、平坦面を形成して分布している。
- 本層は、大陸棚上の水深約150m以浅に分布する。
- 本層は、最終氷期以降に堆積した第四系完新統と判断される。

測線NESW4W



凡例

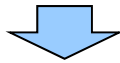


敷地前面海域の海底地質図

3. 各層の地質時代

③-1 II層の地質時代(まとめ)

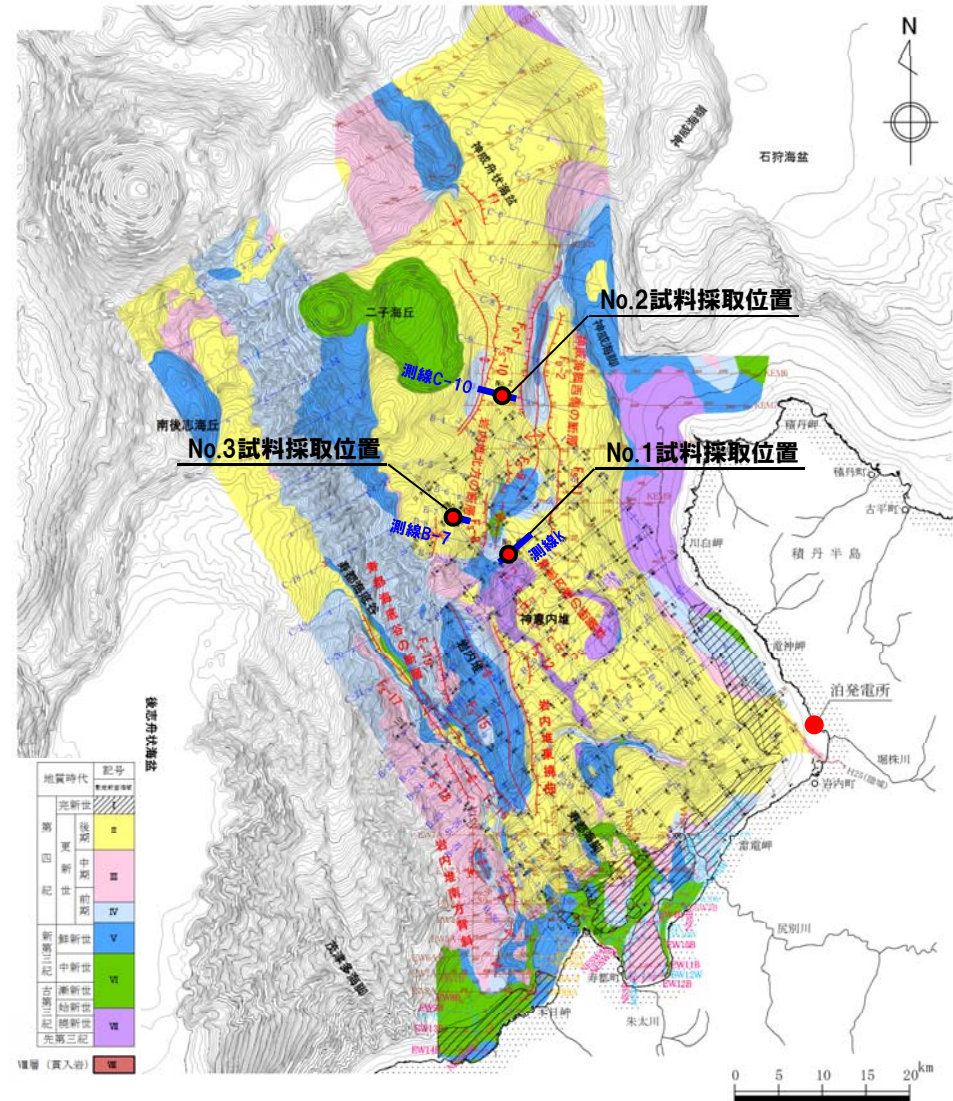
- II層から採取した柱状試料に含まれる¹⁴C法年代測定値51,080y.B.P.以前を示す有孔虫化石の直下部においてクッタラ第2火山灰と同定される火山灰を確認している。
- 同様に本層の他地点から採取した柱状試料において45,000y.B.P.以前の¹⁴C法年代測定値が得られている。
- これらの¹⁴C法年代測定値から本層の堆積速度が推定され、さらに層厚を考慮すると、II層の基底は第四系中部～上部更新統と推定される。
- また、本層より下位のIII層が海上保安庁水路部(1995)における第四系中部更新統に概ね対比される(P34～P35参照)ことから、本層は海上保安庁水路部(1995)における第四系上部更新統に概ね対比される。



○これらのことから、II層は第四系上部更新統と判断される。

凡例

B-1	音波探査測線 (北海道電力, 1997年) (エアガン(G1ガン), マルチチャンネル) (チャープソナー, シングルチャンネル)	No. 1	試料採取位置及び番号
-----	音波探査測線 (北海道電力, 1980年) (水中放送, シングルチャンネル)	-----	後期更新世以降の活動を考慮する断層及び褶曲
EW1A	音波探査測線 (北海道電力, 2012年) (エアガン, マルチチャンネル)	-----	後期更新世以降の活動を考慮する断層
EW2A	音波探査測線 (北海道電力, 2012年) (エアガン(沿岸部), マルチチャンネル)	→	向斜軸
EW3W	音波探査測線 (北海道電力, 2012年) (ウォーターガン, マルチチャンネル)	↕	背斜軸
EW3B	音波探査測線 (北海道電力, 2012年) (ブーマー, マルチチャンネル)		
H25	音波探査測線及び反射法地震探査測線 (北海道電力, 2013年) (超音インパクト及びウォーターガン, マルチチャンネル)		



敷地前面海域の海底地質図

3. 各層の地質時代

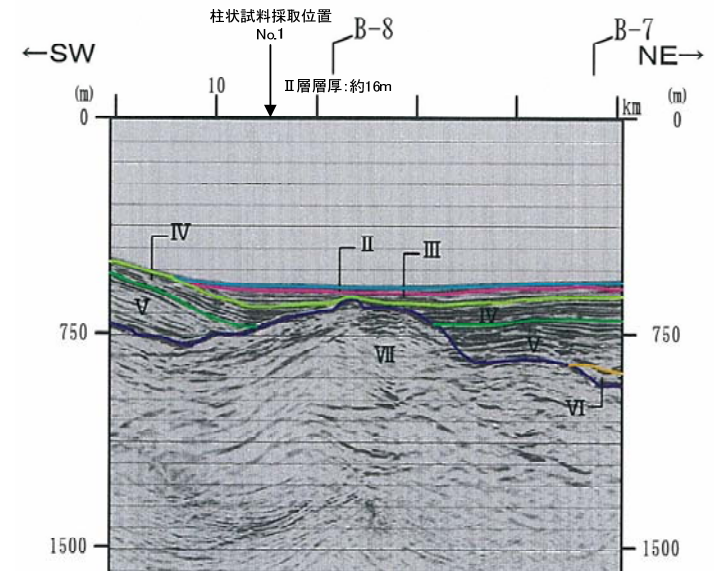
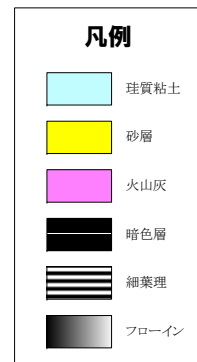
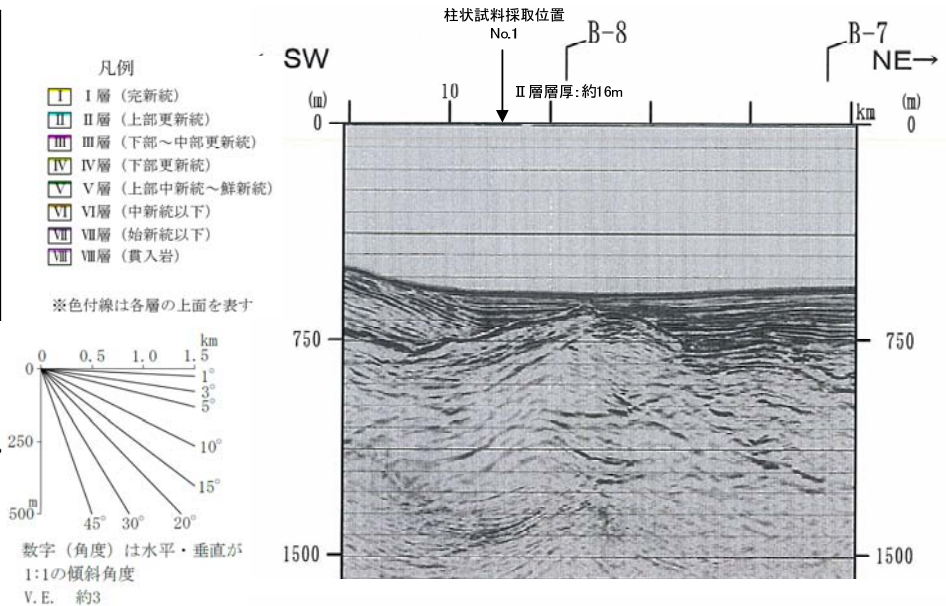
③-2 II層の地質時代 (No.1試料採取位置 (測線k)) (-1/2-)

- No.1試料採取位置において、ピストンコアラーにより755cmの柱状試料を採取した。
- 深度253cm~290cmにおいて、池原ほか(1996)のTL-2層※1に対比される層が認められる。
- 複数の深度において有孔虫化石を用いて¹⁴C法年代測定を実施しており、深度約653cmにおいて¹⁴C法年代測定値51,080y.B.P.以前※2が得られ、その直下にクッタラ第2火山灰(Kt-2)に対比される火山灰を確認している(分析結果はP30参照)。

※1 池原ほか(1996)のTL-2層についてはP32参照。
 ※2 本¹⁴C法年代測定に使用した機器の理論的な計測限界は、6万~6.5万年前程度である。
 当該試料の直下から産出する火山灰(Kt-2)の年代値(5万年前程度、新版地学事典編集委員会編(1996))との層位関係から、51,080y.B.P.以前との計測値は概ね妥当なものであると考えられる。

深度 (cm)	岩相	絶対年代	岩相対比
0			
191~194	細砂層		
231	明瞭な色調境界 (上部:暗, 下部:明)	深度:253cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 16,600±90 y.B.P.	上面深度:253cm 池原ほか(1996)のTL-2層に対比 15,500 y.B.P.
231~260	強い生物擾乱 (260cm以浅)		
253~290	細互層 (生物擾乱)	深度:286cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 19,630±130 y.B.P.	
311	細砂層		
323~326	細互層	深度:315cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 20,700±180 y.B.P.	
360~362	暗色層 (生物擾乱あり)		
446~451	暗色層 (強い生物擾乱, 有孔虫化石に富む)		
431~438	暗色層 (強い生物擾乱, 有孔虫化石に富む)		
473~486	暗色層 (強い生物擾乱, 有孔虫化石に富む)		
504	粗粒砂をバンチ状に挟む		
511~529	暗色層 (生物擾乱あり)	深度:523cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 > 40,390 y.B.P.	
537~549	暗色層 (生物擾乱あり)		
577~613	暗色層 (生物擾乱, 584~598cm)	深度:604cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 > 43,680 y.B.P.	
621~628	粗砂層		
630~641	暗色層 (生物擾乱あり)	深度:653cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 > 51,080 y.B.P.	上面深度:659cm 火山灰中の火山ガラス及び斜方輝石の屈折率の類似性より、クッタラ第2火山灰(Kt-2)に対比
659~664	火山灰(クッタラ第2火山灰)		
688~755	フローイン コア長:755cm		

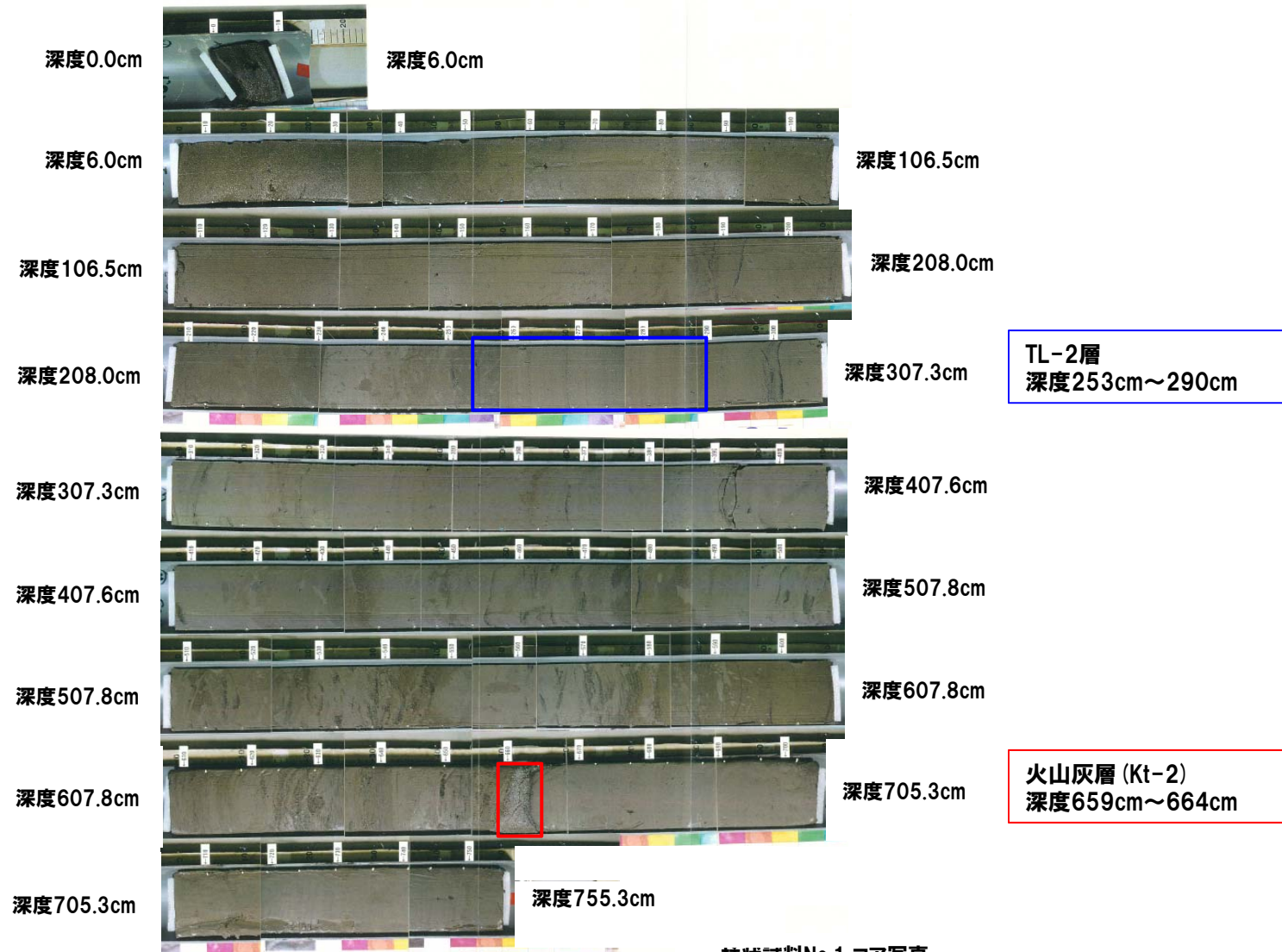
総合柱状図



海上音波探査記録 測線k

3. 各層の地質時代

③-2 II層の地質時代 (No.1試料採取位置 (測線k)) (-2/2-)



柱状試料No.1 コア写真

3. 各層の地質時代

③-3 II層の地質時代 (No.2試料採取位置 (測線C-10)) (-1/2-)

- No.2試料採取位置において、ピストンコアラーにより781cmの柱状試料を採取した。
- 深度252cmにおいて、池原ほか(1996)のTL-1層※に対比される層及び深度370cmにおいて池原ほか(1996)のTL-2層※に対比される層が認められる。
- 複数の深度において有孔虫化石を用いて¹⁴C法年代測定を実施しており、深度約724cmにおいて¹⁴C法年代測定値46,530y.B.P.以前が得られている(分析結果はP30参照)。

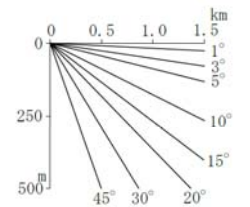
※ 池原ほか(1996)のTL-1層及びTL-2層についてはP32参照。

深度 (cm)	岩相	絶対年代	岩相対比
0			
100			
200			
252~264	細互層(生物擾乱なし、有孔虫化石に富む)	深度:262cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 10,485±50 y.B.P.	上面深度:252cm 池原ほか(1996)のTL-1層に対比 10,400 y.B.P.
300			
370~404	細互層(細砂からなるタービダイトを含む、生物擾乱なし)		上面深度:370cm 池原ほか(1996)のTL-2層に対比 15,500 y.B.P.
400			
415~439	細互層(細砂からなるタービダイトを含む、生物擾乱なし)		
445~448	暗色層(中程度の生物擾乱)	深度:430cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 20,530±120 y.B.P.	
500			
488~492	暗色層(中程度の生物擾乱)		
515~521	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
530~539	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
548~568	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
568~572	細互層(生物擾乱なし)		
600			
598~600	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
603~613	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
621~633	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
641~666	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
700			
688~699	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)		
704~728	暗色層(強い生物擾乱、有孔虫化石に富む)	深度:724cm 有孔虫殻の ¹⁴ C法年代測定値 >46,530 y.B.P.	
728~781	フローイン コア長:781cm		
800			

総合柱状図

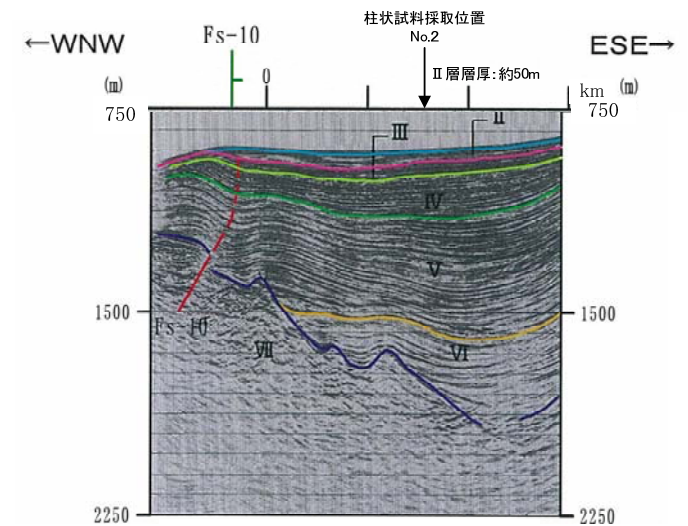
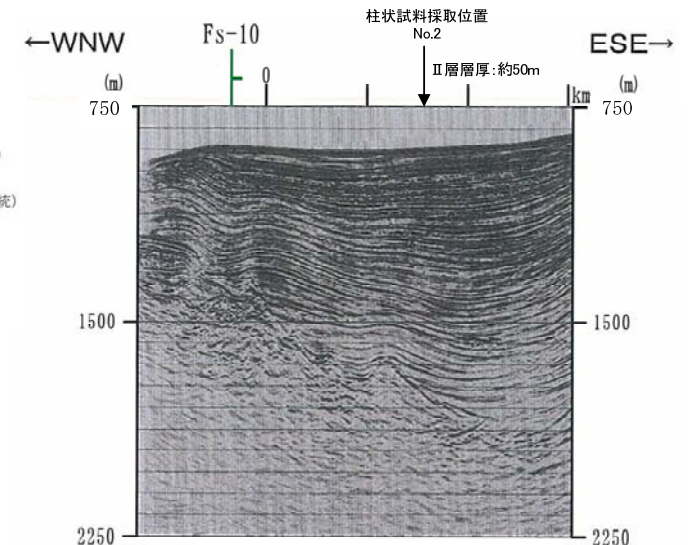
- 凡例
- I層 (完新統)
 - II層 (上部更新統)
 - III層 (下部~中部更新統)
 - IV層 (下部更新統)
 - V層 (上部中新統~鮮新統)
 - VI層 (中新統以下)
 - VII層 (始新統以下)
 - VIII層 (貫入岩)

※色付線は各層の上面を表す



数字(角度)は水平・垂直が1:1の傾斜角度
V. E. 約3

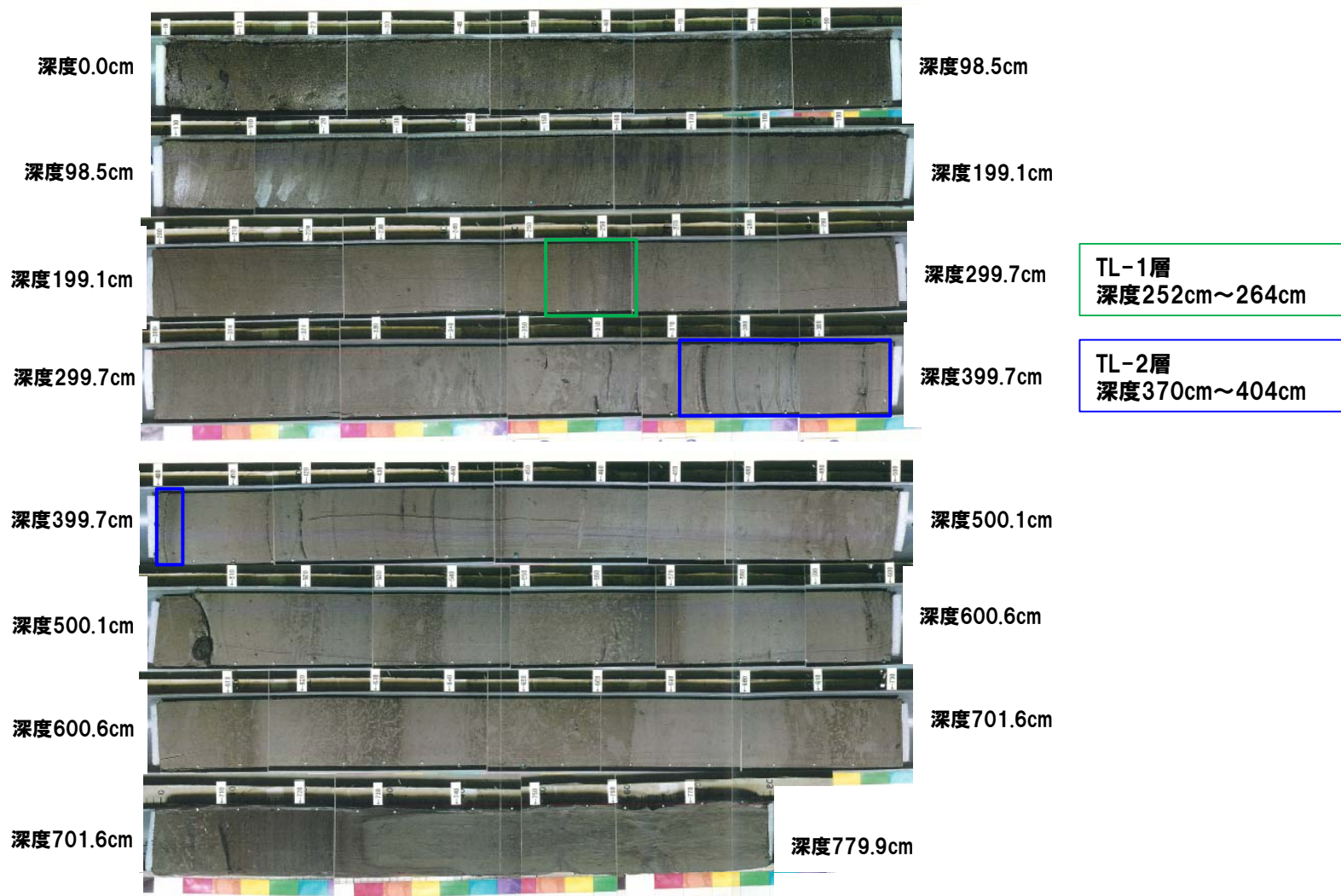
- 凡例
- 珪質粘土
 - 暗色層
 - 細葉理
 - フローイン



海上音波探査記録 測線C-10

3. 各層の地質時代

③-3 II層の地質時代 (No.2試料採取位置 (測線C-10)) (-2/2-)



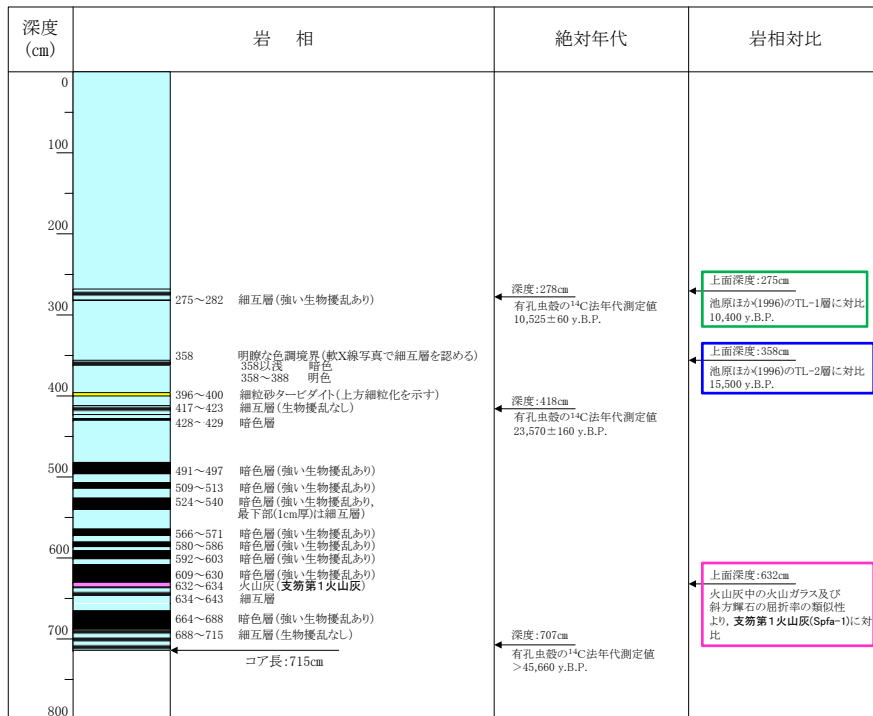
柱状試料No.2 コア写真

3. 各層の地質時代

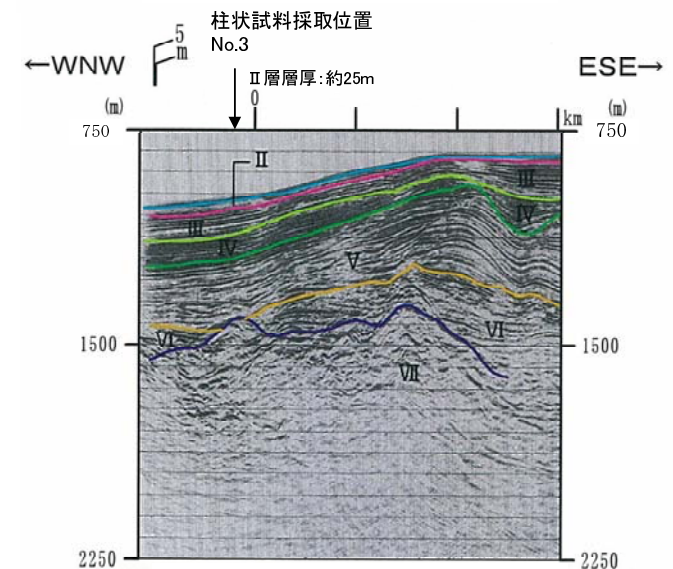
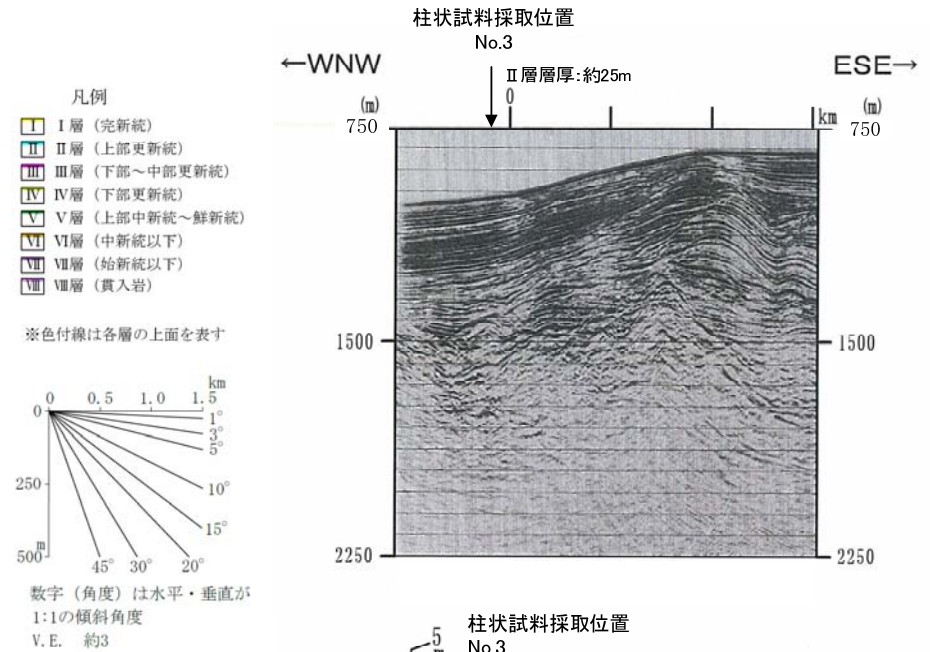
③-4 II層の地質時代 (No.3試料採取位置 (測線B-7)) (-1/2-)

- No.3試料採取位置において、ピストンコアラーにより715cmの柱状試料を採取した。
- 深度275cmにおいて、池原ほか(1996)のTL-1層※に対比される層及び深度358cmにおいて池原ほか(1996)のTL-2層※に対比される層が認められる。
- 複数の深度において有孔虫化石を用いて¹⁴C法年代測定を実施しており、深度約724cmにおいて¹⁴C法年代測定値46,530y.B.P.以前が得られている(分析結果はP30参照)。
- 深度約632cmにおいて、支笏第1火山灰(Spfa-1)に同定される火山灰を確認している(分析結果はP30参照)。

※ 池原ほか(1996)のTL-1層及びTL-2層についてはP32参照。

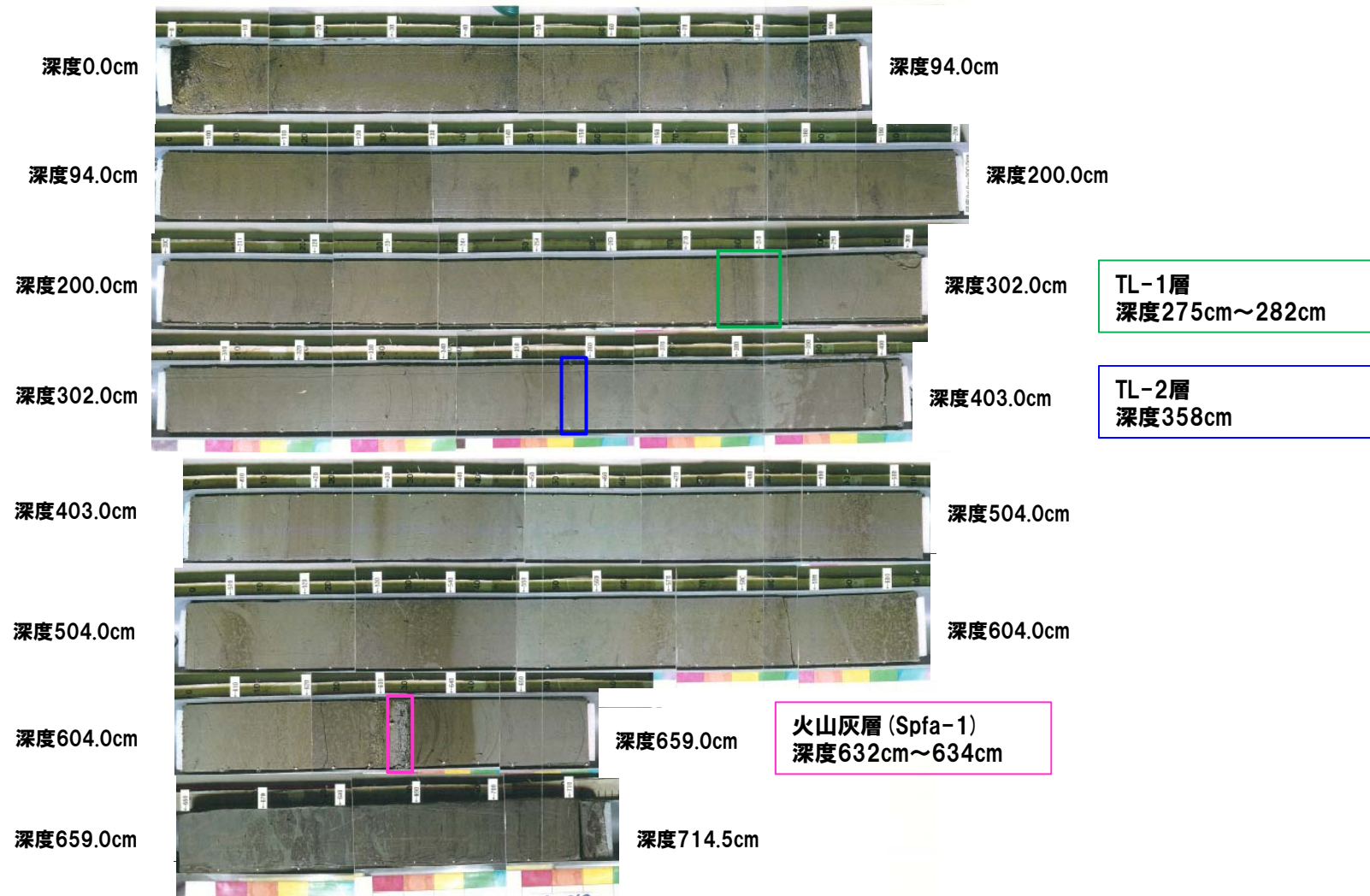


総合柱状図



3. 各層の地質時代

③-4 II層の地質時代 (No.3試料採取位置 (測線B-7)) (-2/2-)



柱状試料No.3 コア写真

3. 各層の地質時代

③-5 II層の地質時代 (^{14}C 法年代測定及び火山灰分析結果)

^{14}C 法年代測定結果

試料採取位置	深度 (cm)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代値 y.B.P.	試料採取位置	深度 (cm)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代値 y.B.P.
No.1	253	-2.50 ± 0.06	$16,600 \pm 90$	No.2	262	-4.21 ± 0.08	$10,485 \pm 50$
	286	-2.52 ± 0.08	$19,630 \pm 130$		430	0.62 ± 0.27	$20,530 \pm 120$
	315	1.00 ± 0.38	$20,700 \pm 180$		724	0.22 ± 0.30	$>46,530$
	523	-6.97 ± 0.06	$>40,390$	No.3	278	-7.50 ± 0.08	$10,525 \pm 60$
	604	-5.04 ± 0.11	$>43,680$		418	-1.88 ± 0.39	$23,570 \pm 160$
	653	9.39 ± 0.24	$>51,080$		707	-0.85 ± 0.29	$>45,660$

$\delta^{13}\text{C}$: 同位体分別補正に用いた ^{13}C の存在比 (‰)

火山灰分析結果 (屈折率)

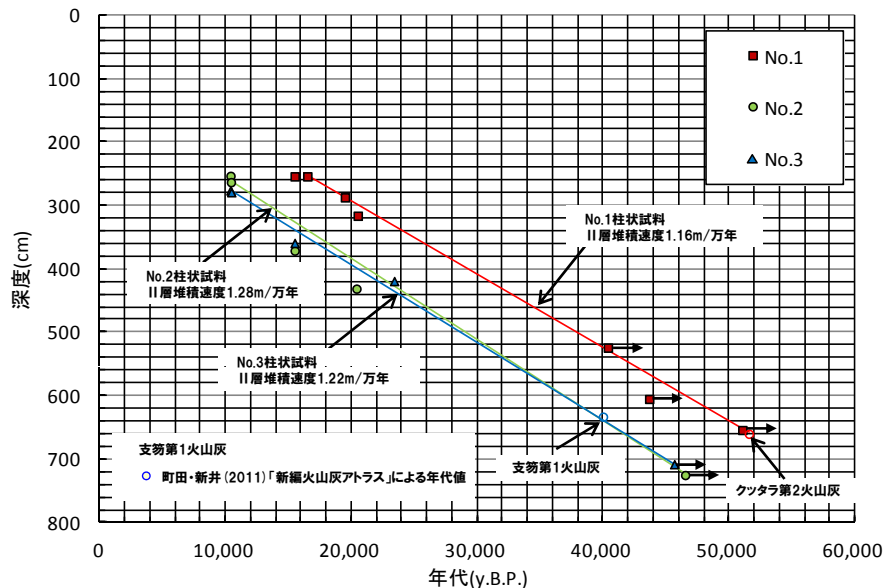
火山灰	屈折率			対比テフラ
	火山ガラス	斜方輝石	角閃石	
No.1試料採取位置 深度659cm	1.512-1.516	1.712-1.716	検出されず	Kt-2
No.3試料採取位置 深度632cm	1.500-1.503	1.714-1.718 (23%) 1.729-1.734 (77%)	1.683-1.692	Spfa-1
対比資料 (町田・新井, 2011)	Toya	1.494-1.498	1.758-1.761	1.674-1.684
	Kt-2	1.505-1.515	1.712-1.718	1.678-1.684
	Spfa-1	1.501-1.505	1.729-1.735	1.688-1.691

3. 各層の地質時代

③-6 II層の地質時代 (II層基底の年代に関する検討)

- 柱状試料中の有孔虫の¹⁴C分析試料の採取深度及び試料から得られる年代値からII層の堆積速度を推定した。
- なお、推定に当たっては、火山灰の採取深度、TL-1層及びTL-2層の深度及び試料から得られる年代値等も参考としている。
- 各試料採取位置での年代値測定結果から、II層の堆積速度は約1.2～1.3m/万年と推定される。
- 次に、推定したII層の堆積速度を用いて、II層基底の地質年代を試算した(右下表)。
- II層基底の地質年代は約15～40万年前と試算される。

平均堆積速度と各年代測定値との関係図



- TL-1層及びTL-2層の堆積年代(池原ほか, 1996)は、それぞれの上面深度にプロットした。
- ¹⁴C法年代測定値は、分析試料を採取した深度にプロットした。
- クッタラ第2火山灰の年代値は、各試料採取位置の堆積速度線上の試料産出深度にプロットした。

II層基底の地質年代推定結果

試料採取位置	年代値及び採取深度		II層堆積速度 (m/万年) ⑤ = ((①-③) / 100) / ((②-④) / 10,000)	II層層厚 (m) ⑥	II層基底の地質年代 (万年) ⑦ = ⑥ / ⑤ + ④ / 10,000
	最も古い試料 (①深度: cm) (②年代値: y.B.P.)	最も若い試料 (③深度: cm) (④年代値: y.B.P.)			
No.1	653	253	1.16	16	15.5
	51,080	16,510			
No.2	724	262	1.28	50	40.1
	46,530	10,435			
No.3	707	278	1.22	25	21.5
	45,660	10,465			

○II層堆積速度の計算※

- 各試料の年代値を用いて、最も古い試料の採取深度から、最も若い試料の採取深度まで堆積するまでの経過時間から堆積速度を算出した。

$$\left(\frac{\text{深度の差}}{\text{経過時間}} \right) \text{ 堆積速度}$$

•No.1試料採取位置の例

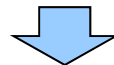
$$\left(\frac{653 - 253}{100} \div \frac{51,080 - 16,510}{10,000} \right) 1.16 \text{ m / 万年}$$

※ II層堆積速度の計算 : 各柱状試料中の年代測定値が得られた深度(約2.5m以深)を対象とした。
II層基底の地質年代の試算: 当試算は、各試料採取位置の水深が深く、海進・海退の影響が小さい静穏な環境であったものと推定されることから、堆積速度一定と仮定している。

3. 各層の地質時代

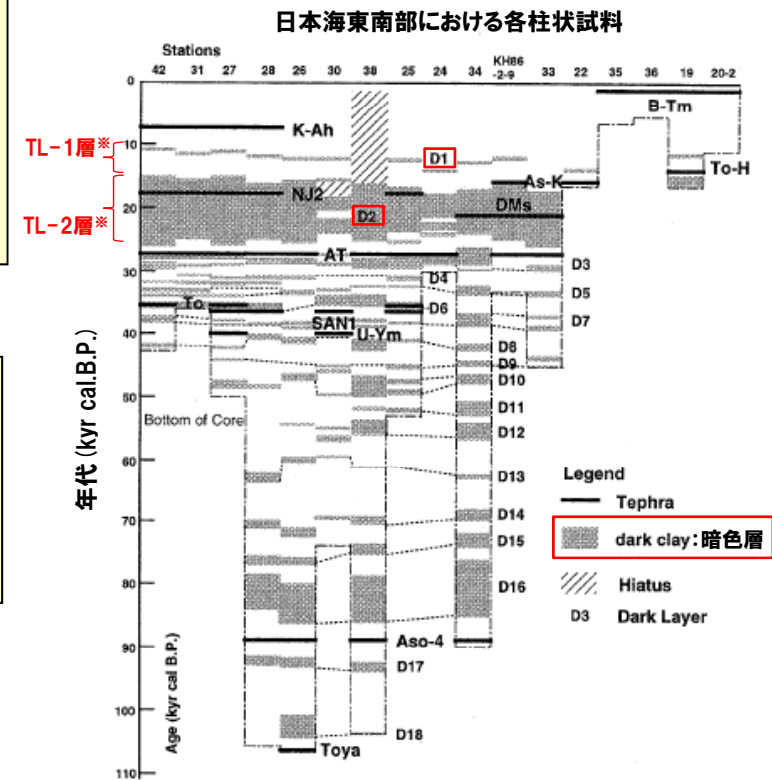
③-7 II層の地質時代 (TL-1層及びTL-2層について)

- 中嶋ほか (1996) によれば、日本海における第四紀堆積物は、世界的な気候変動や海水準変化により、明色と暗色を周期的に繰り返す泥層からなるとされており、下表に示す層相や分布が認められるとされている。
- 池原ほか (1996) によれば、中嶋ほか (1996) における暗色層のうちD1層及びD2層は、それぞれTL-1層及びTL-2層に対比されるとされている。
- 池原ほか (1996) によれば、TL-1層及びTL-2層最上部で¹⁴C法年代測定を実施し、それぞれ約10,400年前及び約15,500年前の年代値を得ているとされている。



- 当該暗色層 (TL-1層及びTL-2層を含む) は、日本海に広く分布する鍵層である。
- 当社柱状試料に認められる暗色を帯びる層は、上位又は下位の¹⁴C年代測定結果及び層相からTL-1層及びTL-2層に対比されるものと判断される。

項目	記載内容
層相	<ul style="list-style-type: none"> ○暗色を帯びた色により上下の地層から区別される。 ○多くは生物擾乱に乏しく葉理が発達するが、生物擾乱や葉理の発達の程度は暗色層によって異なっている。
分布	<ul style="list-style-type: none"> ○日本海東南部における各柱状試料において、テフラ年代との関係から、いずれの柱状試料でもほぼ同時期に出現する (右図)。 ○日本海盆北東縁、日本海南西部及び日本海南東部に分布している。



各柱状試料におけるテフラと暗色層との関係 (中嶋ほか, 1996に加筆)

※ 池原ほか (1996) によれば、中嶋ほか (1996) におけるD1層及びD2層は、それぞれTL-1層及びTL-2層に対比されるとされている。

④-1 III層及びIV層の地質時代(まとめ)

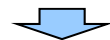
一部修正(H27/5/29審査会合)

【III層】

- III層は、海上保安庁水路部(1995)における第四系中部更新統に概ね対比される。
- III層の下部は、海陸の地層の連続性を確認するために敷地近傍海域で実施した海上音波探査及び反射法地震探査(測線H25)と梨野舞納地点におけるボーリング調査結果との対比から、第四系下部～中部更新統の岩内層に対比される。

【IV層】

- IV層は、海陸の地層の連続性を確認するために敷地近傍海域で実施した海上音波探査及び反射法地震探査(測線H25)と梨野舞納地点におけるボーリング調査結果との対比から、第四系下部更新統の野塚層(下部層相当)に対比される。



○これらのことから、III層は第四系下部～中部更新統、IV層は下部更新統と判断される。

3. 各層の地質時代

④-2 III層及びIV層の地質時代(海上保安庁水路部(1995)との対比)(-1/2-)

- 海上保安庁水路部(1995)「5万分の1海底地質構造図 寿都」では、陸域との対比により海域の地質年代を推定しており、陸域の段丘を2段に区分し、II_s層を「低位段丘堆積物」に、III_s層を「高位段丘堆積物」に対比している。
- 海上保安庁水路部(1995)では、「高位段丘」は熱帯火砕流堆積物(112~115ka(町田・新井, 2011))に不整合に覆われる河成段丘や寿都湾周辺の最上位の海成段丘(小池・町田(2001)に示されるMIS5eの段丘より高位の段丘)を指しており、より新しい知見では第四系中部更新統と判断され、海域のIII_s層も第四系中部更新統と判断される。
- III層は、次頁に示す海上保安庁水路部(1995)における断面図との対比から、海上保安庁水路部(1995)における第四系中部更新統(III_s層及びIV_s層)に概ね対比される。

層序区分表

時代 Geological Age	陸上地質層序* Land Stratigraphy		音波探査層相 Acoustical Stratigraphy in the sea area		
	堆積岩類 Sedimentary Rocks	火成岩類 Igneous Rocks	堆積岩類 Sedimentary Rocks	火成岩類 Igneous Rocks	
第四紀 Quaternary	現世 Recent	沖積層 Alluvium	I _s	VI _s VII _s	
	後期更新世 Late Pleistocene	低位段丘堆積物 Lower terrace Deposits	ニセコ火山群 Niseko Volcano Group		II _s
		高位段丘堆積物 Higher terrace Deposits	ニセコ火山群 Niseko Volcano Group		III _s
	中期更新世 Middle Pleistocene	知来層 Chirai Formation	雷電山火山群 Raiden' yama Volcano Group		IV _s
	前期更新世 Early Pleistocene	瀬棚層 setana Formation	雷電山火山群 Raiden' yama Volcano Group		V _s
新第三紀 Neogene	鮮新世 Pliocene	黒松内層 Kuromatsunai Formation	VI _s	VII _s	
	中新世 Miocene	八雲層 Yakumo Formation	VI _s		

*地質調査所(1991):20万分の1地質図幅「岩内」,地質調査所。
久保ほか(1983):5万分の1地質図幅「長万部」,地質調査所,70。
鈴木ほか(1981):5万分の1地質図幅「寿都」,北海道地下資源調査,32。
山岸(1984):5万分の1地質図幅「歌麻」,北海道地下資源調査,43。
山岸ほか(1976):5万分の1地質図幅「島古丹」,北海道地下資源調査,24。
加藤ほか(編)(1990):日本の地質1北海道地方,共立出版,337。

(海上保安庁水路部(1995)に加筆)

陸域と敷地前面海域の地質対比表

地質時代	陸域の地質				海域の地質
	積丹地域	尻別川地域	黒松内低地帯地域	弁慶岬西方地域	敷地前面海域
完新世	沖積層	沖積層	沖積層	沖積層	I
	低位段丘堆積物	低位段丘堆積物	低位段丘堆積物	低位段丘堆積物	II
第四紀更新世	中位段丘堆積物	中位段丘堆積物	中位段丘堆積物	中位段丘堆積物	
	高位段丘堆積物及び発足層	高位段丘堆積物 三和層	高位段丘堆積物 知来川層	高位段丘堆積物	III
前期	野塚層	岩内層 鮎川層	瀬棚層	歌島層	IV
		尻別川層			
鮮新世	余別層		黒松内層	永豊層	V
第三紀更新世	後期	神恵内層	磯谷層	二股層	VI
	中期			八雲層	
前期	古平層			折川層	
古第三紀	漸新世	茅沼層		調経層	VII
	始新世				
白堊紀	花園岩類		花園岩類		
先白堊紀	リヤムナイ層				
新第三紀鮮新世					VII*

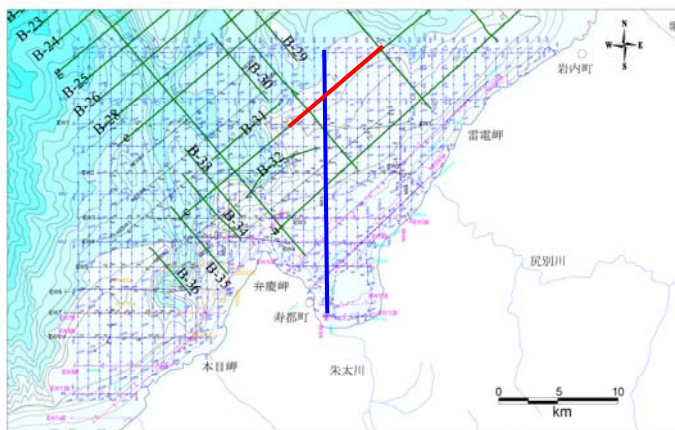
*VII層は尻別川西方付近に局所的に分布し、新第三紀鮮新世に形成された貫入岩と判断される

3. 各層の地質時代

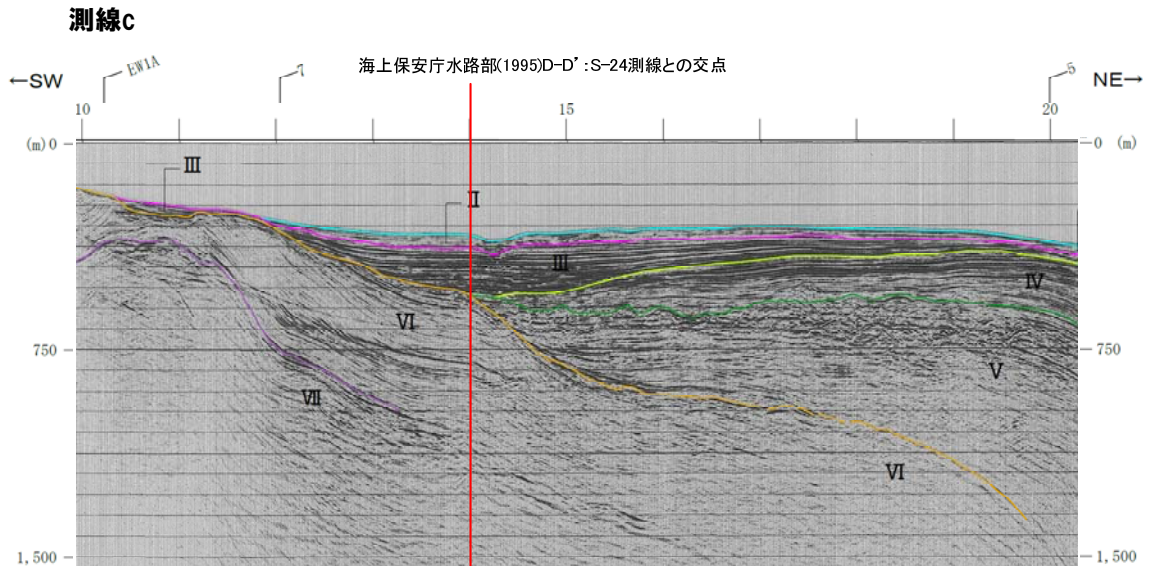
④-2 III層及びIV層の地質時代(海上保安庁水路部(1995)との対比)(-2/2-)

【文献対比の例】

- 当社海上音波探査測線cは、距離程14km付近において、海上保安庁水路部(1995)におけるD-D'断面S-24測線と交差している。
- 当該交差箇所付近では、当社III層及び海上保安庁水路部(1995) III_S層及びIV_S層が概ね同程度の深度に認められる。



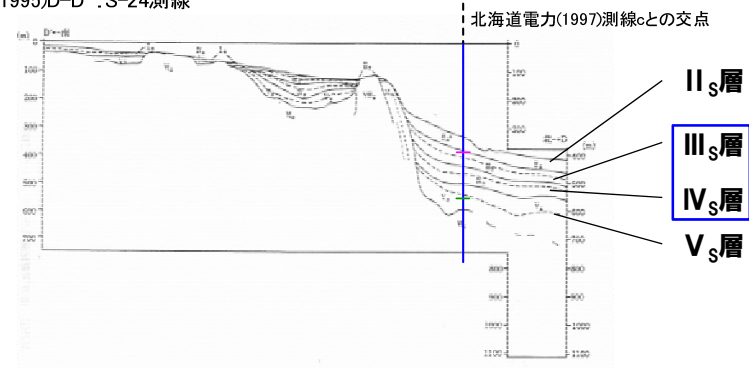
— 海上保安庁水路部(1995)による断面図
 — 当社海上音波探査測線c



海上保安庁水路部5万分の1
 沿岸海の基本図「寿都」(1995)D-D':S-24測線

- 凡例
- I層 (完新統)
 - II層 (上部更新統)
 - III層 (下部～中部更新統)
 - IV層 (下部更新統)
 - V層 (上部中新統～鮮新統)
 - VI層 (中新統以下)
 - VII層 (始新統以下)
 - VIII層 (貫入岩)

※色付線は各層の上面を表す



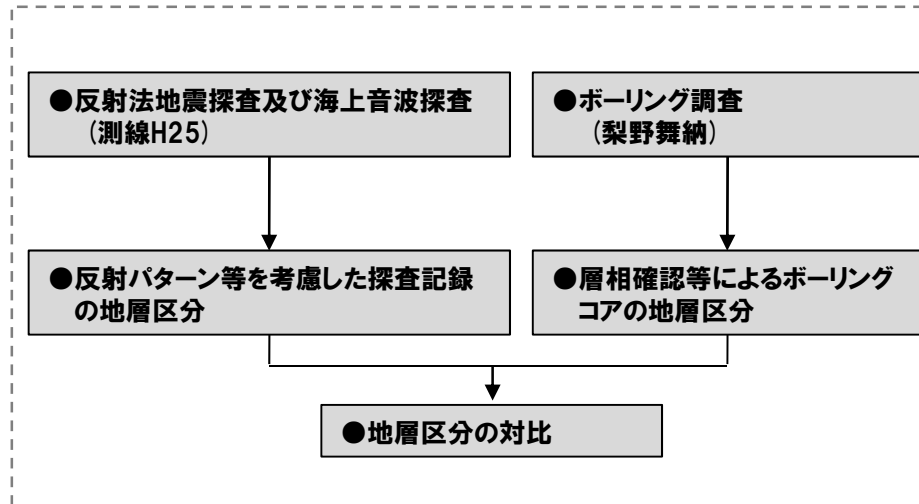
- II_S層
- III_S層
- IV_S層
- V_S層

3. 各層の地質時代

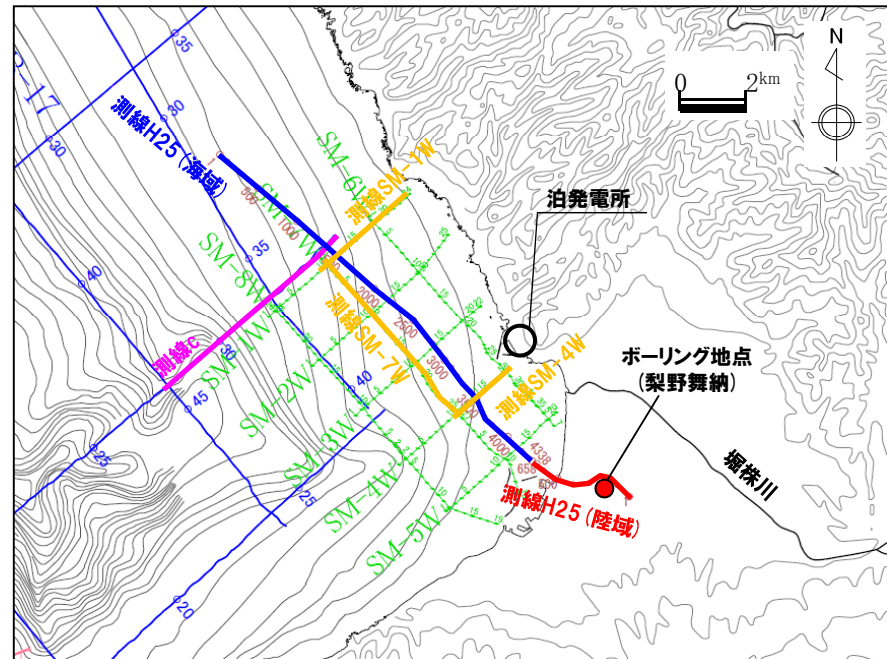
④-3 III層及びIV層の地質時代（海陸の地層連続性確認）

一部修正（H27/5/29審査会合）

○ III層及びIV層は、海陸の地層の連続性を確認するために敷地近傍で実施した海上音波探査及び反射法地震探査（測線H25）と梨野舞納地点におけるボーリング調査結果との対比から、地質時代の対比を行っている。



地層時代の対比フロー



位置図

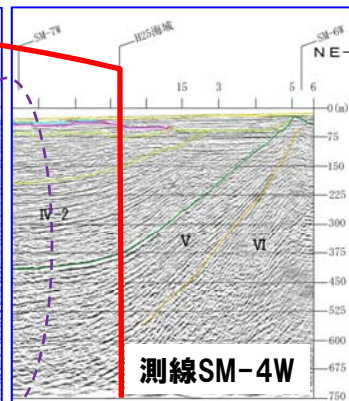
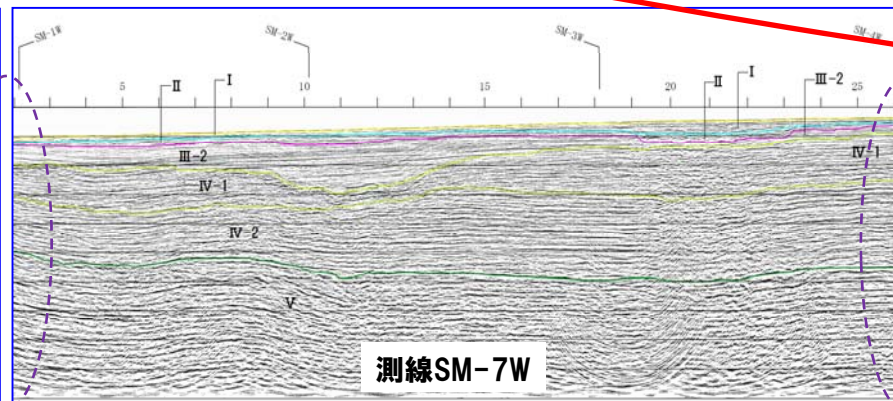
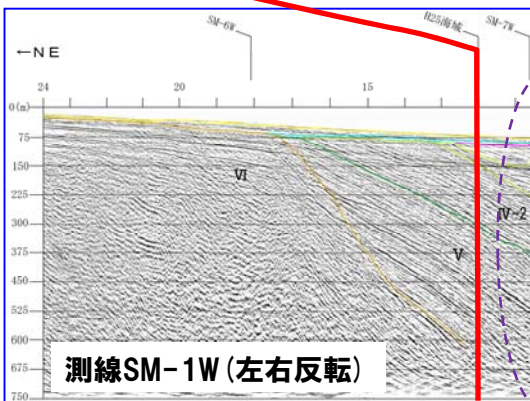
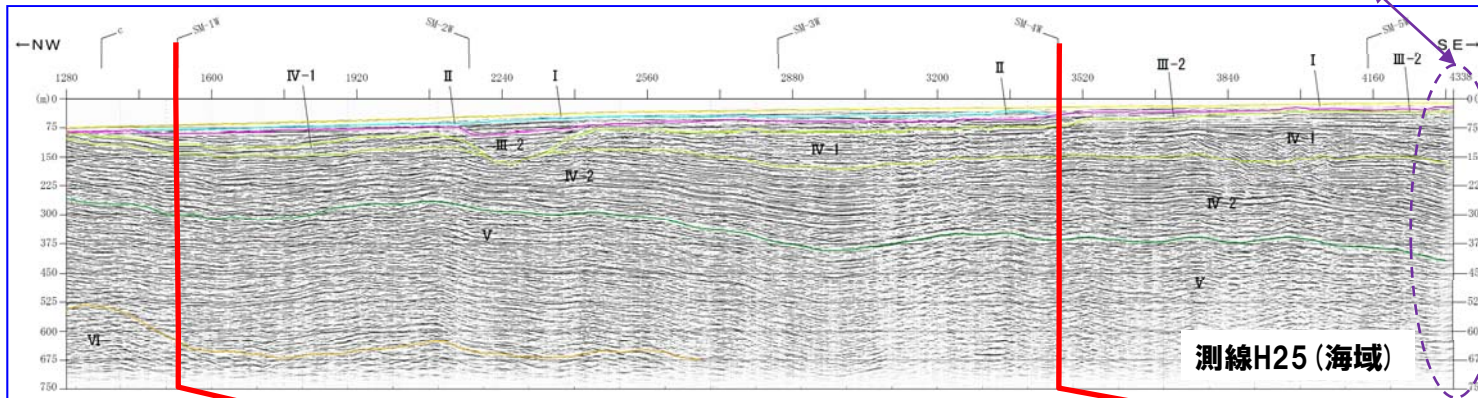
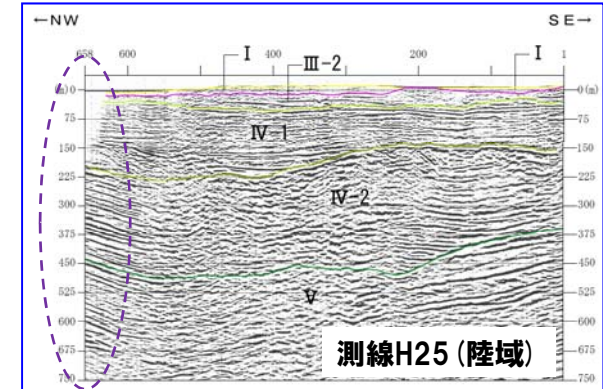
3. 各層の地質時代

④-3 III層及びIV層の地質時代 (海陸の地層連続性確認)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

- 測線H25の海上音波探査及び反射法地震探査記録を示す。
- 測線H25の各地層は、海域から陸域まで連続し、近傍測線とも連続することを確認した。
- なお、敷地近傍海域においては、対象深度が比較的浅いウォーターガン音源とした探査を実施しており、敷地に近接していることから、III層及びIV層については、不整合関係が認められる層内境界により、それぞれ、III-1層及びIII-2層並びにIV-1層及びIV-2層に細分化している。

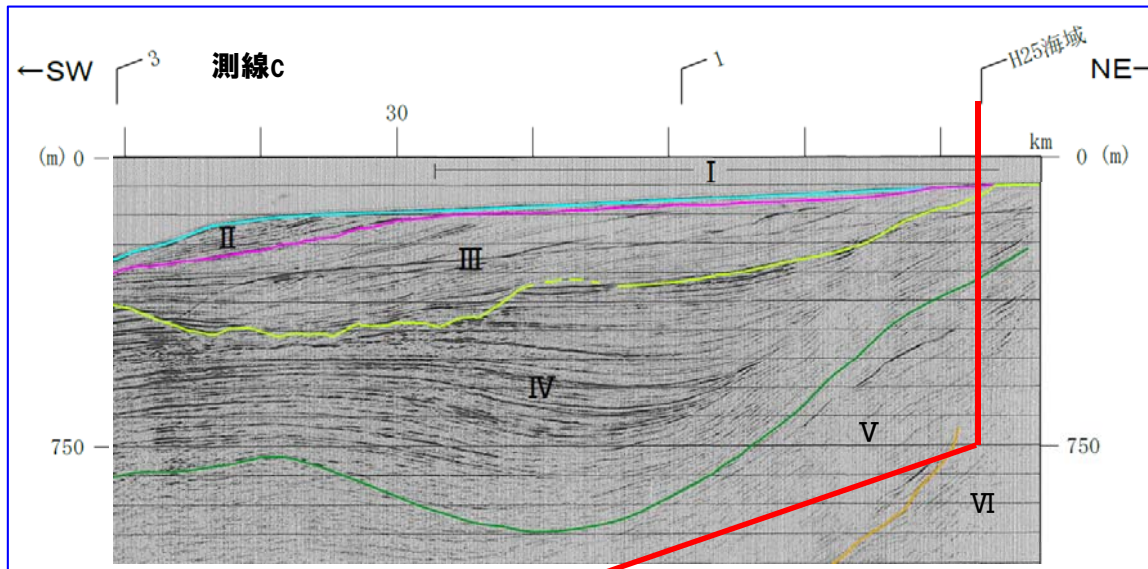
- 凡例
- I層 (完新統)
 - II層 (上部更新統)
 - III-1層 (中部更新統)
 - III-2層 (下部~中部更新統)
 - IV-1層 (下部更新統)
 - IV-2層 (下部更新統)
 - V層 (上部中新統~鮮新統)
 - VI層 (中新統以下)
 - VII層 (始新統以下)
 - VIII層 (貫入岩)
- ※色付線は各層の上面を表す



3. 各層の地質時代

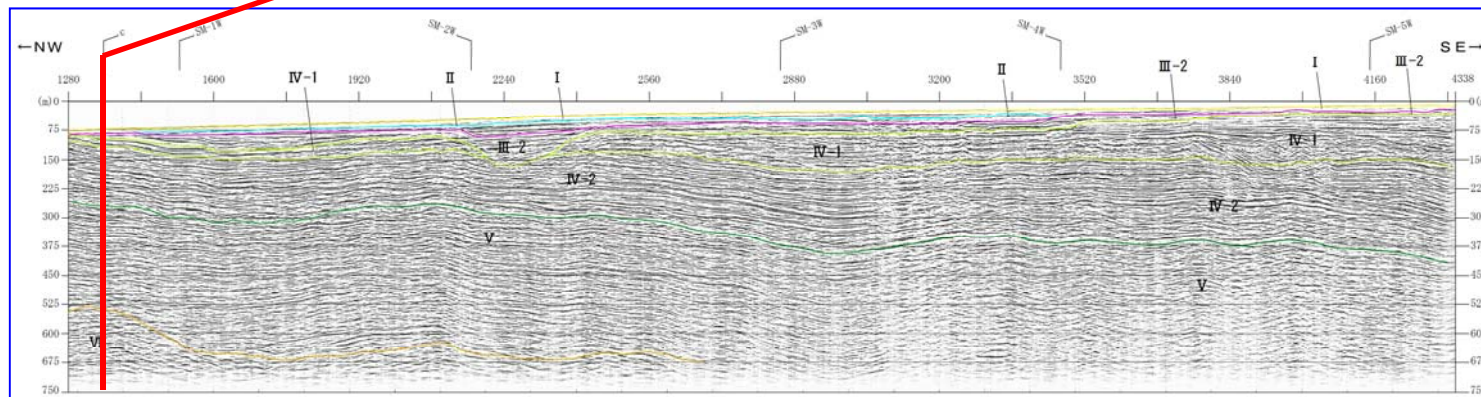
④-3 III層及びIV層の地質時代（海陸の地層連続性確認）

○測線H25（海域）の各地層は、敷地前面海域の測線cの各地層と連続することを確認した。



- 凡例
- I層（完新統）
 - II層（上部更新統）
 - III層（下部～中部更新統）
 - IV層（下部更新統）
 - V層（上部中新統～鮮新統）
 - VI層（中新統以下）
 - VII層（始新統以下）
 - VIII層（貫入岩）
- ※色付線は各層の上面を表す

測線H25（海域）



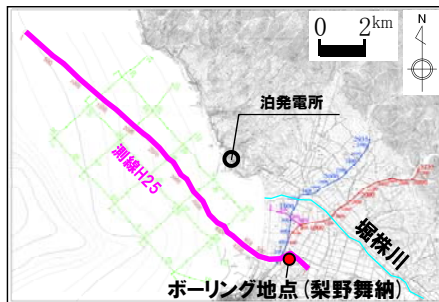
- 凡例
- I層（完新統）
 - II層（上部更新統）
 - III-1層（中部更新統）
 - III-2層（下部～中部更新統）
 - IV-1層 } (下部更新統)
 - IV-2層 }
 - V層（上部中新統～鮮新統）
 - VI層（中新統以下）
 - VII層（始新統以下）
 - VIII層（貫入岩）
- ※色付線は各層の上面を表す

3. 各層の地質時代

④-4 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(総括))

一部修正(H27/5/29審査会合)

- 第四系下部更新統～中部更新統の岩内層の露頭が確認される梨野舞納地点においてボーリングを実施した。
- 地質層序を確認するため、ボーリングコアについて検討し、以下のことを確認した。
 - ・深度33.69m(EL.-22.26m)以浅に分布する砂層、シルト層及び砂礫層は岩内層に対比される。
 - ・深度33.69m以深に分布する砂層、シルト層及び砂礫層は第四系下部更新統～中部更新統の野塚層(下部層相当)に対比される。



梨野舞納地点位置図

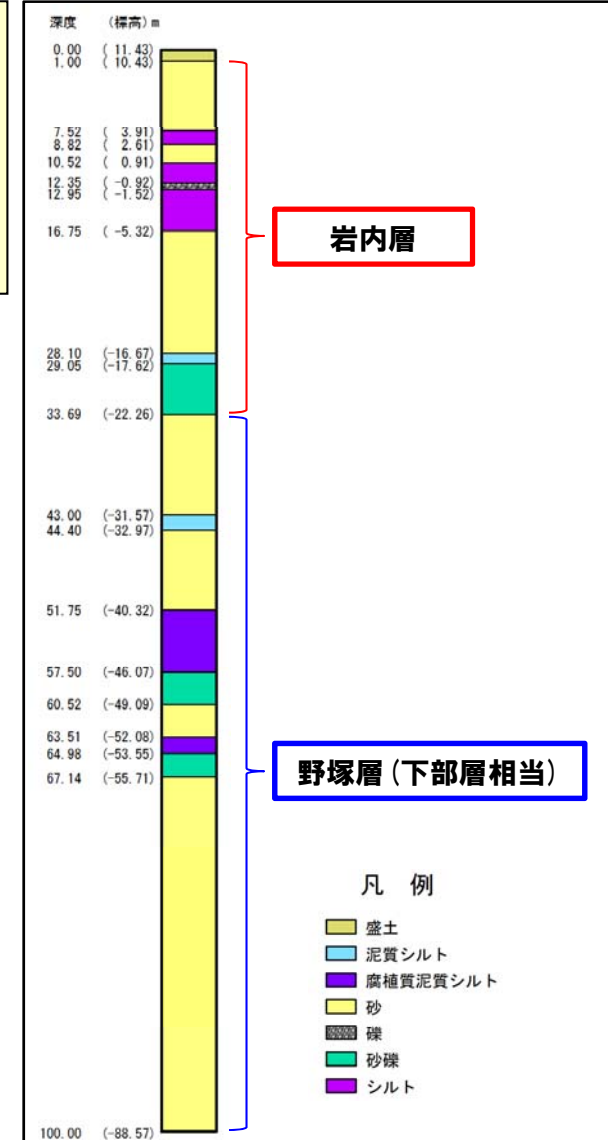


梨野舞納地点状況写真

積丹地域の地質層序表

地質時代	地層名	主な岩相	
第四系	沖積層	礫・砂・粘土	
	低位段丘堆積物	礫・砂・粘土	
	中位段丘堆積物	礫・砂・粘土	
	高位段丘堆積物及び発見層	礫・砂・粘土	
	野塚層	砂・礫	
	岩内層	砂・礫	
	第三系	余別層	安山岩質火砕岩・砂岩・泥岩
		神恵内層	安山岩溶岩及び同質火砕岩・泥岩
		古平層	安山岩溶岩及び同質火砕岩・デイサイト溶岩及び同質火砕岩・玄武岩溶岩及び同質火砕岩・礫岩・砂岩・泥岩
	白亜紀	茅沼層	泥岩・安山岩溶岩及び同質火砕岩・流紋岩溶岩及び同質火砕岩
花園岩類		花園閃緑岩	
先白亜紀	リヤムナイ層	頁岩・砂岩	

~~~~~ : 不整合



梨野舞納地点ボーリング柱状図

凡例

- 盛土
- 泥質シルト
- 腐植質泥質シルト
- 砂
- 礫
- 砂礫
- シルト

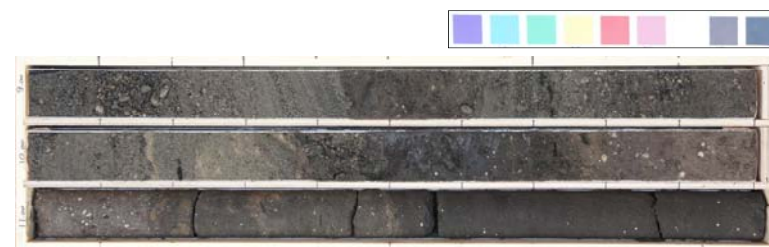
### 3. 各層の地質時代

④-5 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリングコア写真1/4-))

再掲(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度0~15m)



コア写真(深度9~12m)別孔



### 3. 各層の地質時代

④-5 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリングコア写真2/4-))

再掲(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度15~30m)



コア写真(深度30~45m)

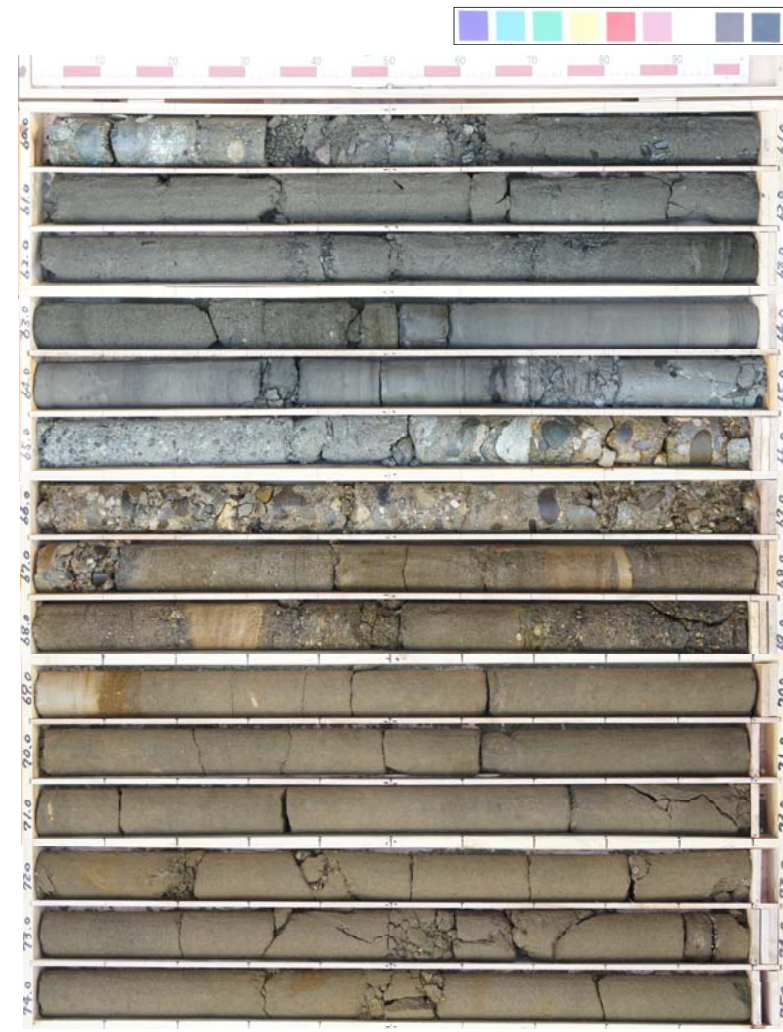
### 3. 各層の地質時代

④-5 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリングコア写真3/4-))

再掲(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度45~60m)



コア写真(深度60~75m)



### 3. 各層の地質時代

④-5 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリングコア写真4/4-))

再掲(H27/5/29審査会合)



コア写真(深度75~90m)



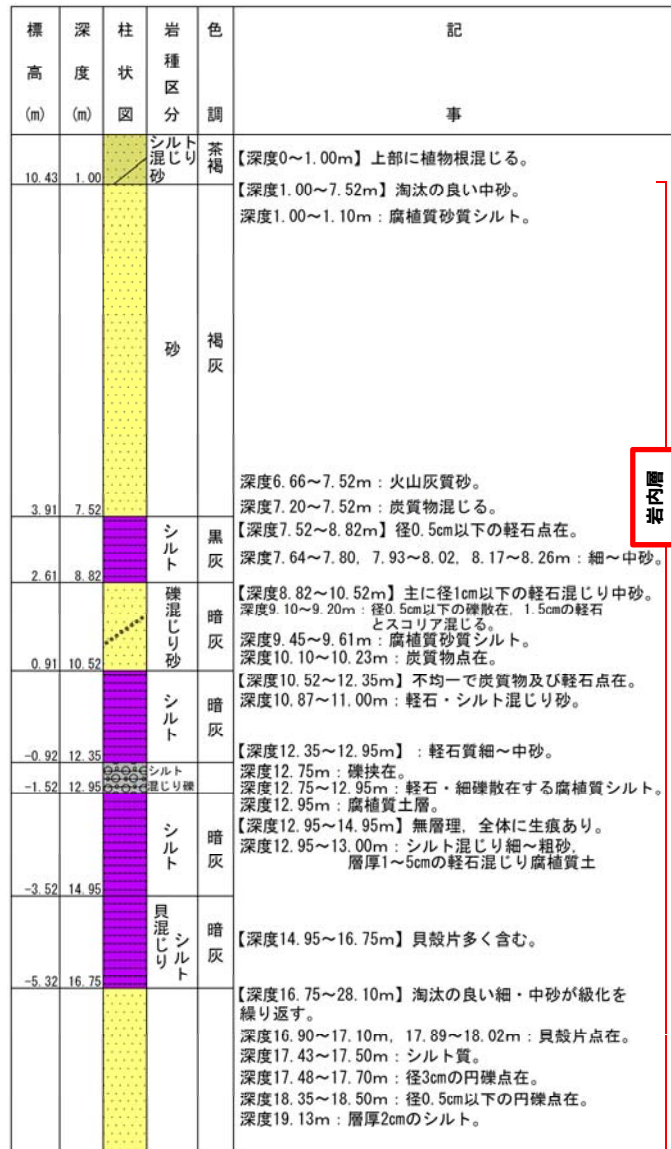
コア写真(深度90~100m)



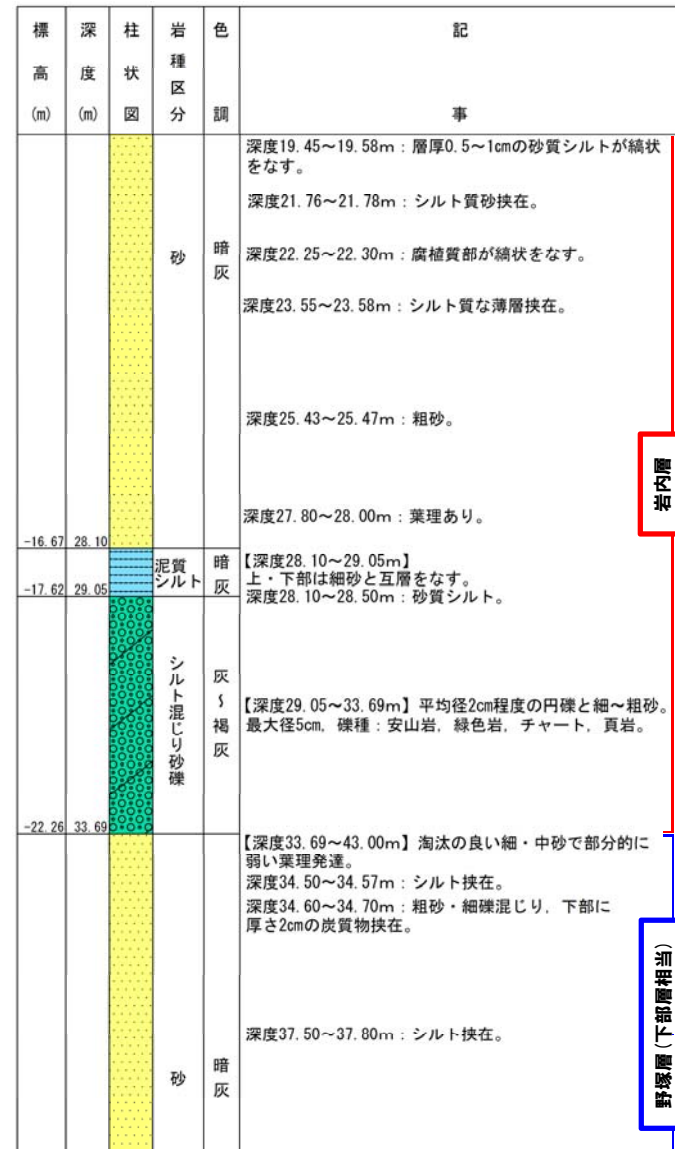
### 3. 各層の地質時代

④-6 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリング柱状図1/3-))

再掲(H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図(深度0~20m)

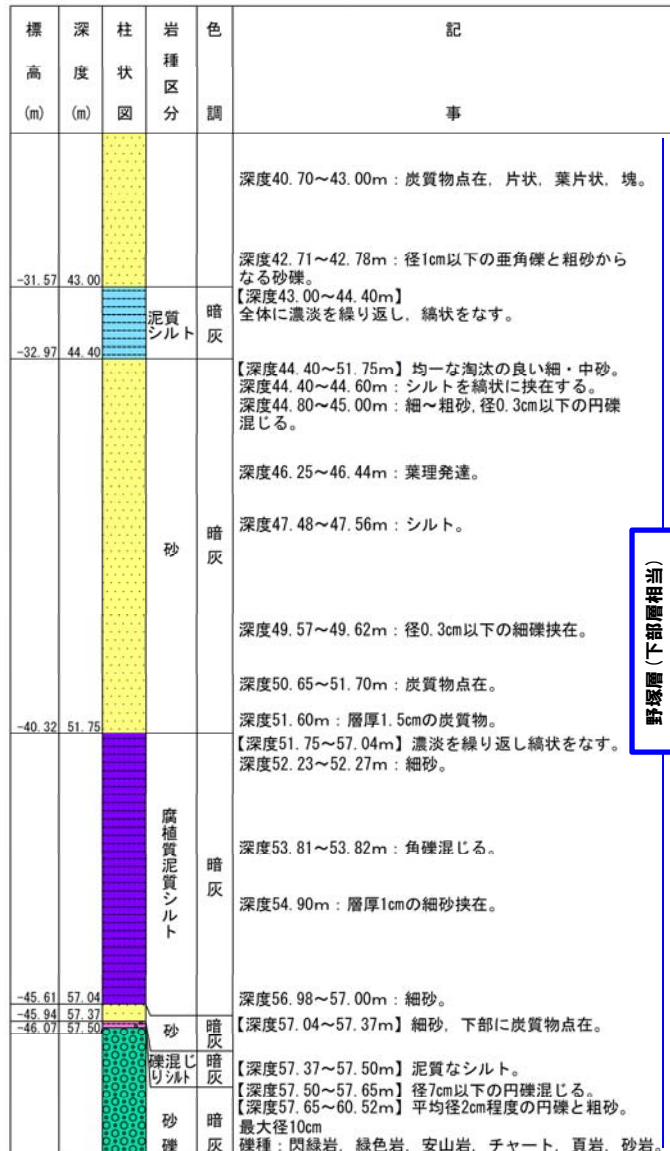


ボーリング柱状図(深度20~40m)

# 3. 各層の地質時代

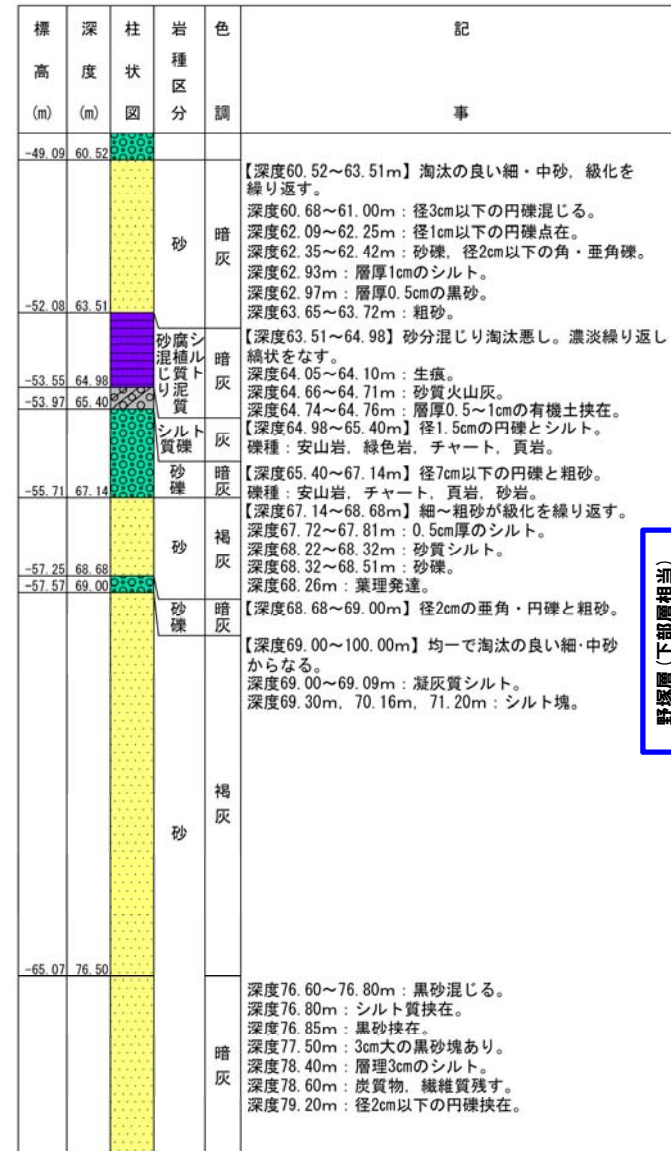
④-6 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリング柱状図2/3-))

再掲(H27/5/29審査会合)



ボーリング柱状図(深度40~60m)

野塚層(下部層相当)



ボーリング柱状図(深度60~80m)

野塚層(下部層相当)

④-6 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(-ボーリング柱状図3/3-))

再掲(H27/5/29審査会合)

| 標高<br>高度<br>(m) | 深<br>度<br>(m) | 柱<br>状<br>図 | 岩<br>種<br>区<br>分 | 色<br>調 | 記<br>事                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------|---------------|-------------|------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |               |             |                  |        | <p>深度80.43~80.84m: 最大4cm大の炭質物点在。</p> <p>深度82.60~82.68m: 黒砂混じる。<br/>深度83.30~83.50m: 黒砂混じる。</p> <p>深度85.60~86.38m: 径0.3cm程度の垂角・円礫混じる粗砂。<br/>深度86.92~86.93m: 層厚1cmのシルト挟在。</p> <p>砂<br/>暗<br/>灰</p> <p>深度89.44m: 層厚1cmのシルト。<br/>深度90.91m: 層厚2cmの粗砂。<br/>深度91.16m: シルト, 乱れあり。</p> <p>深度93.72~93.90m: 径0.5cm以下の円礫混じる。</p> <p>深度98.00m, 98.42m: 貝殻片わずかに混じる。</p> |
| -88.57          | 100.00        |             |                  |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

野塚層(下部層相当)

ボーリング柱状図(深度80~100m)

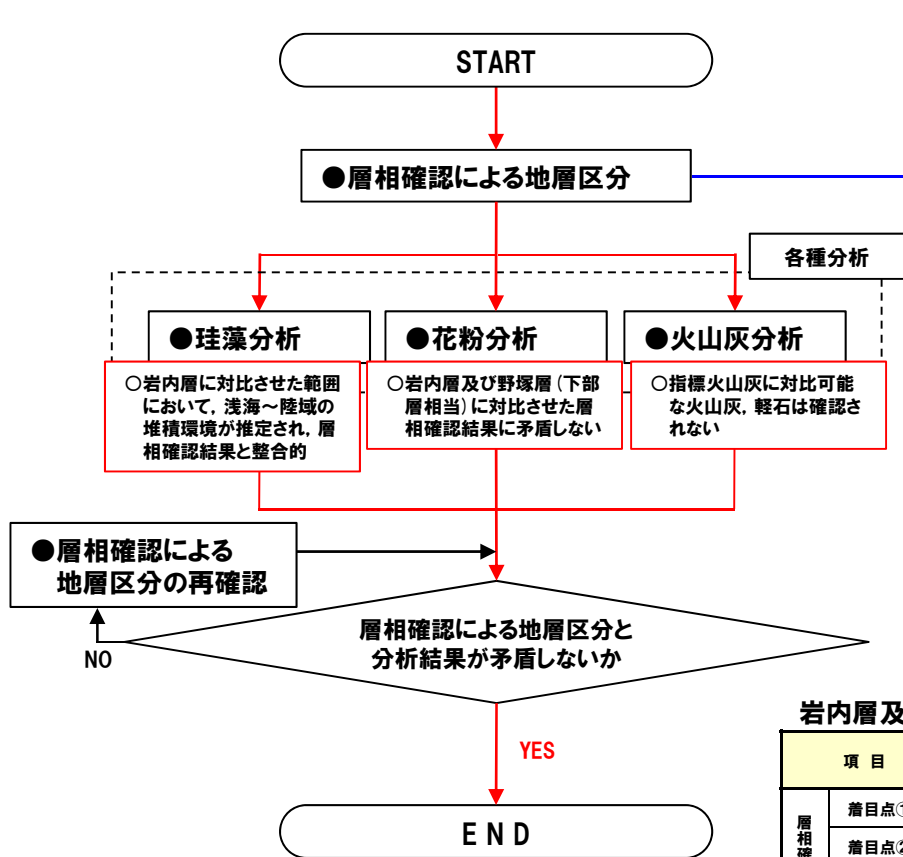


# 3. 各層の地質時代

④-7 III層及びIV層の地質時代 (梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討 (地層区分結果))

一部修正 (H27/5/29審査会合)

○ボーリングコアの地層区分フロー (P52参照) に基づき、梨野舞納地点におけるボーリングコアの地層区分を行った。



**岩内層の層相解釈**

【着目点①】  
岩内層は、砂層主体の層 (浅海~陸域の堆積環境) が連続するものと推定される。

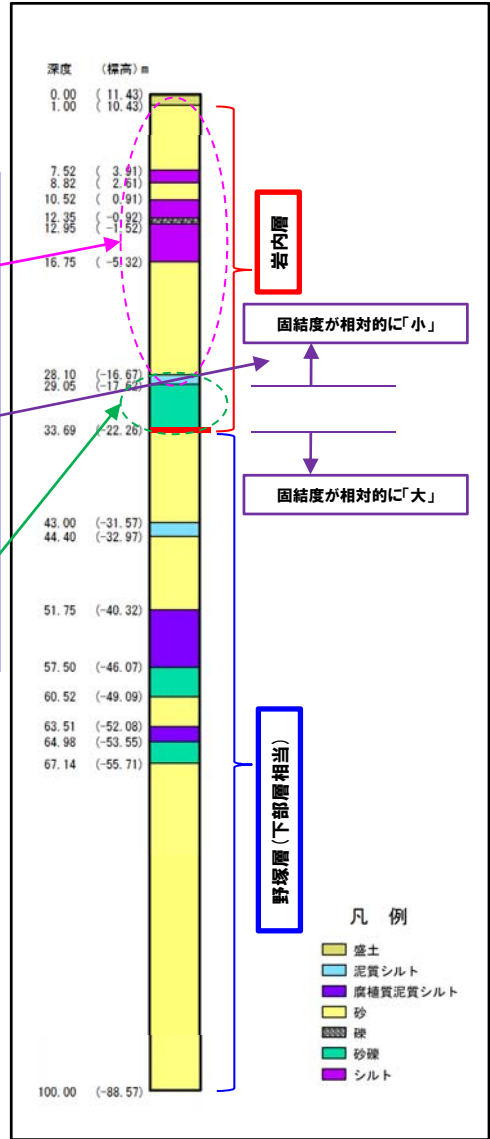
【着目点②】  
岩内層の固結度は、野塚層 (下部層相当) と比較して、小さいものと推定される。

【着目点③】  
層相が砂層主体から変化する範囲に、岩内層と野塚層 (下部層相当) の地層境界が存在するものと推定される。

※3つの着目点を複合的に考慮

岩内層及び野塚層 (下部層相当) の地層区分結果

| 項目   | 岩内層   | 野塚層 (下部層相当)                |
|------|-------|----------------------------|
| 層相確認 | 着目点①  | 砂層主体                       |
|      | 着目点②  | 固結度が相対的に「小」                |
|      | 着目点③  | 地層境界に砂礫層が分布                |
| 各種分析 | 珪藻分析  | 浅海~陸域の堆積環境が推定され、層相確認結果と整合的 |
|      | 花粉分析  | 層相確認結果に矛盾しない               |
|      | 火山灰分析 | 指標火山灰に対比可能な火山灰、軽石は確認されない   |



梨野舞納地点ボーリング柱状図

ボーリングコアの地層区分フロー

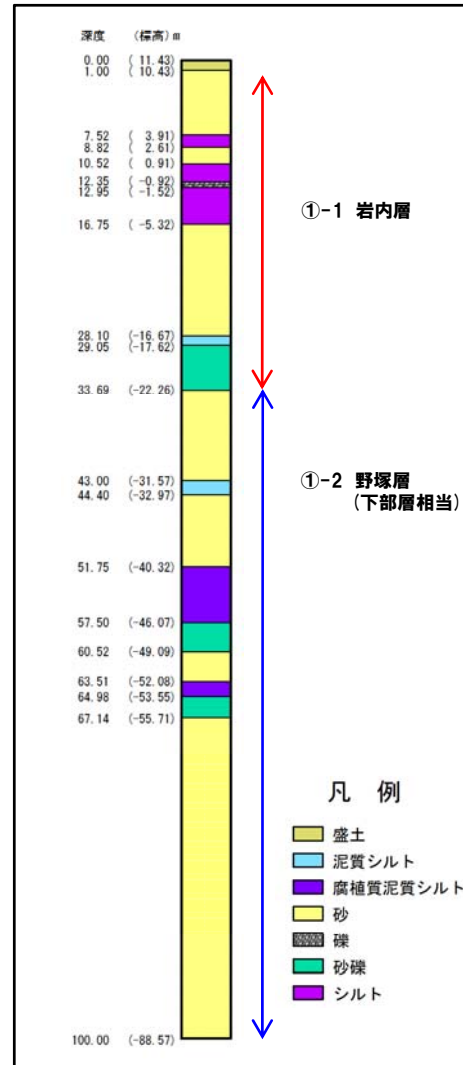
# 3. 各層の地質時代

④-8 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(層相確認))

一部修正(H27/5/29審査会合)

- 梨野舞納地点におけるボーリングコアの層相は、大きく①砂主体の層となる。
- 詳細な層相確認結果から、当ボーリングコアは、それぞれ以下の地層に対比される。

- ①-1 深度33.69m(EL.-22.26 m)以浅 ⇒ 岩内層
  - ・葉理の認められる砂層を主体とし、シルト層及び円礫主体の砂礫層が分布する。
  - ・深度33.69m(EL.-22.26m)以深の砂層及びシルト層と比較して、固結度が相対的に小さい。
- ①-2 深度33.69m(EL.-22.26m)以深 ⇒ 野塚層(下部層相当)
  - ・砂層を主体とし、シルト層及び円礫主体の砂礫層が分布する。
  - ・67.14m～、塊状の細～粗砂からなり、局所的にシルトを挟む。
  - ・深度33.69m(EL.-22.26m)以浅の砂層及びシルト層と比較して、固結度が相対的に大きい。



梨野舞納地点ボーリング柱状図

積丹地域の地質層序表

| 地質時代 | 地層名          | 主な岩相                           |
|------|--------------|--------------------------------|
| 更新世  | 沖積層          | 礫・砂・粘土                         |
| 第四紀  | 高位段丘堆積物      | 礫・砂・粘土                         |
|      | 中位段丘堆積物      | 礫・砂・粘土                         |
|      | 低位段丘堆積物及び坳地層 | 礫・砂・粘土                         |
|      | 野塚層          | 砂・礫・砂・礫                        |
| 第三紀  | 余別層          | 安山岩質火砕岩・砂岩・礫岩                  |
|      | 神志内層         | 安山岩質火砕岩及び同質火砕岩・泥岩              |
| 白垩紀  | 古平層          | 安山岩質火砕岩及び同質火砕岩・砂岩・礫岩・泥岩        |
|      | 茅渚層          | 泥岩・安山岩質火砕岩及び同質火砕岩・泥岩質砂岩及び同質火砕岩 |
| 白垩紀  | 先白垩系         | 泥岩・砂岩                          |
| 先白垩紀 | リムズライ層       | 泥岩・砂岩                          |

〰〰〰 : 不整合

# 3. 各層の地質時代

## ④-9 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(珪藻分析))

## 再掲(H27/5/29審査会合)

- 岩内層に対比される深度33.69m以浅では、浅海性海生種、汽水-淡水生種及び淡水生種の珪藻化石を多産、若しくは、主体とし、海生絶滅種は僅かしか含まれない。
- 野塚層(下部層相当)に対比される深度33.69m以深では、海生種を主体とし、新第三系鮮新統・中新統からの海生絶滅種(再堆積)を多く含む。



- 岩内層に対比される深度では、浅海~陸域の堆積環境が推定され、層相確認の結果と整合的である。

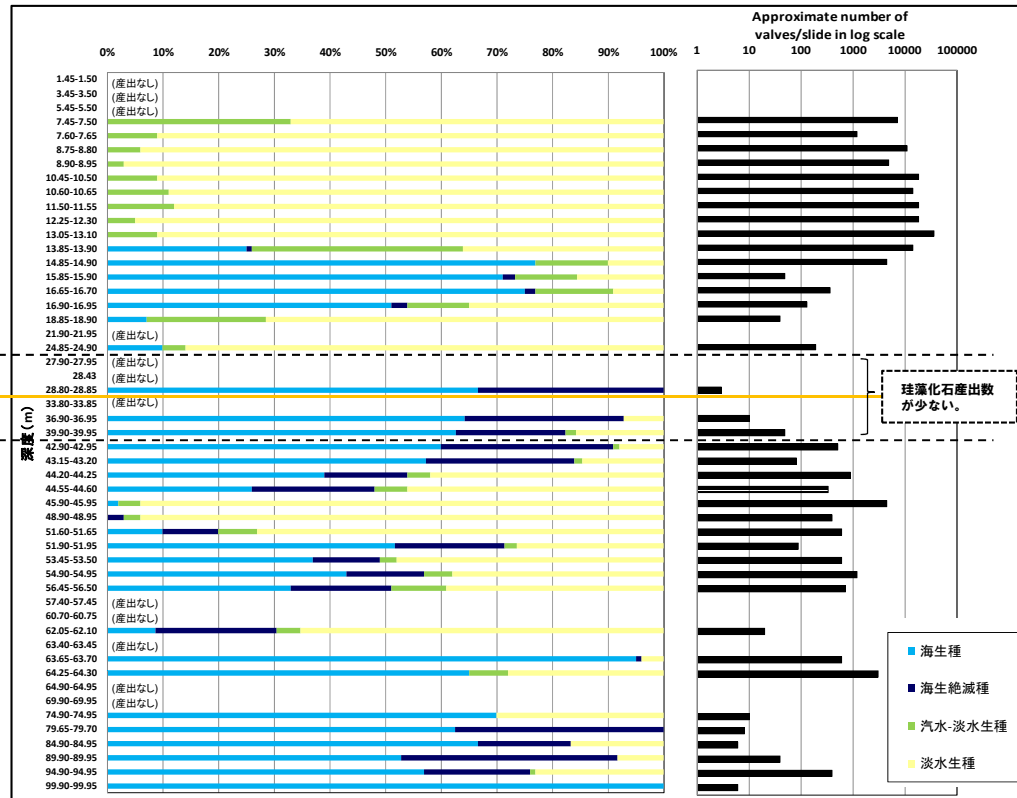
※1珪藻分析は、以下の考えに基づき、実施した。  
 ○盛土、礫及び砂礫を除く箇所から試料を採取した。  
 ○シルトについては概ね1m間隔、砂については概ね2-3m間隔で採取した(ただし、深度67.14m以深の砂については、同一の層相が連続するため、採取間隔を概ね5mとした)。

浅海性海生種、汽水-淡水生種及び淡水生種を多産、若しくは、主体とし、海生絶滅種は僅かしか含まれない。

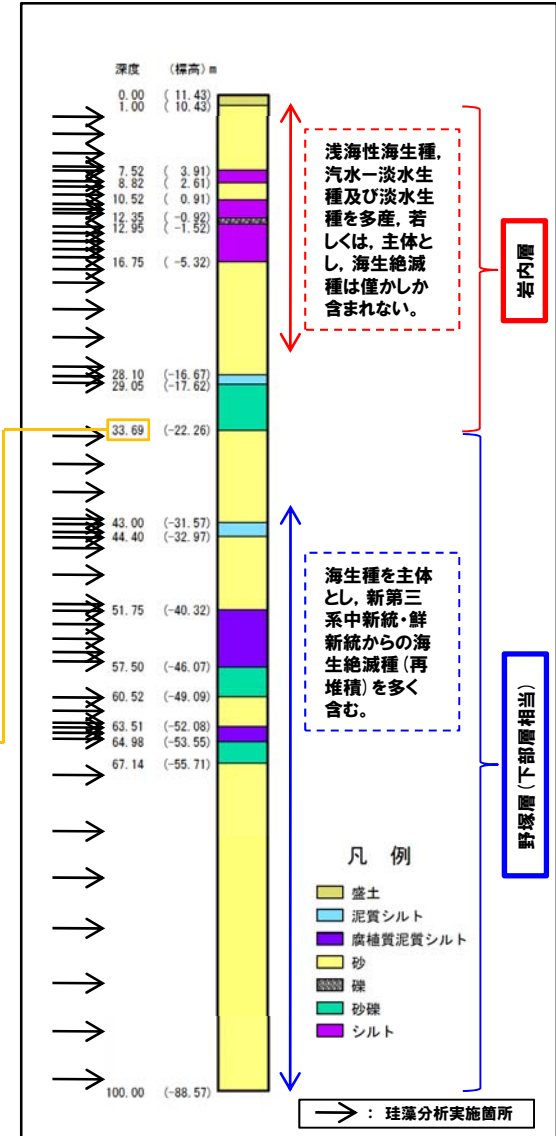
深度33.69m

海生種を主体とし、新第三系中新統・鮮新統からの海生絶滅種(再堆積※2)を多く含む。

※2 *Neodenticula kamtscatica* や *Denticulopsis hustedtii* 等の第三系鮮新統・中新統の珪藻の混在を確認していることから、再堆積と推定される。



珪藻分析結果



梨野舞納地点ボーリング柱状図



### 3. 各層の地質時代

④-10 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(花粉分析))

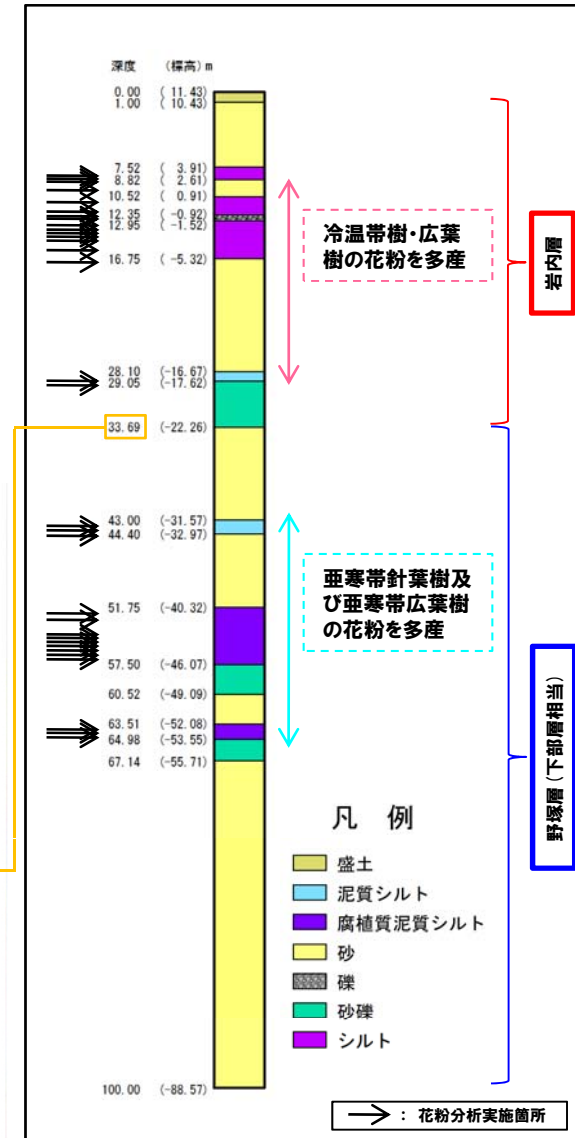
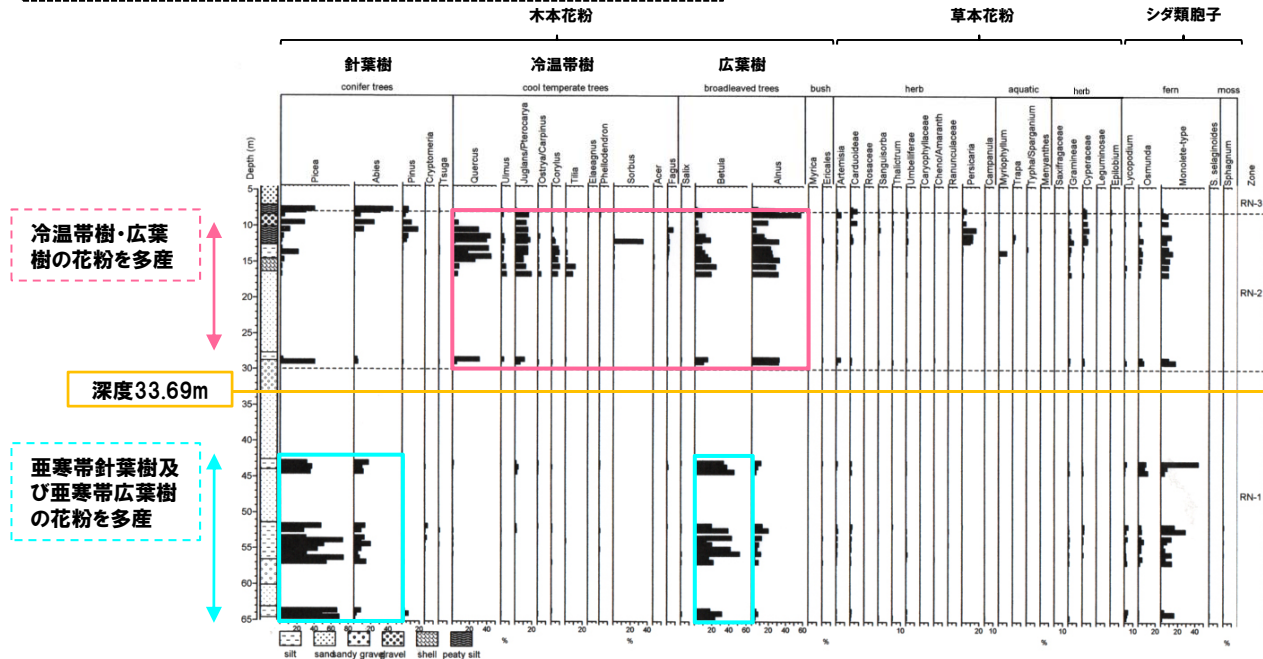
再掲(H27/5/29審査会合)

- 岩内層に対比される深度のうち深度7.65m~29.05mでは、冷温帯樹及び広葉樹の花粉を多産する。
- 野塚層(下部層相当)に対比される深度では、亜寒帯針葉樹及び亜寒帯広葉樹の花粉を多産する。



- 花粉分析結果から気候変動が確認される。
- 確認された花粉は、岩内層及び野塚層(下部層相当)に対比させた層相確認結果に矛盾しない。

※ 花粉分析は、以下の考えに基づき、実施した。  
○泥岩、シルト等の静穏な堆積環境が推定される箇所を実施した。



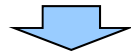
花粉組成図

梨野舞納地点ボーリング柱状図

# 3. 各層の地質時代

## ④-11 III層及びIV層の地質時代(梨野舞納地点におけるボーリングコアの検討(火山灰分析))

○野塚層(下部層相当)に対比される深度のうち深度64.66m以深で火山灰を確認した。



○指標火山灰に対比可能な火山灰, 軽石は確認されなかった。

※ 火山灰分析は, 以下の考えに基づき, 実施した。  
○軽石及び火山灰質な箇所を実施した。

地点名: 梨野舞納

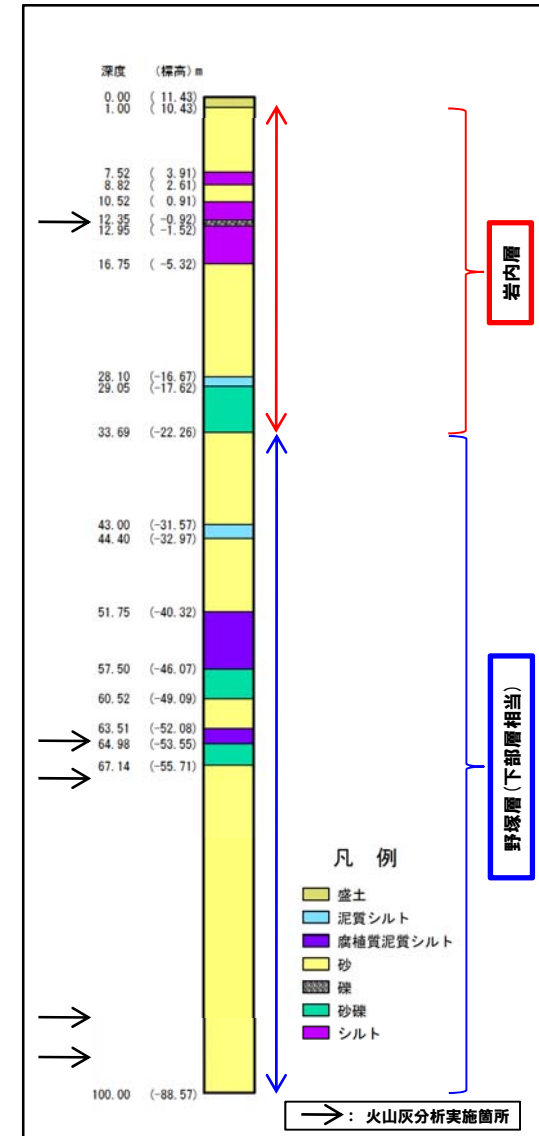
| 深度(m)       | テフラ名 | 火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子) |      |      | 重鉱物の含有量 (/3000粒子) |     |     | β石英 (/3000粒子) | 備考 | 火山ガラスの屈折率(nd) |       | 斜方輝石の屈折率(γ) |       |       |       | 角閃石の屈折率(n2) |       |       |
|-------------|------|------------------------|------|------|-------------------|-----|-----|---------------|----|---------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|
|             |      | 1000                   | 2000 | 3000 | Opx               | GHo | Cum |               |    | 1             | 2     | 3           | 4     | 1     | 2     | 3           | 4     |       |
| 64.66-64.69 |      | 1000                   | 2000 | 3000 | 10                | 20  | 30  |               |    | 1.500         | 1.510 | 1.700       | 1.710 | 1.720 | 1.730 | 1.670       | 1.680 | 1.690 |
| 68.23-68.31 |      |                        |      |      |                   |     |     |               |    |               |       |             |       |       |       |             |       |       |
| 93.73       |      |                        |      |      |                   |     |     |               |    |               |       |             |       |       |       |             |       |       |
| 97.49       |      |                        |      |      |                   |     |     |               |    |               |       |             |       |       |       |             |       |       |

■ パフルウォール(Bw)タイプ  
■ パミス(Pm)タイプ  
■ 磁鉄鉱(O)タイプ

Opx: 斜方輝石  
GHo: 緑色普通角閃石  
Cum: カンダクン角閃石

火山灰分析結果

## 再掲(H27/5/29審査会合)

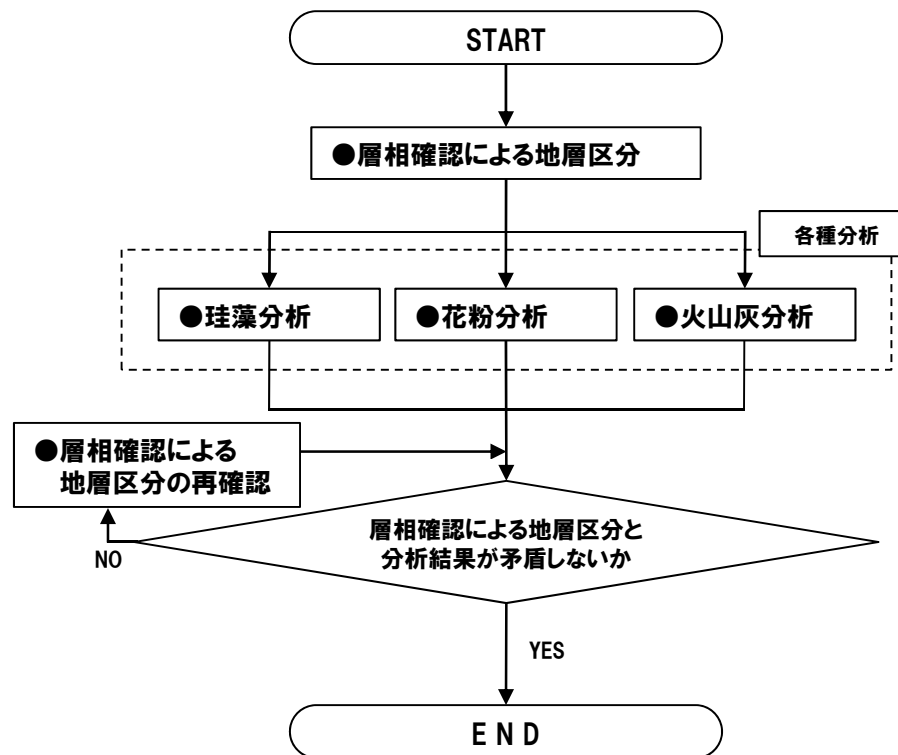


梨野舞納地点ボーリング柱状図

## ④-12 III層及びIV層の地質時代(ボーリングコアの地層区分)

再掲(H27/5/29審査会合)

- ボーリングコアの地層区分は、以下のフローに基づき実施した。
- 泊発電所が位置する積丹地域においては、第四系下部～中部更新統の岩内層及び野塚層が分布しており、層相が類似するものと考えられることから、これらの地層について整理した。



本調査でのボーリングコアの地層区分フロー



# 3. 各層の地質時代

④-13 III層及びIV層の地質時代(敷地周辺における下部~中部更新統(-1/3-))

一部修正(H27/5/29審査会合)

○敷地周辺には、下部~中部更新統の以下の地層が分布しており、層相は粘土(シルト)、砂及び礫を主体とする。

- ①積丹地域:野塚層, 岩内層
- ②尻別川地域:三和(みつわ)層, 鮎川層, 尻別川層
- ③黒松内低地帯地域:知来川(ちらいがわ)層, 瀬棚層
- ④弁慶岬西方地域:歌島(うたじま)層

○層相に加え、鷹澤(1992)及び小嶋ほか編(2003)によれば、敷地周辺は、前期~中期更新世には、広い範囲で海域主体の堆積環境であったことが推定される。

敷地周辺の地質層序表

| 地質時代 | 地層名    |              |                         |             |                              |                              |                              |                              | 主な岩相                         |                              |                              |                              |                              |                              |                              |                              |                              |
|------|--------|--------------|-------------------------|-------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
|      | 積丹地域   |              | 尻別川地域                   |             | 黒松内低地帯地域                     |                              | 弁慶岬西方地域                      |                              | 積丹地域                         |                              | 尻別川地域                        |                              | 黒松内低地帯地域                     |                              | 弁慶岬西方地域                      |                              |                              |
| 第四紀  | 更新世    | 沖積層          | 沖積層                     | 沖積層         | 沖積層                          | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       | 礫・砂・粘土                       |                              |
|      |        | 低位段丘堆積物      | 低位火山麓扇状地堆積物<br>扇状地II堆積物 | 扇状地I堆積物     | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      |
|      | 後期     | 低位段丘堆積物      | 扇状地II堆積物                | 扇状地I堆積物     | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      | 低位火山麓扇状地堆積物                  | 扇状地II堆積物                     | 扇状地I堆積物                      | 扇状地I堆積物                      |
|      | 中期     | 高位段丘堆積物及び発足層 | 高位火山麓扇状地堆積物             | 高位火山麓扇状地堆積物 | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位段丘堆積物                      | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位段丘堆積物                      | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  | 高位火山麓扇状地堆積物                  |
| 前期   | 野塚層    | 岩内層          | 赤井川粘土層                  | 赤井川火山岩類     | 鮎川層                          | 三和層                          | 瀬棚層                          | 中部層                          | 歌島層                          | 砂・礫                          | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         |                              |
|      | 余別層    | 赤井川粘土層       | 赤井川火山岩類                 | 赤井川火山岩類     | 尻別川層                         | 三和層                          | 瀬棚層                          | 中部層                          | 歌島層                          | 砂・礫                          | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         | 砂・粘土                         |                              |
| 第三紀  | 鮮新世    | 神恵内層         | 神恵内層                    | 神恵内層        | 神恵内層                         | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          |                              |
|      |        | 知来川層         | 知来川層                    | 知来川層        | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         | 知来川層                         |
|      | 後期     | 神恵内層         | 神恵内層                    | 神恵内層        | 神恵内層                         | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          |                              |
|      | 中期     | 古平層          | 古平層                     | 古平層         | 古平層                          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          | 安山岩質火砕岩<br>砂岩・礫岩・泥岩          |                              |
| 漸新世  | 茅沼層    | 茅沼層          | 茅沼層                     | 茅沼層         | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 |                              |
|      | 始新世    | 茅沼層          | 茅沼層                     | 茅沼層         | 茅沼層                          | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 | 泥岩・安山岩質火砕岩<br>流紋岩質火砕岩及び同質火砕岩 |
| 白亜紀  | 花崗岩類   | 花崗岩類         | 花崗岩類                    | 花崗岩類        | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         | 花崗岩類                         |                              |
|      | リヤムナイ層 | リヤムナイ層       | リヤムナイ層                  | リヤムナイ層      | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       | リヤムナイ層                       |                              |
| 先白亜紀 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層       | リヤムナイ層                  | リヤムナイ層      | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        | 頁岩・砂岩                        |                              |

~~~~~ : 不整合

④-13 III層及びIV層の地質時代(敷地周辺における下部～中部更新統(-2/3-))

一部修正(H27/5/29審査会合)

○積丹地域には、下部～中部更新統の岩内層及び野塚層が分布している。

【岩内層】

- 岩内平野に分布し、砂、礫等からなる。
- 本層の形成年代に関しては、砂層中の凝灰岩を対象としたFT法年代測定値約1.2Maが得られている。
- 本層は層相及び層位的に尻別川地域の鮎川層、黒松内低地帯地域の瀬棚層の中部～上部、弁慶岬西方地域の歌島層に対比される。

【野塚層】

- 積丹地域全域に分布する砂、礫等からなる地層であり、主に神威岬及び積丹岳北麓に分布する。
- 資源エネルギー庁(1985)によれば、本層の暗灰色シルト岩中に石灰質ナノ化石の*Gephyrocapsa oceanica**が報告されている。
- 資源エネルギー庁(1985)によれば、本層は広義の瀬棚層に対比され、鮮新世～更新世(2009年の国際地質科学連合(IUGS)批准によって定められた第四紀の定義に基づくと更新世に該当)に属すると推定されるとされている。
- 岩内層は本層の上部層相当に対比され、同時異相である。

【岩内平野における岩内層及び野塚層の位置付け】

- 今回調査範囲である岩内平野においては、岩内層が分布することから、岩内層下位の砂・礫等からなる下部更新統の地層を便宜的に「野塚層(下部層相当)」と呼称する。

**Gephyrocapsa oceanica* は、Okada and Bukry(1980)のCN13b亜帯を産出下限とし、亀尾・佐藤(1999)によれば、産出下限は1.65Maとされる。

3. 各層の地質時代

④-13 III層及びIV層の地質時代(敷地周辺における下部~中部更新統(-3/3-))

一部修正(H27/5/29審査会合)

敷地周辺の地質層序表

| 地質時代 | 地層名 | | | | | | | | 主な岩相 | | | | | | | |
|------|------|--------------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|
| | 積丹地域 | | 尻別川地域 | | 黒松内低地帯地域 | | 弁慶岬西方地域 | | 積丹地域 | | 尻別川地域 | | 黒松内低地帯地域 | | 弁慶岬西方地域 | |
| 第四紀 | 更新世 | 沖積層 | 沖積層 | 沖積層 | 沖積層 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 |
| | 後期 | 低位段丘堆積物 | 低位段丘堆積物 | 低位段丘堆積物 | 低位段丘堆積物 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 |
| | 中期 | 中位段丘堆積物 | 中位段丘堆積物 | 中位段丘堆積物 | 中位段丘堆積物 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 |
| | 前期 | 高位段丘堆積物及び発見層 | 高位段丘堆積物 | 高位段丘堆積物 | 高位段丘堆積物 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 | 礫・砂・粘土 |
| 第三紀 | 漸新世 | 野塚層 | 赤井川粘土層 | 鮎川層 | 瀬棚層 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 | 砂・礫 |
| | 中新世 | 岩内層 | 赤井川火山岩類 | 尻別川層 | 中部層 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 |
| | 後期 | 余別層 | 赤井川火山岩類 | 尻別川層 | 中部層 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 |
| | 中期 | 神恵内層 | 赤井川火山岩類 | 尻別川層 | 中部層 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 |
| 古第三紀 | 漸新世 | 茅沼層 | 赤井川火山岩類 | 尻別川層 | 中部層 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 |
| | 始新世 | 岩内層 | 赤井川火山岩類 | 尻別川層 | 中部層 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 | 安山岩質火砕岩 |
| 白亜紀 | 白亜紀 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 | 花崗岩類 |
| | 先白亜紀 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 | リヤムナイ層 |

岩内層:岩内平野(今回調査範囲)に分布

岩内平野では、便宜的に「野塚層(下部層相当)」と呼称

野塚層:積丹地域全域に分布

~~~~~ : 不整合



## ④-14 III層及びIV層の地質時代(岩内層の特徴)

再掲(H27/5/29審査会合)

- ボーリングコアにおける岩内層及び野塚層(下部層相当)の地層区分を実施するに当たり、岩内層に認められる特徴を文献レビュー及び当社地表地質踏査結果に基づき整理した。
- 岩内層の特徴から、岩内層の層相を以下のように解釈し、野塚層(下部層相当)との地層区分の着目点とした。

## 岩内層の特徴

## 【文献】

- 広川・村山(1955)「5万分の1地質図幅 岩内」によれば、岩内層は、「岩内砂層」と呼称され、主要岩質は砂とされている。
- 岩内砂層は、岩内東方に分布し、ところどころに厚さ10数mの崖をつくって露出しているとされている。

## 【当社地表地質踏査結果】

- 岩内平野において、厚さ10数mの砂層主体の岩内層の露頭を確認している。
- 野塚層(下部層相当)と同時期に堆積した黒松内低地帯地域の瀬棚層下部層(前期更新世)の露頭における固結度は、岩内層の露頭における固結度と比較して大きい状況が認められる(次頁参照)。

## 岩内層の層相解釈

(=野塚層(下部層相当)との地層区分の着目点)

## 【着目点①】

岩内層は、砂層主体の層(浅海～陸域の堆積環境)が連続するものと推定される。

## 【着目点②】

岩内層の固結度は、野塚層(下部層相当)と比較して、小さいものと推定される。

## 【着目点③】

層相が砂層主体から変化する範囲に、岩内層と野塚層(下部層相当)の地層境界が存在するものと推定される。

※3つの着目点を複合的に考慮し、岩内層と野塚層(下部層相当)の地層区分を実施する。

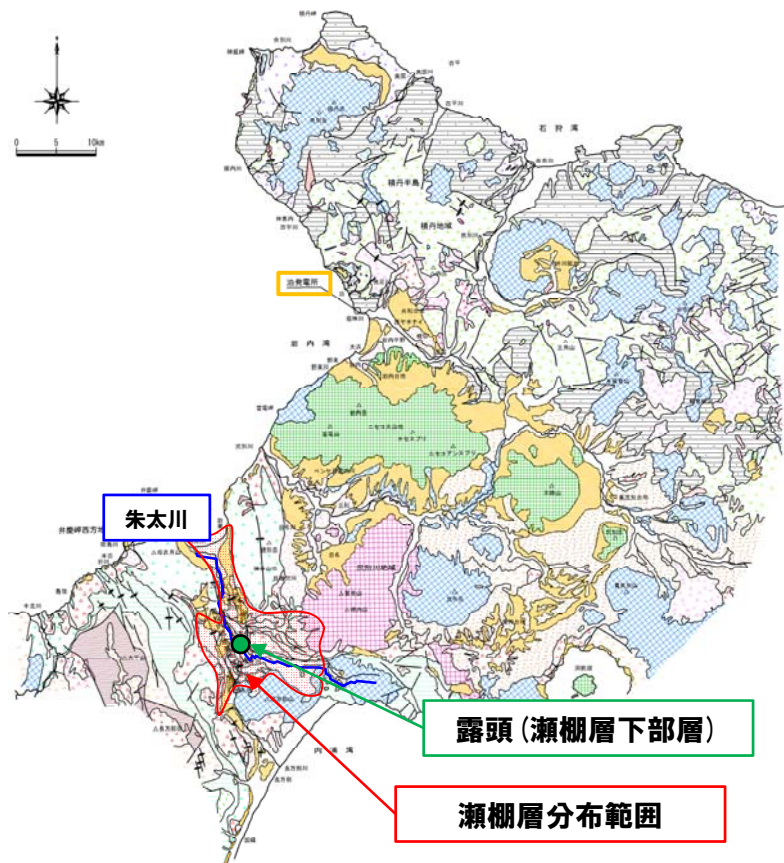
余白

### 3. 各層の地質時代

#### ④-15 III層及びIV層の地質時代(瀬棚層下部層の露頭)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

- 下部更新統～中部更新統の瀬棚層は、黒松内低地帯地域に分布し、「礫及び砂を主体とする下部層」、「砂及び粘土を主体とする中部層」並びに「礫及び粘土を主体とする上部層」に区分される。
- 本層は、下位の黒松内層を不整合で覆い、上位の知来川層に不整合で覆われる。
- 岩内層は瀬棚層の中部～上部に対比されることから、野塚層(下部層相当)は瀬棚層の下部に対比される。
- 当社地表地質踏査の結果、朱太川(しゅぶとがわ)沿いにおいて、野塚層(下部層相当)に対比される瀬棚層下部層(前期更新世)の露頭を確認しており、岩内層の露頭と比較して、固結度が大きい状況が認められる。



敷地周辺陸域の地質図



瀬棚層下部層の露頭状況(砂層)



# 3. 各層の地質時代

## ④-15 III層及びIV層の地質時代(瀬棚層下部層の露頭)

再掲(H27/5/29審査会合)

| 地質時代         |                                                     | 凡 例                                    |                                        |                                          |                 |
|--------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------|-----------------|
|              |                                                     | 種丹地区                                   | 扇形川地域                                  | 扇形内低地帯地域                                 | 扇形内高地方地域        |
| 第四紀          | 更新世                                                 | 沖積層<br>ニセコ火山噴出物等<br>洞爺火砕流堆積物<br>段丘堆積物等 | 沖積層<br>ニセコ火山噴出物等<br>洞爺火砕流堆積物<br>段丘堆積物等 | 沖積層<br>洞爺火砕流堆積物<br>段丘堆積物等<br>知来川層<br>蘇祖層 | 沖積層<br>段丘堆積物等   |
|              | 野塚層・岩内層                                             | 赤井川粘土層<br>赤井川火山岩類                      | 鮎川層<br>雷電岬火山角礫岩層<br>辰別川層               | 赤井川火山岩類<br>扇形山火山岩類                       | 歌島層<br>狩場山礫岩    |
| 新第三紀         | 鮮新世                                                 | 余別層                                    | 磯谷層・泥岩<br>磯谷層・凝灰角礫岩                    | 黒松内層<br>黒松内層火砕岩類                         | 永豊層             |
|              | 中新世                                                 | 神恵内層<br>古平層<br>茅沼層                     | 花崗岩類                                   | 二股層<br>八雲層<br>訓祿層                        | 二股層<br>折川層・硬質頁岩 |
| 古第三紀         | 漸新世<br>～始新世                                         |                                        |                                        |                                          |                 |
|              | 晩新世                                                 |                                        |                                        |                                          |                 |
| 白堊紀          | 花崗岩類                                                |                                        | 花崗岩類                                   |                                          |                 |
| 先第三紀         | リヤムナイ層                                              |                                        |                                        | 沼川層群                                     |                 |
| 第四紀<br>～新第三紀 | 流紋岩<br>デイサイト<br>石英斑岩<br>真入岩類<br>安山岩<br>玄武岩<br>石英閃緑岩 |                                        |                                        |                                          |                 |

記号凡例

|                |    |
|----------------|----|
| 地質境界           | —— |
| 背斜軸<br>(破線は伏在) |    |
| 向斜軸<br>(破線は伏在) |    |
| 断層             | —— |

敷地周辺陸域の地質図 凡例

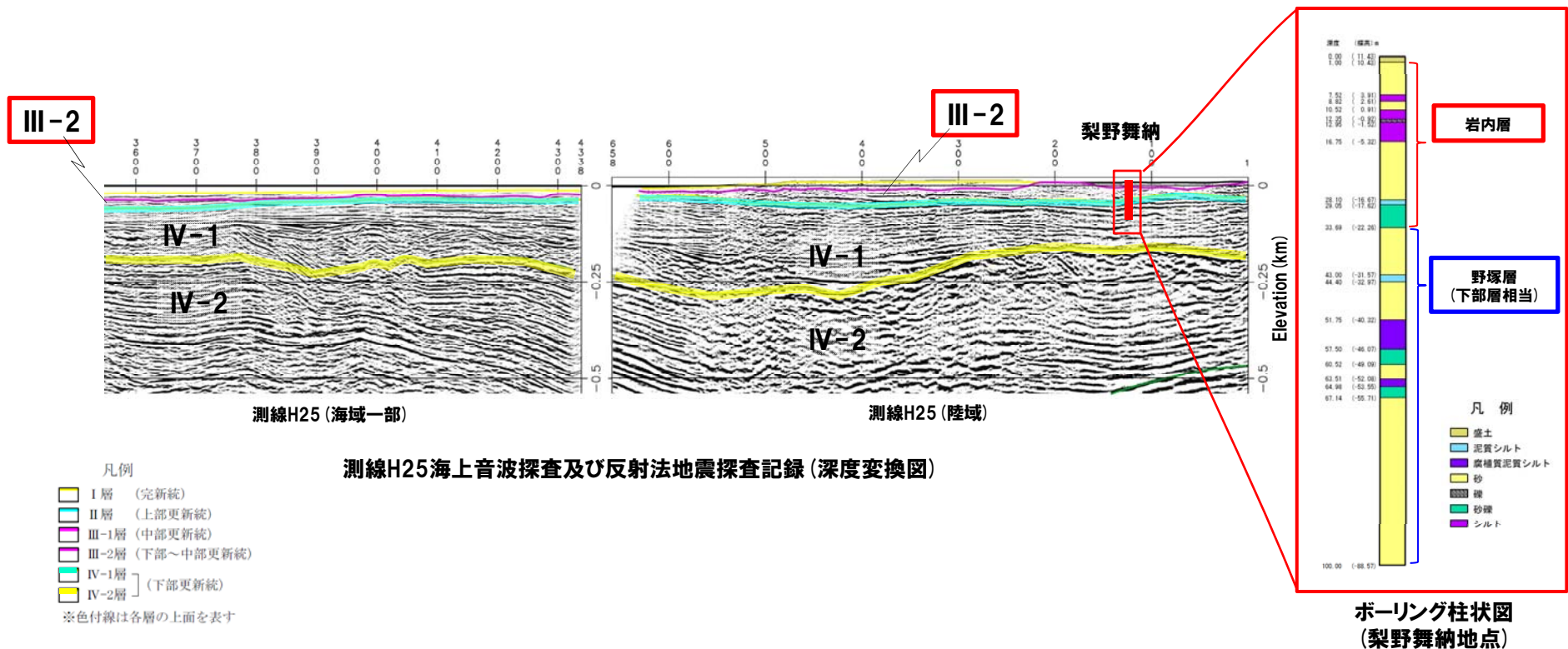
### 3. 各層の地質時代

④-16 III層及びIV層の地質時代 (梨野舞納地点ボーリングコアと測線H25との対比)

一部修正 (H27/5/29審査会合)

○梨野舞納地点のボーリング調査結果と測線H25の海上音波探査及び反射法地震探査記録との対比を実施した結果、以下のことを確認した。

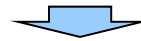
- ・III-2層は第四系下部～中部更新統の岩内層に対比される。
- ・IV層は第四系下部更新統の野塚層 (下部層相当) に対比される。



# 3. 各層の地質時代

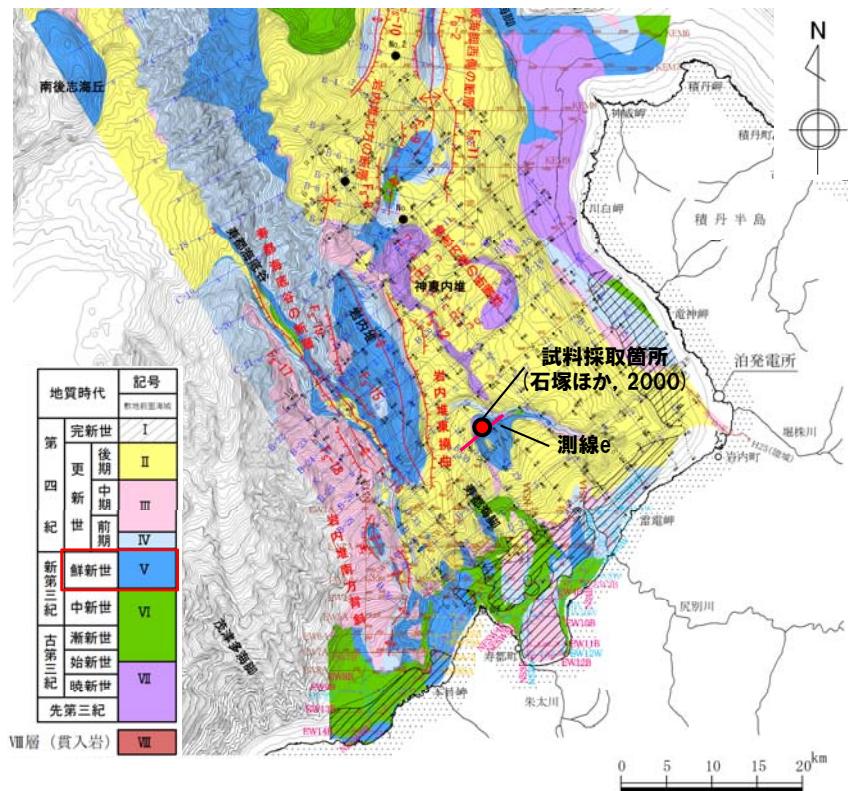
## ⑤ V層の地質時代

- 石塚ほか(2000)によれば、寿都海脚北方の北北西～南南東方向に伸びるリッジ※1の西側斜面でドレッジ※2を行ったとされている。
- 試料採取箇所は、当社海上音波探査測線eに近接しており、投影箇所は、測線eにおける距離呈13km～16km付近のV層が露出している高まりに位置することから、ドレッジにより採取された試料はV層に対比される。
- 石塚ほか(2000)によれば、ドレッジにより採取されたV層に対比される安山岩溶岩及び火砕岩のK-Ar法年代測定値は、約4.1Maとされている。
- また、V層が露出している範囲で採取された試料の微化石分析結果より、新第三系鮮新統に相当する珪藻化石(渡辺,2000)及び放射虫化石(本山,2000)が報告されている。

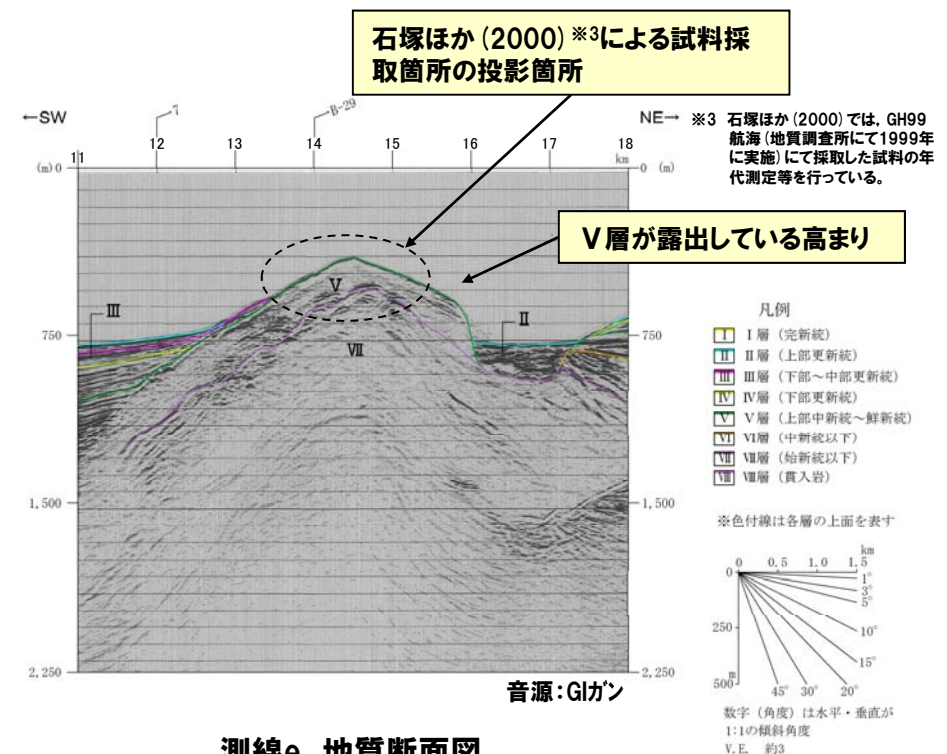


※1 リッジ:平面形として細長く、頂上部が狭く、両側斜面の比較的急な地形  
 ※2 ドレッジ:採泥器を曳航して海底から試料を採取する調査方法

○これらのことから、V層は新第三系鮮新統～第四系下部更新統と判断される。



敷地前面海域の海底地質図



測線e 地質断面図



### 3. 各層の地質時代

#### ⑥VI層及びVII層の地質時代 (-1/6-)

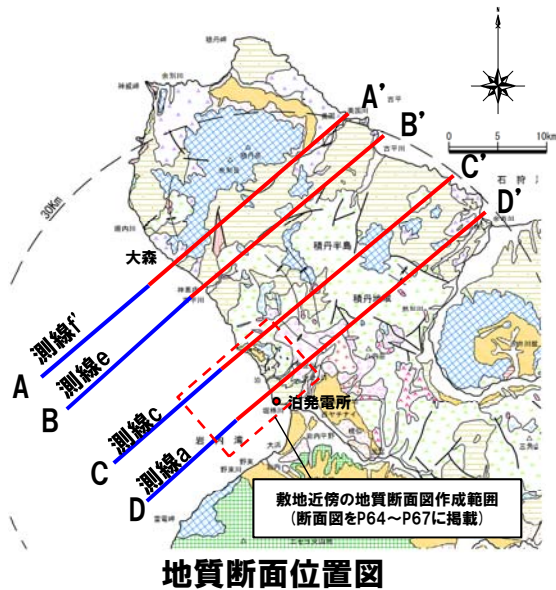
- 陸域と海域の地質構造の連続性を検討するため、海上音波探査記録(測線f', 測線e, 測線c及び測線a)と連続する積丹半島の横断方向について地質断面図を作成した。
- VI層は、陸域の地層分布との対比から積丹地域の神恵内層、古平層及び茅沼層に相当(黒松内低地帯地域においては、二股層以下に相当)するものと推定される。
- VII層は、敷地前面海域における最下位層であり、陸域の地層分布との対比から茅沼層より下位の地層に相当するものと推定される。



○このことから、VI層は古第三系始新統～新第三系上部中新統、VII層は古第三系始新統以下と推定される。

# 3. 各層の地質時代

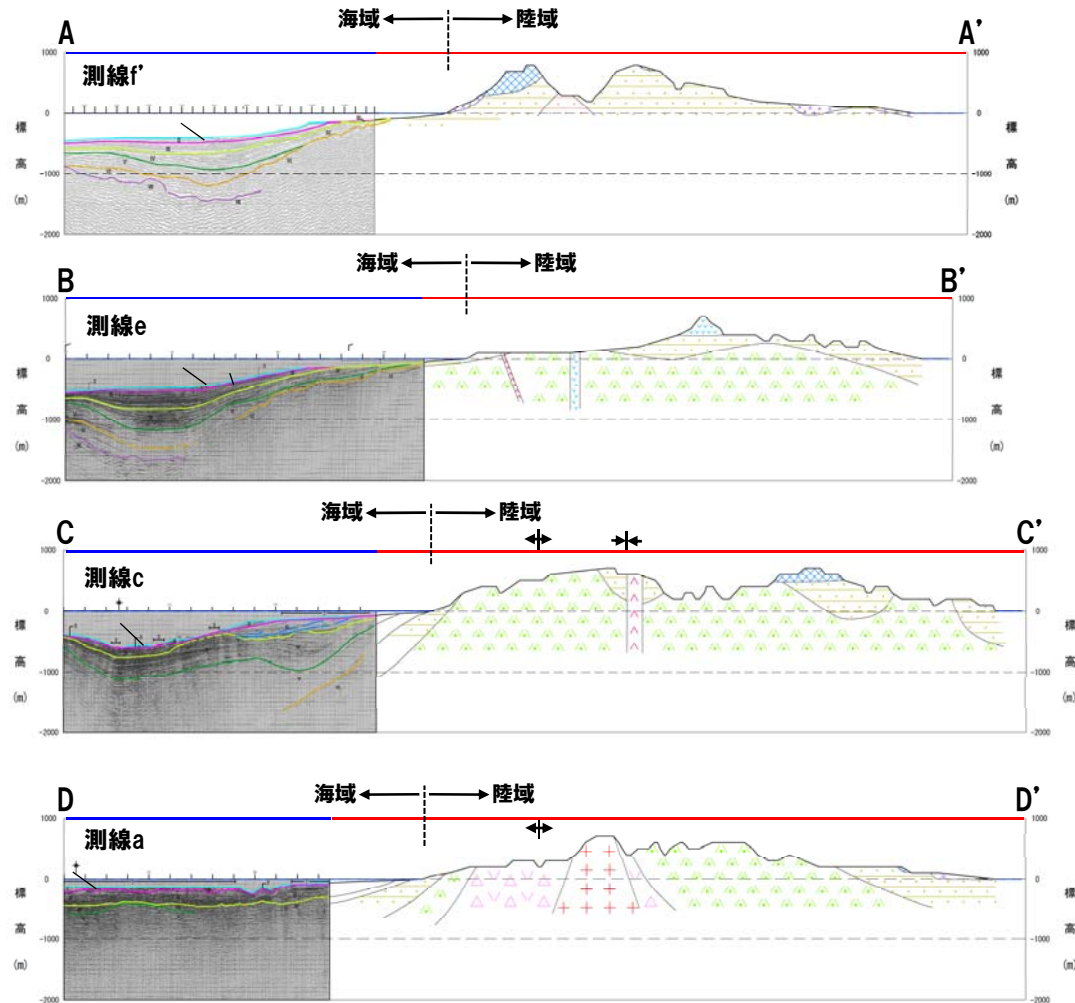
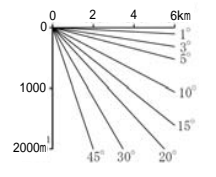
## ⑥ VI層及びVII層の地質時代 (-2/6-)



- 凡例
- I層 (完新統)
  - II層 (上部更新統)
  - III層 (中部更新統)
  - IV層 (下部更新統～中部更新統)
  - V層 (鮮新統～下部更新統)
  - VI層 (始新統～中新統)
  - VII層 (始新統以下)
  - VIII層 (貫入岩)

※色付線は各層の上面を表す

- F<sub>10</sub>-10 断層及び断層番号
- F<sub>4</sub>-2 断層運動に関連する変形
- [ ] 連続しない断層
- ↕ 背斜軸
- ↕ 向斜軸



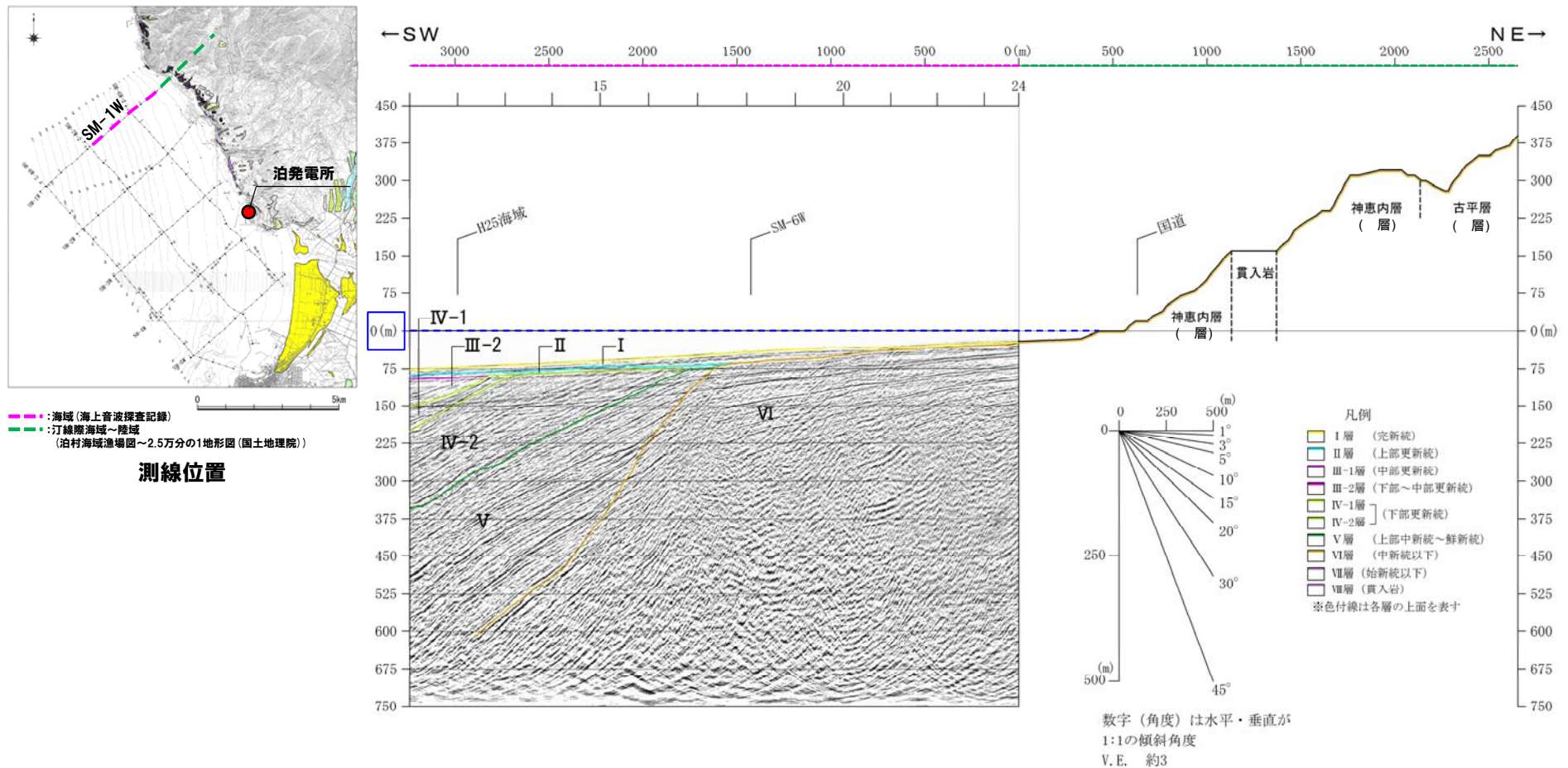
**地質断面図**

| 凡例   |                    |
|------|--------------------|
| 地質時代 | 横丹地域               |
| 第四紀  | 沖積層                |
| 更新世  | 栗栖入浜式埋積物<br>段丘埋積物等 |
| 第四紀  | 扇状地<br>沖積層         |
| 更新世  | 野塚層・岩内層            |
| 第四紀  | 神志内層               |
| 更新世  | 古平層                |
| 第四紀  | 茅沼層                |
| 更新世  | 花崗岩類               |
| 白堊紀  | 花崗岩類               |
| 先第三紀 | シタマシタマ             |
| 第四紀  | 貫入岩                |
| 先第三紀 | 安山岩<br>玄武岩<br>花崗岩類 |

※地質断面図は、海域は当社海上音波探査記録、陸域は当社地表地質踏査結果、石田・三村(1991)、通商産業省資源エネルギー庁(1985)等を参考に作成した。  
 海域-陸域間については、当社海上音波探査記録、当社地表地質踏査の結果等に基づく地質構造から推定した。

# 3. 各層の地質時代

## ⑥VI層及びVII層の地質時代 (-3/6-)

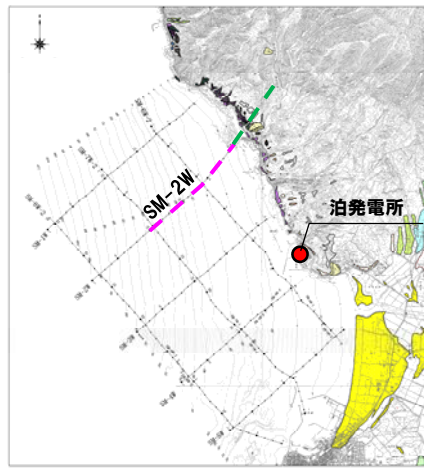


測線SM-1W+陸域断面図



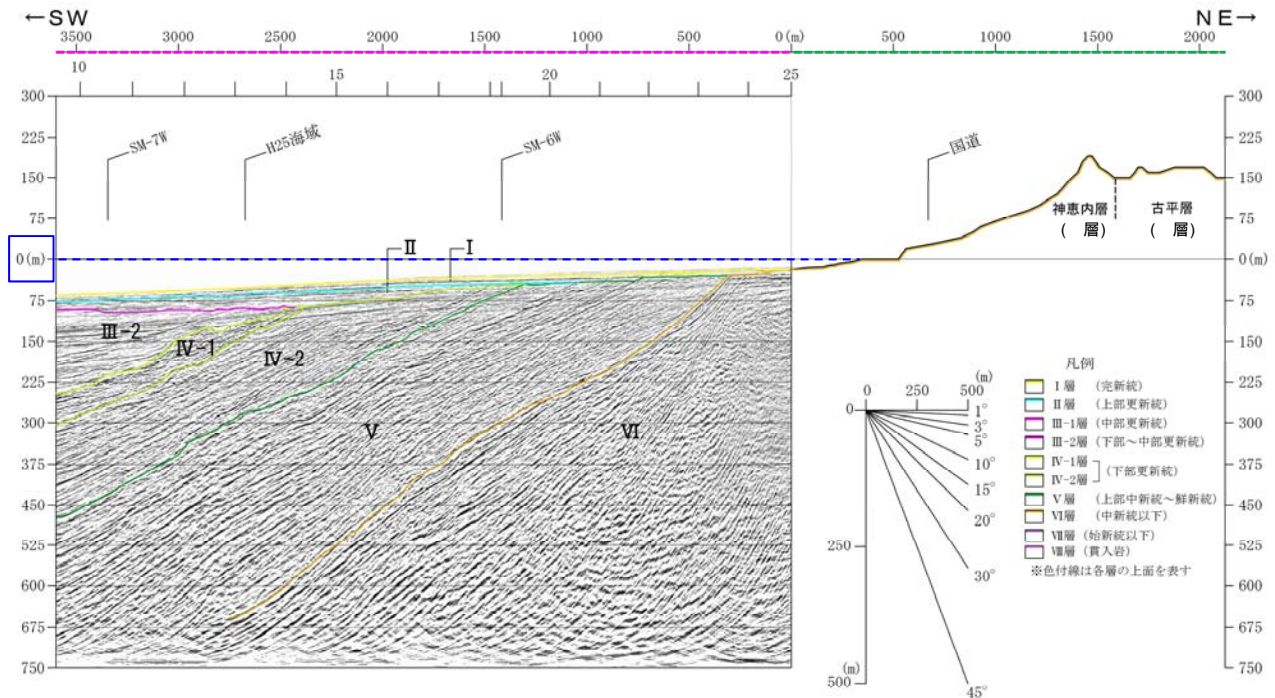
# 3. 各層の地質時代

## ⑥ VI層及びVII層の地質時代 (-4/6-)



— : 海域 (海上音波探査記録)  
— : 汀線際海域～陸域 (泊村海域漁場図～2.5万分の1地形図 (国土地理院))

測線位置

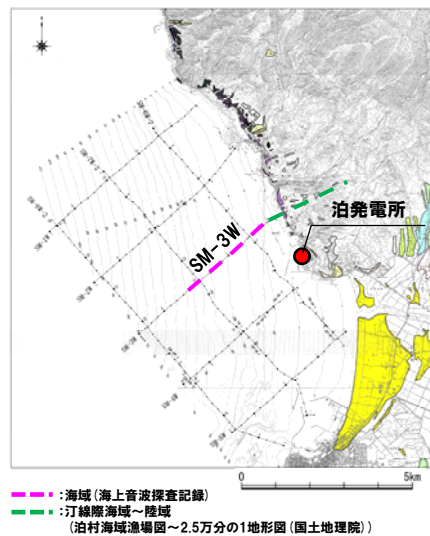


数字 (角度) は水平・垂直が  
 1:1の傾斜角度  
 V.E. 約3

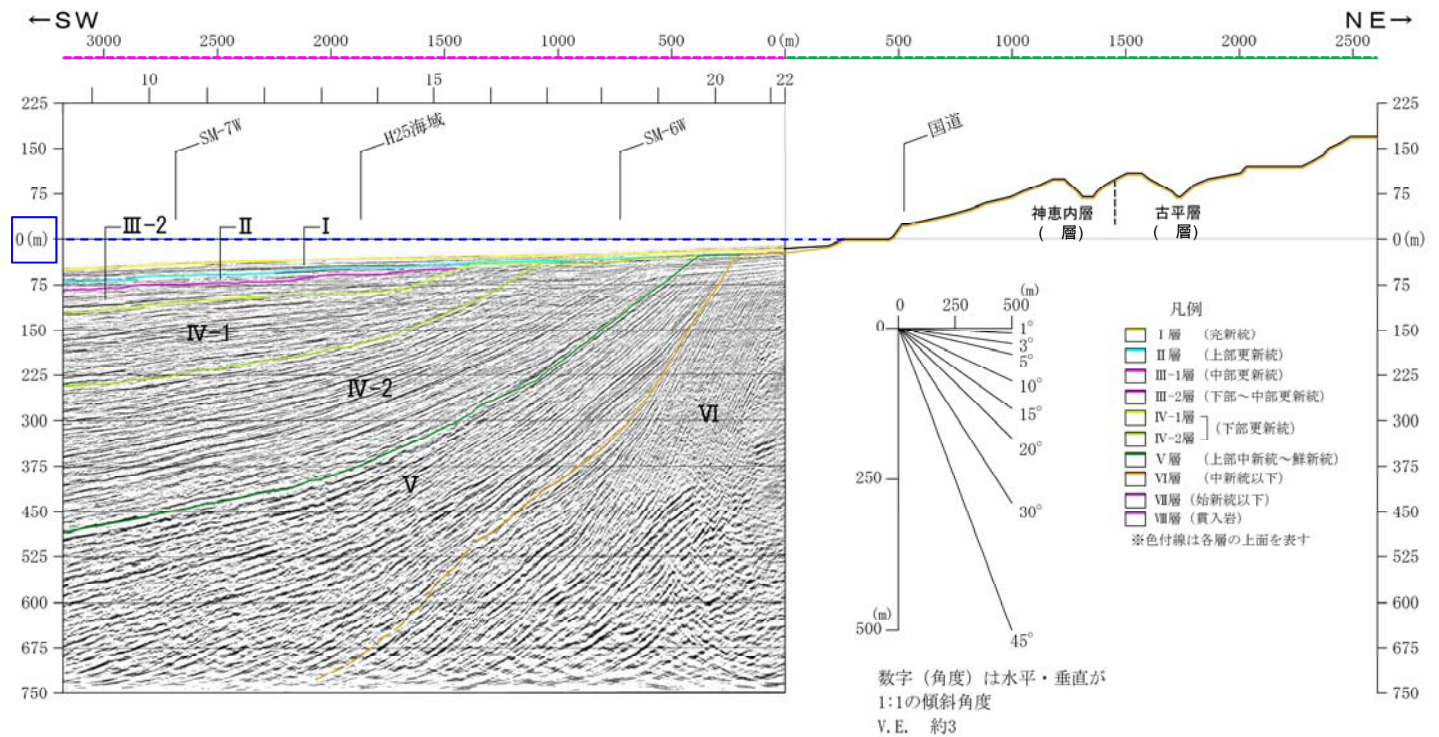
測線SM-2W+陸域断面図

# 3. 各層の地質時代

## ⑥VI層及びVII層の地質時代 (-5/6-)



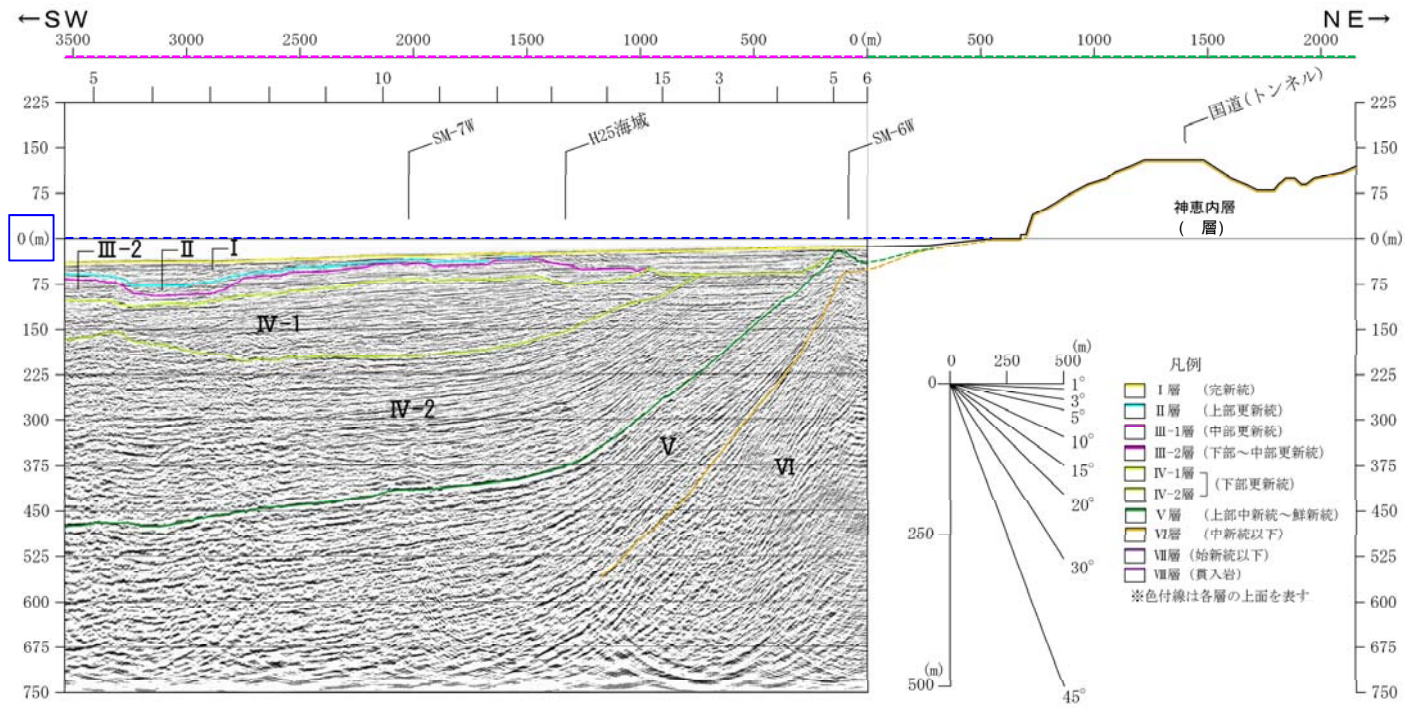
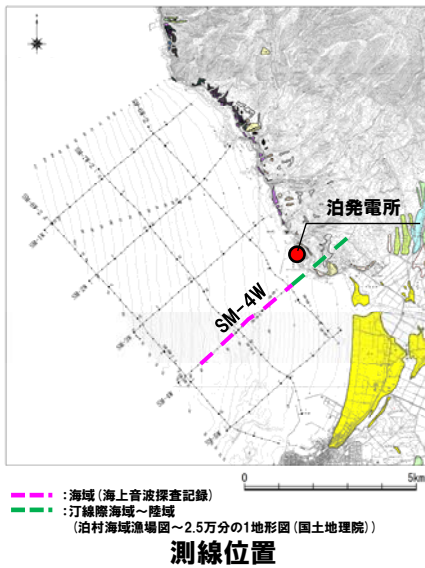
測線位置



測線SM-3W+陸域断面図

# 3. 各層の地質時代

## ⑥ VI層及びVII層の地質時代 (-6/6-)



数字 (角度) は水平・垂直が  
 1:1の傾斜角度  
 V.E. 約3

測線SM-4W+陸域断面図



- (1) 海上保安庁水路部 (1980):100万分の1海底地形図「北海道」
- (2) 松岡俊文・梅戸在明 (1988):反射記録断面に見られるパターン, 物理探査 第41巻, 第6号, pp.448-464.
- (3) 海上保安庁水路部 (1995):5万分の1海底地質構造図「寿都」
- (4) 石塚治・岡村行信・荒井晃作・池原研・片山肇 (2000):北海道西方海域及び秋田沖海域より採取された岩石試料, 北海道西方海域の環境変動に関する総合的研究及び海域活断層の評価手法に関する研究, 平成11年度研究概要報告書, 地質調査所速報, no.MG/00/1, pp.67-89.
- (5) 渡辺真人 (2000):GH99航海で採取された泥岩試料の珪藻化石に基づく年代, 北海道西方海域の環境変動に関する総合的研究及び海域活断層の評価手法に関する研究, 平成11年度研究概要報告書, 地質調査所速報, no.MG/00/1, pp.90-93.
- (6) 本山功 (2000):GH99航海により日本海海底から採取された岩石・堆積物試料の放射虫化石による年代分析, 北海道西方海域の環境変動に関する総合的研究及び海域活断層の評価手法に関する研究, 平成11年度研究概要報告書, 地質調査所報, no.MG/00/1, pp.94-98.
- (7) 池原研・片山肇・中嶋・健 (1996):日本海中部一南東部から採取された柱状試料の加速器質量分析法による炭素14年代, 地質調査所月報 第47巻, 第6号, pp.309-316.
- (8) 新版地学事典編集委員会編 (1996):新版地学事典, 平凡社.
- (9) 町田洋・新井房夫 (2011):新編火山灰アトラス[日本列島とその周辺], 東京大学出版会.
- (10) 中嶋健・吉川清志・池原研・片山肇・木川栄一・上島正人・瀬戸浩二 (1996):日本海南東部における海底堆積物と後期第四紀層序:特に暗色層の形成時期に関連して, 地質学雑誌, 第102巻第2号, pp.125-138.
- (11) 鷹澤好博 (1992):西南北海道渡島半島の新第三系層序と古地理, 地質学論集 (37), pp.11-23.
- (12) 小疇尚・野上道男・小野有五・平川一臣編 (2003):日本の地形2 北海道, 東京大学出版会.
- (13) 通商産業省資源エネルギー庁 (1985):広域調査報告書積丹地域.
- (14) Okada, H. and Bukry, D. (1980):Supplementary modification and introduction of code numbers to the low-latitude coccolith biostratigraphic zonation (Bukry,1973;1975), *Marine Micropaleontology*(5), pp.321-325.
- (15) 亀尾浩司・佐藤時幸 (1999):石灰質ナンノ化石層序の最近の知見とその応用-とくに常磐海域坑井の新第三系・第四系層序について-, 石油技術協会誌 64 (1), pp.16-26.
- (16) 広川治・村山正郎 (1955):5万分の1地質図幅説明書「岩内」, 通商産業省工業技術院地質調査所.